

14.5  
756

14. 5-756  
1200501218553

北經調査刊行書第二十五號  
工藤 久吉  
北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麥に對する  
採算比較

始



14.5

750

昭和十三年四月二十八日  
北經調查刊行書第二十五號

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の  
大豆、小麥に對する採算比較

滿鐵・北滿經濟調查所

昭和十三年四月二十八日  
北經調査刊行書第二十五號



北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の  
大豆  
小麥に對する採算比較

發行所寄贈本



滿鐵・北滿經濟調査所

14.5  
756

はしがき

一 本書は北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麥に對する採算關係を比較せるものなるが、費價計上法其他中には尙幾多不備の點もあるべく、而も調査口數多からざるを以て本調査の結果を以て直に北滿に於ける亞麻及甜菜栽培の全般とは思惟し難けれど共少く共之等作物の栽培が農民に對し左程の有利性を齎し居らざることとは窺知し得らるべし

一 擔當者 鐵道總局産業課哈爾濱在勤員 工藤久吉

昭和十三年四月二十八日

北滿經濟調査所

一 調査の目的

（一）

（二）

（三）

（四）

（五）

目次

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の  
大豆、小麥に對する採算比較（目次）

第一章 緒論.....一

第二章 收支計算方法の内容説明.....二

第一節 生産費評價の方法.....二

イ 種苗費.....二

ロ 肥料費.....二

ハ 勞役費.....三

ニ 農具費.....三

ホ 建物費.....三

ヘ 公租公課.....四

ト 地代.....四

チ 市場運搬費.....四

目次

第二節 收入評價方法の内容説明 ..... 五

第三章 大豆並小麥の生産收支 ..... 六

第一節 大豆生産費並收支計算 ..... 六

A 小農經營に依る生産費並收支計算(大豆耕作二响―五响) ..... 六

a 例 德惠縣第三區榆樹溝 ..... 六

b 例 阿城縣馬家溝屯 ..... 九

c 例 綏化縣大新城窩堡 ..... 一三

B 中農經營下に於ける大豆生産費並收支計算 ..... 一六

a 例 慶城縣小川屯巨源泡 ..... 一六

b 例 巴彥縣第四區興隆鎮附近 ..... 一九

c 例 呼蘭縣雙井子屯 ..... 二二

C 大農經營下に於ける大豆生産費 ..... 二五

a 例 雙城縣第三區正白五屯 ..... 二五

b 例 呼蘭縣許家堡許家窩堡 ..... 二九

各例 大豆收支損益一括表 ..... 三二

第二節 小麥生産費並收支計算 ..... 三三

a 例 阿城縣第四區馬家溝 ..... 三三

b 例 望奎縣匡家店 ..... 三六

c 例 呼蘭縣許家堡許家窩堡 ..... 三九

小麥生産收支損益一括表 ..... 四二

第四章 亞麻並甜菜の生産費 ..... 四四

第一節 亞麻生産費並收支計算 ..... 四四

a 例 海倫縣祥雀鎮 ..... 四四

b 例 雙城縣第三區正白五屯 ..... 四七

c 例 呼蘭縣雙井子屯 ..... 五二

d 例 雙城縣天德興杏山堡 ..... 五五

e 例 海倫縣祥雀鎮 ..... 五九

f 例 呼蘭縣雙井子屯 ..... 六二

亞麻生產收支損益一括表

四  
六六

第二節 甜菜生產費並收支計算

六七

A 某製糖會社と契約作付せる甜菜

六七

a 例 阿城縣正白旗

六七

b 例 阿城縣第四區馬家溝屯

七一

c 例 阿城縣第二區料甸子

七四

B 例 呼蘭縣第二區西三家子屯

七八

b 例 綏化縣大新城窩堡

八一

c 例 雙城縣第三區正白五屯

八五

d 例 巴彥縣第四區聚寶山本屯

八八

e 例 呼蘭縣許家保孟家屯

九二

f 例 巴彥縣第四區興隆鎮附近

九四

甜菜生產收支損益表(响當)

九七

附 康德五年度施行甜菜栽培契約書略記

一〇〇

第五章 亞麻の大豆、小麥との採算比較

康德五年度新改正甜菜栽培契約に基く响當收支計算

一〇五

第一節 亞麻の大豆、小麥との收支比較

一〇七

第二節 亞麻の大豆、小麥との生産費目別比較檢討

一一〇

第六章 甜菜の大豆、小麥との採算比較

一一八

第一節 甜菜の大豆、小麥との收支比較

一一八

第二節 甜菜の大豆、小麥との生産費目別比較檢討

一二九

附 普通作物並甜菜响當所要勞役數比較

一三〇

第七章 北滿に於ける亞麻、甜菜の過去並現狀

一三一

第一節 北滿に於ける亞麻事情

一三一

第二節 北滿に於ける甜菜糖業事情

一三二

第八章 結論

一四三

第一節 亞麻耕作適地並北滿に於ける亞麻作の適否

一四三

第二節 亞麻増産對策

一四七

第一項 亞麻買付妥當値段

一四七

第二項 亞麻増産獎勵具體策

一五一

第三項 亞麻耕作要領

一五二

第三節 甜菜栽培適地並北滿に於ける甜菜栽培適否

一五四

附 甜菜栽培前後に於ける他作物の收量比較

一六一

第四節 甜菜増産對策

一六二

第一項 北滿に於ける甜菜糖業の採算状態

一六二

第二項 甜菜根買付妥當値段

一六四

附 康徳五年一月一日改正滿洲國砂糖輸入税新舊税率比較

一六七

第三項 甜菜増産獎勵具體案

一六八

甜菜栽培要領

一七二



# 北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の 大豆、小麥に對する採算比較

## 第一章緒論

北滿に於ける産業五箇年計畫の一環たる小麥増産計畫と併行し増産獎勵のなされ居る特用作物中の亞麻並甜菜が他の在來作物たる大豆、小麥等に比すれば商品作物として農家の手より直接精製加工工場へ賣却手放さるゝ傾向遙かに濃厚なること、而も之等特用作物が從來大豆作付の部分に代作を目論まれつゝあること等より見るに、兩者の栽培生産費を検討し、其の採算比較を試むることは極めて必要事たるべし假に之等獎勵作物が他の在來主要作物に比し極めて不利なる採算状態を示し、而もその儘放置せらるゝものとせば、農民の之が栽培を喜ばざるは勿論、必ずや單位面積當收量に於て又品質の點に於て低下不良を招來すべく、その結果は遂に所期の目的を達し得ざるに至るべし。

されば之等特用作物の過去に於ける實績並他の主要作物との採算關係等を考慮し、或は又精製品の卸賣相場等より逆算を以て原料品最高買上値を査定する等、種々の方法により之が賣却價格の妥當なる限界を究め以て所期の目的達成に導くと共に併せて農家經濟の増進を圖らしむべき要ありと思料す。

## 第二章 收支計算方法の内容説明

### 第一節 生産費評價の方法

支出に於ける費價計上に當りては、自家供給勞力評價の問題、投下勞力の作業別分割方法、畜力に依る生産勞力評價の問題、農機具作物別使用率決定の問題等々餘りにも複雑なる有機的結合關係をなし居るを以て、その費價を費目別に嚴格なる數字を以て算定するは甚だ困難なりと謂ひ得べし。従て本調査に於ては便法的に比較的妥當と思惟せらるゝ方法を見出し各費目別費價の計上をなせり。

生産物たる穀類の收入評價に在りても、單價決定に必要な市場相場の問題亦容易ならざるものなり。生産費價の費目別算出方法左の如し。

#### イ 種 苗 費

特別手数を要せざる限り精撰勞力費及其他管理消毒等に要せし勞力費並諸費用等は之を省く。即ち播種量に播種期に於ける庭先相場の單價を乗ぜしものを以て種苗費と看做す。

#### ロ 肥 料 費

購入價格の明確なるものは其の價額を、又自家供給の無市價物に付ては、其の生産勞力費を以て肥料代と見做す。

而して肥料費は肥料代、肥料運搬費。並施肥勞力費の合計を施肥年度間の年數にて除したるものとす。

#### ハ 勞 役 費

各作業別（墾地、整地、播種、鎮壓、除草、間引き、中耕培土、收穫、運搬、脱穀、調製秋耕其他等）に要せし人力並畜力費の總和を以て示す、而して人力費は各作業期に於ける平均日傭賃と平均一人當り食料費との合算額に、該作業中要せし延人工を乗ぜしものを以て、又日常畜力費は一日當り牛馬の飼料代及日常役畜減價償却費に其他諸費用（飼養勞力費、裝飾打替費等）を年間勞役日數にて除したる額を加算せるものを以て示す。

#### ニ 農 具 費

農機具の減價償却費は各農機具の購入價格と修繕費との合計を耐久年限にて除したるものとし更に本金額を各作物耕作响數の合計にて除したるものを以て响當農具費と看做す。

（尙嚴密に論及すれば各作物別に其の使用率を定め、以て個々に之が費用を算定すべきものと思料せらるゝも茲には省略せり）

#### ホ 建 物 費

建物費の評價法に付ては農具費の場合と同様、農業上に使用する雇人宿舍、役畜舎、穀物倉庫、農機具倉庫等の建築費並修繕費の合計より一箇年分負擔額を算定し响當農舍費を定む（滿鐵調査月報昭和十二年八月號第百八十一頁參

照)

へ 公租公課

收支計算に當りては總てに地代(小作料)を計上せしが爲租税公課は總てを小作人と假定して算定計上せり。即ち租税課目別に記せば田賦(國税)、响捐義倉捐(縣税)、農會費保甲費其他賦役等の地方費存するも一般慣習に依り國税は地主の又縣税、其他地方費は地主小作人の折半にして地主小作人の負擔比率は大體三對二乃至四對三程度の割合なり。隨て北滿に於ては小作人响當負擔額を一・五圓内外と査定せり。

分益小作の場合に於てもその分益比率は大概六對四なる所より見て其公租公課負擔は右の比率と略同様と觀察せらる。

ト 地代

小作契約には定額小作(金納、又は穀納、但し北滿に在りては殆んど穀納なり)及分益、小作の二法あるが。後者の場合北滿に於ては殆んど四分(地主)六分(小作人)制なり、而して分益なれば當然その年度の豊凶に従ひ小作料も又一定せざるを以て、之が妥當なる算定方法として、其の土地に於ける平年收量を定め、その四〇%を以て地代と見做せり。

チ 市場運搬費

生産物の市場運搬に要する勞役は勞役費中に含まるるものなるも、亞麻、甜菜等に在りては他の一般穀類と異なり

之が支出特に大なる實情に徴し、比較採算に當りては便宜上之を一費目として計上せり。即ち市場運搬に要する日工役畜の數量及往復日數(又は時間)に依り夫々食費或は飼料を加算せる日工費及役畜費を評價計上せり。

第二節 收入評價方法の内容説明

生産物の評價は其の地方に於ける穀類出廻り最盛期に於ける地方市場の相場を以てし、一方別に市場運搬費を支出費目中に設く。

副收入としての莖稈類の評價は其の無市價物に付ては他の有市價物の主要なるものに對する効用價値の比を求め推定せり。例へば燃料としての大豆殻一馬車、二圓の市價を有する場合麥殻か無市價にて自家燃料として消費せらるるとせば、兩者の効用價値の比(假りに〇・八とす)に依つて麥殻一馬車の評價は一・六圓となるが如し。

註 本調査中各作物に對する生産費調査は最近現地に於て直接農民より聞き取り記入せる資料を纏め上げたものにして、地域的には比較的廣範圍に而も各農家經營規模の大小に亘りその標準たり得るものを把握することに努力せるも、日時に餘裕なく、同一場所或は同一農家經營下に於ける各品種につき調査し得ざりしを以て果して妥當なる生産費を示せるや否や疑なきを得ざる憾あり。

北滿に於ける亞麻菰甜菜栽培の大豆、小麥に對する採算比較

### 第三章 大豆並小麥の生産收支

#### 第一節 大豆生産費並收支計算

A 小農經營に依る生産費並收支計算(大豆耕作二响——五响)

a 例場 所 德惠縣第三區榆樹溝

大豆作付响數 二响地  
地 味 中等地。平年收量三・七五舊石、地代一・八舊石

畑地距離 約五滿里

市 場 達家溝、三滿里

施肥回数 三年一回

單 位 舊石||新石三・三石

第一表 a 例 大豆 支出(响當)——德惠縣第三區榆樹溝

種 苗 費	費 目	金 額		備 考	
		數 量	單 價	備	考
三・三	種 子	二・二斗	一・六圓		

合 計	市 場 運 搬	地 代	租 稅 公 課	農 具 費 並 建 物 費	勞 務 費	肥 料 費	備 考	
							畜 力 費	人 力 費
七・八五	一・九三	三・五〇	三・五〇	一・〇三	三・〇四	六・〇三	畜(日工) 一・七五 馬(日工) 一・二八	第三表參照
二・二五	二・八八	一・八八	一・八八	二・二五	二・二五	二・二五	日工費二・八八 畜力費一・四一	大豆、高粱、谷子三種の小作料に依る。第三表參照 但し一日三往復(馬車一臺)。

右表勞務費、肥料費、地代の内譯は次表の如し、尙勞務費(第二表)に付ては作業組織上、單位として二响に付き計七し尙作業順序別に記入せり。

第二表 a 例 勞務費内譯 (二响に付き)

作 業 別	勞 務 費	内 譯		備 考
		人 力 費	畜 力 費	
畦 作	五・〇〇圓	一・七〇圓	三・三〇圓	日工 二人 @
播 種	三・七五	一・七五	二・〇〇圓	日工 一人 @
覆 土	三・一五	一・五〇	一・六五圓	日工 二人 @
除 草	一・〇〇	一・〇〇	〇・〇〇	日工 二人 @
合 計	一三・九〇	六・四五	七・四五	日工 六頭 @ 役畜 三頭 一日食料一人二十五錢 一日馬料一匹五十錢 日工錢・六五圓他に食費 二・五圓

### 第三章 大豆並小麥の生産收支

北滿に於ける距離並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

中耕	除草	中耕	收穫	運搬	脱穀並調整	合計	每响平均
七・六五	八・五〇	七・六五	二・二〇	二・二〇	四・四三	八・二五	四・三〇
二・七〇	八・五〇	二・七〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	四・九一	二・四六
四・九五	一・〇〇	四・九五	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	九・七七	九・七七
日工 三人	日工 一人	日工 三人	日工 一人	日工 一人	日工 一人	日工 五人	日工 五人
④	④	④	④	④	④	④	④
・七〇	・八五	・七〇	・二五	・二五	・二五	・六六	・六六
役畜 九頭	役畜 九頭	役畜 九頭	役畜 三五頭	役畜 三五頭	役畜 三五頭	役畜 一八頭	役畜 一八頭
④	④	④	④	④	④	④	④
・五五	・二五	・五五	・五五	・五五	・五五	・五五	・五五
敷丈三個使用	日工錢・六五圓他に食費	第一次中耕に同じ	日工錢一・〇〇圓他に食費	馬車一臺半日終了	日工錢・八五圓食費・二	二响分合計	二响分合計
④	④	④	④	④	④	④	④
三・三〇	三・三〇	三・三〇	三・三〇	三・三〇	三・三〇	三・三〇	三・三〇

第三表 a例に於ける肥料費並地代内譯表

肥料費	地代	内譯	
		費目	數量
馬車	大豆	一〇〇圓	六舊斗
日工	高粱	六〇圓	六舊斗
日工	谷子	一〇〇圓	六舊斗
日工	合計	一八〇圓	一八頭
馬車	現地價額	六・三〇	一八頭
日工	合計	一九六圓	一八頭
日工	合計	一九六圓	一八頭
合計	合計	一九六圓	一八頭
一箇年當り	合計	一九六圓	一八頭

第四表 a例 大豆收入並收支損益表 (每响地)

收入項目	收量	單價	收入金額	支出金額	差引損益額
大豆	三・七五舊石	一八・五〇圓	六八・六元	(半年收量) 七・一八五	純益 二・一三圓
大豆	一臺	七・〇〇	(運費一・四〇圓) 五・六〇	七・一八五	純益 二・一三圓
合計			七二・〇〇	七二・〇〇	純益 二・一三圓

b例 (大豆生産費並收支計算)

場所 阿城縣馬家溝屯  
 大豆耕作响數 四响地  
 地味 中等地。平年收量 四・五舊石、地代 二・〇舊石  
 畑地距離 三滿里  
 市場距離 一二滿里 (阿城縣城)  
 施肥回数 二年乃至三年に一回  
 單位 舊石||新石三石

第三章 大豆並小麦の生産收支

第五表 例に於ける大豆生産費（每响地）

費目	金額	内		備考
		數量	單價	
種苗費	三・六円	二・三計	一・六円	三年一回施肥とす（運搬、散布を含む）第七表参照
肥料費	七・〇	馬車 一五臺 日工 二一・三頭 畜力 一五・三頭	一・六	
勞務費	三・三	畜力 一五・三頭	一・六	第六表参照
農具費並建物費	一・三	畜力 一五・三頭	一・六	
租稅公課	五・四	畜力 一五・三頭	一・六	租稅其他に積石出產稅並其れが附課稅を加算す。
地代	三・二	畜力 一五・三頭	一・六	
市場運搬	二・〇	畜力 一五・三頭	一・六	阿城縣城內に至る運費一・〇〇圓を差引す、第七表参照
合計	七四・元	畜力 一五・三頭	一・六	

勞役費を作業別に計上するに當り常に見受けらるることなるが、作業別一日の勞耕响數を見るに通常農家に在りては勞作の便宜上各作業に依り一定の役畜數と苦力員數とより成る勞耕グループが存し而もそのグループに依る勞耕响數亦略一定し居ることなり（除草作業を除く）

例へば春耕播種作業或は又中耕培土等に在りては通常一日二响地の勞耕を成すグループあるを以て日工員數は役畜頭數を一响地に付き表はす場合には、勢ひ端數員數或は頭數の存することとなるも這は已むを得ざるものと思料す。

次に例第五表に於ける大豆勞役費の内譯を表示す。二响地に付き計上し然る後合計に於て平均响當數字を算出せり。

第六表 例 第五表に於ける勞役費内譯

作業別	勞役費	内		人力費内譯	畜力費内譯	備考
		人力費	畜力費			
整地	一・六円	一・六円	〇	日工 一人@	役畜 三頭@	拉子使用二响、半日にて終了
畦作	一・六元	一・六元	〇	日工 二人@	役畜 四頭@	大犂丈使用二响、一日にて終了
整地	一・六元	一・六元	〇	日工 一人@	役畜 一頭@	拉子使用、二响半日にて終了
播種	一・六元	一・六元	〇	日工 二人@	役畜 四頭@	一日二响終了
覆土	一・六元	一・六元	〇	日工 二人@	役畜 四頭@	大犂丈使用一日二响終了
鎮壓	一・六元	一・六元	〇	日工 一人@	役畜 一頭@	拉子使用二响、半日終了
除草	一・六元	一・六元	〇	日工 五人@	役畜 一頭@	每响
中耕	一・六元	一・六元	〇	日工 一人@	役畜 三頭@	二响終了
除草	一・六元	一・六元	〇	日工 四人@	役畜 三頭	每响
中耕	一・六元	一・六元	〇	日工 一人@	役畜 三頭	二响終了
收穫	一・六元	一・六元	〇	日工 二人@	役畜 四頭	每响
運搬	一・六元	一・六元	〇	日工 二人@	役畜 四頭	每响

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

合 計	四・〇	三・三	三・三	一・五	日工 五人@	一・三	役畜 六頭@	一・五	二响終了
脱穀	四・〇	三・三	三・三	一・五	日工 五人@	一・三	役畜 六頭@	一・五	二响終了
合計	三・三	三・三	三・三	一・五	日工 五人@	一・三	役畜 六頭@	一・五	二响終了
每响平均	三・三	三・三	三・三	一・五	日工 五人@	一・三	役畜 六頭@	一・五	二响終了
每响平均	三・三	三・三	三・三	一・五	日工 五人@	一・三	役畜 六頭@	一・五	二响終了

第七表 b例 第五表に於ける肥料費並地代内譯

費目	肥料	數量	單價	内譯		地代	數量	單價	内譯
				價額	品名				
肥料代	馬車	一五臺	〇・八	三・〇	大豆	六・七斗	一・五	一〇・八	
肥料運搬費	日工	八頭	〇・八	六・四	高粱	六・七斗	一・五	一〇・八	
肥料散布	日工	二人	〇・八	一・六	谷子	六・七斗	一・五	一〇・八	
合計	日工	八頭	〇・八	三・〇	合計	二・一舊石	一・〇〇	二・一	
一年當り平均	馬車	八頭	〇・八	七・〇	現地價額	二・一舊石	一・〇〇	三・二	
					(運費一・〇〇圓)			三・二	

第八表 b例 大豆收入並收支收益表 (每响地)

收入項目	數量	單價	收入金額	支出金額	差引損益額
大豆	四・五舊石	一六・〇	七二・〇	七四・元圓	二・八圓
大豆穀	一馬車	八・〇	八・〇		
合計			八〇・〇		
			(運費一・八〇圓)		
			七八・二		

c 例 (大豆生産費並收支計算)

場 所 綏化縣大新城窩堡  
 大豆耕作响數 五响地  
 地 味 上等地、平年收量、五舊石。地代二・二舊石  
 畑地距離 六滿里  
 市場距離 二十滿里  
 施肥回数 三年一回  
 單 位 舊石 三・一七舊石

第九表 c例 大豆生産費 (响當)

費目	金額	内		備	考
		數量	單價		
種苗費	三・七圓	年馬車にて	一・二	内譯第十一表參照 三年一回施肥 第一〇表内譯參照 第一表參照 粮石出產稅並附課稅三・〇七圓を含む	
肥料費	七・三	日工	三・五		
勞役費	四・五	馬	〇・八		
農具費並建物費	一・〇	日工	二・四		
租稅公課	四・七	頭人	九・五		
合計	二〇・九	斗	一・九		





北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

大豆	馬車にて一臺	運費二〇〇〇	一六
合計		六・〇〇	一六

(純損) 五〇

B 中農經營下に於ける大豆生産費並收支計算

a 例場 所 慶城縣小川屯巨源泡  
 大豆耕作响數 六响  
 地味 上等地。平年收量五舊石、地代二〇舊石  
 畑地距離 約一五滿里  
 市場距離 二十五滿里(慶城縣城內)  
 施肥回数 四年一回  
 單位 舊制 舊石||新石三・一五石

第十三表 a 例 大豆生産費

費目	金額	内譯		備考
		數量	單價	
肥料費	三・六	一斗	一・六	第十五表參照
種苗費	七・三	一五馬車運搬三臺	〇・八	
合計	一〇・九	一八人	〇・六	

勞役費	金額	内譯		備考
		數量	單價	
農具費並建物費	一・〇			第十四表參照
租稅公課	四・七			
地代	二五〇〇	二〇舊石	一・二五	地方稅小計每响一・五〇圓他に糶石稅三・二五圓合計四・七五圓 大豆、高粱、谷子各々六斗他に小麦一斗計二〇斗第十 五表參照(二人六馬)運搬能力六石とせば五石の運費四、 三三圓となる 人力費計三二・六八圓畜力費計一三・九一圓
市場運搬	四・三	六頭人	〇・七	
合計	八・〇	二五八頭	一・〇	

第十四表 a 例 第十表に於ける勞役費内譯 (每响)

作業別	内譯項目	合計	内譯		備考
			入力費	畜力費	
畦作	三・〇	三・〇	一・四	一・六	勞丈(日工一人馬三匹)使用一日に一响耕作す
整地	六・三	六・三	三・三	三・〇	一日に二响耕作す
播種	三・三	三・三	一・四	一・九	勞丈使用一日一响
覆土	三・〇	三・〇	一・四	一・六	勞丈使用一日一响
鎮壓	六・三	六・三	三・三	三・〇	轆子(一人一馬)使用一日二响鎮壓す
除草	六・〇	六・〇	六・〇	〇	勞丈使用(馬三、人二)一日二响耕作す
中耕	一・三	一・三	一・三	〇	
除草	五・五	五・五	五・五	〇	

第三章 大豆並小麦の生産收支

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

一八

中耕	收穫	運搬	脱穀調製	合計
一・五	四・五〇	四・二五	五・六五	三六・〇七
一・〇〇	四・〇〇	三・〇〇	四・〇〇	三九・五
八三 日工	一 日工	一・六五 日工	一・六五 日工	八八三 日工
一人@一・〇〇	三人@一・五〇	二人@一・三〇	四人@一・〇〇	日工二七・五五人@一・六
馬一・五頭@	馬三頭@	馬三頭@	馬三頭@	馬一六頭@
・五五	・五五	・五五	・五五	・五五
第一次中耕に同じ	馬車一臺(人四人馬六頭)使用半日にて終了	馬六頭使用半日。精撰、堆積袋詰を含む	每响平均勞務費	

第十五表 a例 第十三表に於ける肥料費並地代内譯 (每响)

肥料代	肥料運搬費	施肥費	合計	年平均	肥料費		地代(小作料)内譯		
					數量	單價	品名	數量	單價
馬車にて一五臺	馬車 三臺	日工 二人	日工 十五人	日工 五頭	馬車(三人五馬)	大豆	六斗	一・六元	九・六元
・〇八元	・五〇元	・一〇元	・二六元	・七・三元	馬車(三人五馬)	高粱	六斗	一・〇〇元	六・〇〇元
					小麥	谷子	六斗	一・〇〇元	六・〇〇元
					合計	現地價額	二〇斗	二・〇〇元	二六・四元
					(四年一回)				運費每石・七〇 (運費一・四元)

第十六表 a例 大豆收入並收支損益

收入項目	收量	單價	價	收入金額	支出金額	收支損益
大豆	五・〇舊石		一七・三元	八六・四元	一・元	八五・四元
大豆	馬車一臺		七・〇〇	(運費二・六〇圓)		八二・八元
合計				九〇・〇元		八〇・〇元
						(純益) 七・七元

b例 (大豆生産費並收支計算)

場所 巴彥縣第四區興隆鎮附近  
 大豆耕作响數 八响地。平收四・七舊石、地代二・〇舊石  
 地味 中等地  
 畑地距離 一〇滿里  
 市場距離 二滿里、興隆鎮  
 施肥回数 三年一回  
 單位 舊石||三、一六新石

第十七表 b例 大豆生産費 (每响)

費目	金額	内譯		備考
		數量	單價	
種苗費	三・五〇			
肥料費	七・七三			(他に肥料代三・二〇圓)第十九表參照
勞務費	三・五二			人力費二五・二五圓、畜力費八・二六圓 第十八表參照
農具費並建物費	一・〇三			第一表參照
租稅公課	五・二九			糶石稅並附課稅三・〇六圓を含む
地代	三・〇〇			第十九表參照
市場運搬	二・〇〇			市場距離二滿里
合計	三〇・六六			日工費小計二七・九六圓、畜力費小計一・五六圓、勞務費計三九・五二圓

第十八表 第十七表に於ける勞務費内譯

作業別	金額	内譯		備考
		人力費	畜力費	
畦作	一・二五	〇・四〇	〇・八五	大犂丈(日工二人、馬六頭)一日二响耕作
畦地	〇・五〇	〇・四〇	〇・一〇	〇子(日工一人、馬一匹)同日
播種	〇・三〇	〇・三〇	〇・〇〇	犂丈(日工一人、馬三頭)使用

費目	數量	單價	金額	地名	代(小作料)	數量	單價	金額	内譯
覆土	二・〇〇	〇・八〇	一・六〇	馬	三頭	〇・五〇	一・五〇	大犂丈(日工二人、馬六頭)一日二响耕作	
鏟草	六・〇〇	〇・四〇	二・四〇	馬	五頭	〇・五〇	二・五〇	〇子(日工一人、馬一匹)同日	
中耕	一・六〇	〇・七五	一・二〇	馬	一・五頭	〇・八〇	一・二〇	犂丈(日工一人、馬三頭)一日二响耕作	
除草	五・〇〇	〇・四〇	二・〇〇	馬	五頭	〇・四〇	二・〇〇	犂丈(日工一人、馬三頭)一日二响耕作	
中耕	一・七三	〇・九〇	一・五六	馬	一・五頭	〇・三〇	〇・四五	犂丈(日工一人、馬三頭)一日二响耕作	
收穫	三・〇〇	〇・六〇	一・八〇	馬	三頭	〇・六〇	一・八〇	六頭牽馬車一台半日にて運搬終了	
運搬	四・〇〇	〇・三〇	一・二〇	馬	四頭	〇・三〇	一・二〇	六頭牽馬車一台半日にて運搬終了	
脫穀調製	五・二五	〇・三六	一・八九	馬	三頭	〇・六〇	一・八〇	六頭牽馬車一台半日にて運搬終了	
合計	三三・五三	二・三五	八・六六	馬	一五・五頭	〇・三〇	四・六五	每响平均勞務費	

第十九表 第十七表に於ける肥料費並地代内譯

費目	數量	單價	金額	地名	代(小作料)	數量	單價	金額	内譯
肥料代	馬車にて二二台	〇・三〇	六・六〇	大豆	六・七斗	一・四〇	九・四〇		
運搬費	馬日工二人	〇・三〇	〇・六〇	高粱	六・七斗	一・〇〇	一・〇〇		
施肥費	馬日工二人	〇・三〇	〇・六〇	谷子	六・七斗	一・〇〇	一・〇〇		
合計	馬日工二〇頭人	〇・三〇	三・〇〇	合計	二・〇〇	〇・三〇	〇・六〇		

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

年平均	日工 二・三人 馬 四頭	(三年一回)	七・五	現地價額		(運費・七八圓)
-----	-----------------	--------	-----	------	--	----------

第二十表 b例 大豆收入並收支損益

收入項目	收入内譯	收量	單價	收入金額	支出金額	收支損益
大豆	大豆	四・七舊石	一七・六	八二・九		
大豆	馬車にて	一台	七・〇〇	七・〇〇		
合計				(運費二・〇〇圓) 八七・九		三・九
						(純益)

c例 (大豆生産費並收支計算)

場所 呼蘭縣雙井子屯  
大豆耕作响數 一〇响地  
地味 上等地。平收四・八舊石。地代二・二舊石  
畑地距離 三滿里  
市場距離 二十五滿里  
施肥回数 四年一回  
單位 舊石 新石 二・九五石

第二十一表 c例 大豆生産費

費目	金額	合計	内譯	備考
種苗費	三・九		日工 二・三斗	
肥料費	六・三〇		日工 二・三五	
勞役費	六・六		日工 一・三五	
農具費並建物費	一・〇三		馬 一頭	
公租公課	四・四七		馬 一頭	
地代	三・三		舊石 二・二石	
市場運搬	三・三		日工 四・八舊石	
合計	三・三	三・三	馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二・三五	
			馬 一頭	
			舊石 二・二石	
			日工 四・八舊石	
			馬 二頭	
			日工 二	



北滿に於ける距離並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

畑地距離 三滿里

市場距離 四十五滿里

施肥回数 三年一回

單位 舊石||新石にて二・八五石

第二十五表 a例 大豆生産費 (每响)

費目	内譯		備考
	金額	數量	
種苗費	三・〇〇円	二・〇斗	日工費一・九圓、畜力費一・六五圓
肥料費	六・三〇	日工 三・七人 馬 四馬頭	日工費二・四・九圓、畜力費六圓四一錢
勞役費	三・〇〇	日工 二・九頭 馬 一頭	第二十六表參照
農具費並建物費	一・〇〇		第一表參照
公租公課	四・〇〇		糶石稅並附加稅二・九七圓を含む
地代	六・〇〇		大豆、高粱、谷子三品均納
市場運搬	四・〇〇	日工 二・四頭 馬 二頭	馬車一臺日工費一・五〇圓、畜力費三・三〇圓、計四・八〇圓
合計	七・三〇	日工費二七・五九圓 畜力費一一・三六圓	

第二十六表 勞役費内譯 (第二十五表に於ける)

作業別	内譯		備考
	勞役費	畜力費	
畦作	八・五〇円	日工 五人 @ 〇・七〇円	小衆丈(日工一人馬二匹)使用一日二响耕作す
整地	〇・六〇	日工 五人 @ 〇・七〇円	同右
播種	三・三〇	日工 五人 @ 〇・七〇円	一日に二响播種
覆土	二・二〇	日工 一人 @ 〇・七〇円	大衆丈(二人六馬)使用一日に二响覆土す
鎖壓	五・四〇	日工 四・五人 @ 一・二〇円	大衆丈(一人三馬)使用一日に二响中耕す
除草	一・四〇	日工 五人 @ 一・二〇円	第一次中耕に同じ
中耕	五・六〇	日工 四人 @ 一・四〇円	
除草	一・五〇	日工 五人 @ 一・四〇円	
收穫	四・八〇	日工 三人 @ 一・六〇円	
運搬	三・〇〇	日工 一人 @ 一・二〇円	
脱穀調製	四・八〇	日工 三人 @ 一・二〇円	
合計	三〇・六〇	日工 一九・七人 @ 一・三三円 畜 一二・五頭 @ 〇・五二円	平均响當勞役費

註 一人當勞役費は日工賃の他に食費として二〇圓・三〇圓を加算せるものなり。







北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

大豆	一馬車	(新石にて五・六〇)	(運費二・〇〇)	八〇・三五	八・三五
合計			八六・六〇		八・三五

大豆收支損益

以上比較的廣範圍に亘る各種の場合に付き大豆の收支状態を詳記せるが之が概略を一括表示せば左の如し。

第三十三表 大豆收支損益一括表 (每晌)

ケ	1	ス	支	生	收	生	一	所
例	例	例	例	産	入	産	人	要
例	例	例	例	費	益	損	平	日
例	例	例	例	支	益	益	均	工
例	例	例	例	支	益	損	日	費
例	例	例	例	支	益	損	工	數
例	例	例	例	支	益	損	費	數
A	a	例	例	七二・八五	七三・六〇	二・三五	九・九〇	一九・〇人
B	a	例	例	七四・六〇	八六・〇〇	五・四五	一〇・九〇	二五・三人
B	b	例	例	七四・六〇	九一・〇〇	七・四〇	一〇・七〇	二九・〇人
C	a	例	例	七三・四〇	八七・六〇	四・二〇	一〇・三〇	三二・〇人
C	b	例	例	七三・四〇	八三・六〇	四・八〇	一〇・三〇	三二・〇人
C	c	例	例	七三・三〇	八三・三〇	四・〇〇	一〇・三〇	三二・〇人
平均	b	例	例	八〇・三五	八八・六〇	八・二五	一〇・二五	二四・四人
各例	b	例	例	六六・六〇	八三・七五	一七・一五	一〇・二五	二六・二人

右表にて明なるが如くAのc例に於ける約五・五〇圓の欠損を除けば總て生産費をカバーして各々純益を擧げ居るが而も小規模經營下に於けるA例に比しB例、C例は共に純益増加の傾向を示せり。A中c例に於ける右の欠損は第九表に示せるが如く平均一日當日工賃一・三七圓の高率により勞役費四五・四〇圓の多額に上りし結果(他の諸例に比すれば一八・八〇圓―七・三三圓の増額)なるを以て之を局部的例外として除外し他の諸例の平均値を以て收支純益と看做せば收支純益額は七・一九圓となる。

要するに右調査の範圍に於ける大豆一晌當收支損益は大體平均收量、康德四年度出廻最盛期に於ける平均相場に於て純益約七・〇〇圓程度と推せらる

第二節 小麦生産費並收支計算

a 例場

所	阿城縣馬家溝(第四區)
小麦耕作响數	四响地
地	中等地。小作料一・八石、平年大豆收量四・五石
畑地距離	五滿里
市場距離	阿城十二滿里
施肥回数	二箇年乃至三箇年に一回
單位	舊石  新石三・〇石

第三章 大豆並小麦の生産收支

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

第三十四表 a例 小麦生産費

費目	金額	内		備考
		數量	單價	
種苗費	九・〇〇	四斗	二・二五	
肥料費	八・〇〇	四斗	二・〇〇	
勞役費	一九・四〇	日工	二・四〇圓	第三十六表參照
農具費並建物費	一・〇三	日工	一・四〇圓	第三十五表參照
租稅公課	四・六七	日工	一・七〇圓	第三十六表參照
地代	三・〇〇	日工	一・八〇圓	第三十六表參照
市場運搬	二・六〇	日工	一・七〇圓	第三十六表參照
合計	四七・七五	日工	一・七〇圓	

第三十五表 勞役費内譯 (第三十四表に於ける)

作業別	勞役費	内		備考
		人力費	畜力費	
整地	一・〇〇	日工	二・五〇圓	小拉子(日工一人馬三頭)一日四响整地
條地	一・〇〇	日工	二・五〇圓	條地(日工一人馬三頭)一日二响

第三十六表 肥料費並地代内譯 (第三十四表に於ける)

播種	數量	單價	價額	品名	數量	單價	價額	備考
播種	三斗	三・〇〇	九・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	一日二响
覆土	三斗	三・〇〇	九・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	小扶拉子(一人三馬)一日四响
鎮壓	三斗	三・〇〇	九・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	足踏み
除草	三斗	三・〇〇	九・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	豫丈(日一人三頭)一日二响中耕す
中耕	三斗	三・〇〇	九・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	鎌刀使用
收穫	三斗	三・〇〇	九・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	一馬車(三人四馬)二响分運搬終了
運搬	三斗	三・〇〇	九・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	馬六頭半日
脫穀調製	三斗	三・〇〇	九・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	平均一响勞役費
合計	三斗	三・〇〇	九・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	

第三章 大豆並小麦の生産收支

費目	數量	單價	價額	品名	數量	單價	價額	備考
肥料代	一五台	一・五〇	九・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	
運搬費	八頭	一・二五	一〇・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	
施肥費	六頭	一・〇〇	六・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	
合計	二九頭	一・〇〇	二九・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	
平均	馬工	五・二〇	二六・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	
年平	馬工	五・二〇	二六・〇〇	大豆	六斗	一・五〇	九・〇〇	

第三十七表 小麥收入並損益

收入項目	收量	單價	收入金額	支出金額	收支金額
小麥	三〇石	二・〇〇	六〇〇		
小麥	二〇石	三・五〇	七〇〇		
合計			一三〇〇	六四・七五	二六五・二五

b 例 小麥生産費並收支計算

場所 望奎縣匡家店  
 小麥耕作响數 六响地  
 地味 中等地、小作料二〇〇舊石。平年收量小麥三・五石  
 市場距離 望奎縣城 十二滿里  
 單位 舊石||新石三・二五石

第三十八表 b 例 小麥生産費

費目	金額計	内譯	備考
肥料費	八・〇〇	數量 四・五斗	日工費二・三圓、畜力費二・五〇圓他に肥料代馬車にて約三台二・六七圓
種苗費	七・〇〇	數量 二・七頭	

勞役費	農具費並建物費	租稅公課	地代	市場運搬	合計
三三・五	一・〇	四・八	三・〇	二・〇	六九・三
日工 一六頭			舊石 二・〇石	馬日工 一九頭	
日工費一八・五六圓、畜力費四・六九圓			糧石稅一・三一圓を含む	第四十表參照	
				一馬車(一人馬六頭)半日にて運搬	
				日工費二・四九圓 畜力費	

第三十九表 勞役費内譯 (第三十八表に於ける)

作業別	内譯項目	金額計		内譯		備考
		金額計	人力費	畜力費	人力費内譯	
整地	一・〇〇	一・〇〇	日工 二五人	馬 七五頭	小拉子(一人三馬)使用	
作條	一・〇〇	一・〇〇	日工 五人	馬 一五頭	一、日四响整地	
播種	一・〇〇	一・〇〇	日工 五人	馬 一五頭	一、日三馬使用	
覆土	一・〇〇	一・〇〇	日工 五人	馬 七五頭	一、日二响	
鎮壓	一・〇〇	一・〇〇	日工 一人		整地の後覆土作業をなす、	
除草	一・〇〇	一・〇〇	日工 一人		一日四响	
中耕	一・〇〇	一・〇〇	日工 二人	馬 一五頭	足踏み	
收穫	一・〇〇	一・〇〇	日工 五人	馬 一五頭	一、日二响	
合計	七・〇〇	七・〇〇	日工 二五人	馬 七五頭	一、日二响	

第三章 大豆並小麥の生産收支

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麥に對する採算比較

三八

運搬	二・九〇	一・八〇	一・〇〇	日工一・五人@	一・〇〇	馬二頭@	・五	一馬車(三人四馬)
脱穀並調製	六・三五	五・〇〇	一・三五	日工五人@	一・〇〇	馬二・五頭@	・五	馬六頭半日使用
合計	三三・二五	一八・六五	四・六九	日工二六・五人@	一・二三	馬九頭@	・五	每响平均勞役費

第四十表 肥料費並地代内譯 (第三十八表に於ける)

肥料代	數量	單價	價額	品名	數量	單價	價額	地代(小作料)内譯	
								數量	單價
馬車	一〇臺	八・〇〇	八〇・〇〇	大豆	六・七斗	一・〇〇	六・七〇	馬車	三・〇〇
日工	一六頭	三・〇〇	四八・〇〇	高粱	六・七斗	一・〇〇	六・七〇	日工	一・五〇
日工	二頭	一・〇〇	二・〇〇	谷子	六・七斗	一・〇〇	六・七〇	日工	・九〇
合計	二八頭	二・〇〇	五六・〇〇	合計	二・〇斗	一・〇〇	二・〇〇	合計	三・九〇
平均	日工	二・七頭	七・〇〇	現地價額			七・〇〇	運費	・〇〇
合計	馬車	二・七頭	二一・六〇				二一・〇〇	合計	三・九〇

第四十一表 小麥收入並損益

小麥	收入項目	數量	單價	價額	收入金額	支出金額	收支損益
小麥	收穫量	三・五舊石	二・〇〇	七〇・〇〇	六二・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
合計	計	二馬車	五・〇〇	一〇・〇〇	九七・〇〇	六九・二五	二七・七五

C 例 小麥生產費並收支計算

小麥	合計	二馬車	五・〇〇	(運費) 六・〇〇	九七・〇〇	六九・二五	二七・七五
合計	計	二馬車	五・〇〇	(運費) 六・〇〇	九七・〇〇	六九・二五	二七・七五

場 所 呼蘭縣許家堡  
 小麥耕作响數 一〇响地  
 地 味 中等地、小作料二・〇石、平年小麥收量三・六石  
 施肥回数 三年一回  
 畑地距離 五滿里  
 市場距離 呼蘭縣城へ四五滿里、康金井へ一八滿里  
 單 位 舊石||二・九五新石

第四十二表 C例小麥生產費

種苗費	内譯		備考
	金額計	摘要	
種苗費	六・五	四五斗	一・五

第三章 大豆並小麥の生産收支



北滿に於ける亜麻並甜菜栽培の大豆、小麥に對する採算比較

第四十五表 C例 小麥收入並收支損益

收入項目	收量	單價	收入金額	支出金額	差引損益
小麥	三・六舊石	二六・五圓	九六・六圓	一圓	一圓
小麥	二臺	五・〇圓	一〇・〇圓	一圓	一圓
合計			一〇六・六圓	七・〇圓	九九・六圓
			(運費三・〇圓)		(純益)
			一〇三・六圓		九六・〇圓

四二

小麥收支損益

以上各例に於ける收支状態を一括表示すれば左の如し

第四十六表 小麥收支損益一括表

各例	生産費	收	益	生産損益	平均一日當日工賃	毎响所要日工數
a 例	四・七五圓		八五・〇〇圓	(十)	九圓	一八・八人
b 例	六・二五圓		九七・〇〇圓	(十)	一〇圓	一九・七人
c 例	七・八〇圓		一〇三・〇六圓	(十)	一〇圓	二一・八人
各例平均	七・〇〇圓		九八・〇〇圓	(十)	一〇圓	一九・八人

以上各例平均を見るに生産費は七〇・六〇圓となり第三三表に於ける大豆平均生産費に比すれば五・九六圓の低額を

示せり、大豆種苗費が小麥に比し遙か低廉なるに拘はらず斯の如く低額を示せるは、他の費目に於ける大豆生産費が比較的割高に上る結果と思惟せらる、即ち大豆に在りては勞役費、租税公課、市場運搬費等總て小麥に比し多少高額にして所要勞役に就き見るに小麥の响當所要日工數平均二四・〇人に對し大豆に在りては二六・二人を要し又公租公課に在りては(粮石税並附課税)大豆約三・七五%なるに對し小麥に於ては約一・五%(何れも賣却相場の)に過ぎず、市場運搬費に於ても一般に大豆は小麥に比しその收量の異なるだけ所要運搬費大なり

次に小麥收益欄に於ける各例平均收益は九四・八九圓にして、大豆の八三・七五圓に比すれば一一・一四圓の増額を示せり、這は小麥は大豆に比し收量小なるも例年高値を示し特に本年に至りては十數年來の暴騰高値を來せる結果、大豆相場の常に下押しなるに比すれば比較に及ばざる收益を示せしものと云ひ得べし

即ち小麥の收支純益は昨秋出廻りに於ける相場に於て(右表同欄にも示さるる如く)平年收量と看做し响當純益實に二四・二九圓の多額を示せり







北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麥に對する採算比較

地味 中等地、小作料二・一舊石、平年收量大豆四・五舊石、同小麥三・五舊石  
 市場距離 雙城縣城、四十五滿里  
 施肥回数 三年一回  
 單位 舊石||新石にて二・八石

第五十一表 b例 亞麻生產費

費目	金額計	内譯		備考
		數量	單價	
種苗費	四・八〇円	一袋	四・八〇円	
肥料費	七・七七	日工 三・七 馬工 四・〇	日工費二・六〇圓、畜力費二・〇〇圓、他に肥料代(土糞)三・一七圓、第五十三表、日工費五・六〇圓、畜力費四・四〇圓、第五十二表參照	
勞役費	六・〇〇	馬工 四・八 日工 五・五	馬工(日工二人馬六頭)二・〇圓、畜力費六・〇〇圓、小計九・二〇圓、日工費小計六・九〇圓、畜力費小計二・四〇圓	
農具費並建物費	一・〇三			
租稅公課	一・〇〇			
地代	三・八〇	大豆 二・一 高粱 二・一 谷子 (斗當) 一・〇	大豆七斗、高粱七斗、谷子七斗、第五十三表參照	
市場運搬	九・二〇	日工 二・四 馬工 五・七	日工費三・二〇圓、畜力費六・〇〇圓、小計九・二〇圓、馬車(日工二人馬六頭)二・〇圓、日工費小計六・九〇圓、畜力費小計二・四〇圓	
合計	一〇・六〇			

第五十二表 亞麻勞役費内譯 (第五十一表に於ける)

作業別	金額計	内譯		備考
		人力費	畜力費	
邊地	二・三〇円	日工 一・〇	馬 三頭@	糞丈(日工二人馬六頭)使用一日二响
整地	一・一五	日工 一・一五	馬 一・五頭@	撈子(日工一人馬三頭)使用一日二响
碎土	三・三〇	日工 三・三〇		鋤斗を以て碎土塊
播種	二・四〇	日工 二・四〇		
覆土	一・〇〇	日工 一・〇〇	馬 一頭@	木枝撈子使用
除草	二・〇〇	日工 二・〇〇		受請者に一响分
除草	一・〇〇	日工 一・〇〇		除草費一二圓支拂ふ
收穫	一・〇〇	日工 一・〇〇		
天日乾燥	三・九〇	日工 三・九〇		
運搬	二・八五	日工 二・八五	馬 三頭@	馬車一臺(日工二人馬六頭)半日使用
脱穀調製	八・〇〇	日工 八・〇〇		
合計	六・〇〇	日工 六・〇〇	馬 八・五頭@	每响平均勞役費

第五十三表 肥料費並小作料内譯 (第五十一表に於ける)

費目	肥料		小作料		品名	數量	單價	價額
	數量	單價	數量	單價				
肥料代	馬車にて二臺	八・〇円	大豆	七舊斗	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
肥料運搬	馬工 二頭	二・〇	高粱	七舊斗	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
施肥	日工 三人	三・〇	谷子	七舊斗	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
合計	日工 一人	一・〇	現地	二一舊石	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
平均	馬工 三頭	三・〇	運費	二一舊石	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
年	馬工 七頭	七・〇	合計	二一舊石	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇

等五十四表 b例 亞麻收入並收支損益 (平年作に於ける)

收入項目	數量	單價	價額	收入金額	支出金額	收支損益
亞麻	三、〇〇〇斤	二・〇	六・〇	六・〇	一・〇	一・〇
子實	八〇〇斤	三・〇	二・四	二・四	一・〇	一・〇
合計	三、八〇〇斤	一・〇	九・四	九・四	一・〇	一・〇

因に左に同地に於ける豐年作亞麻收支を記せば次の如し

第五十五表 b例 豐年作に於ける亞麻收支損益 (每响)

收入項目	數量	單價	價額	收入金額	支出金額	收支損益
亞麻	四、〇〇〇斤	二・〇	八・〇	八・〇	一・〇	一・〇
子實	一、〇〇〇斤	四・〇	四・〇	四・〇	一・〇	一・〇
合計	五、〇〇〇斤	一・〇	一二・〇	一二・〇	二・〇	二・〇

支出金額合計一・八・七五圓はb例平年作の場合に於ける支出金額一〇八・六〇圓に、左表第五十六表に依て示さるる如く勞役作業中の收穫、天日乾燥、運搬、脱穀調精等並に市場運搬費等の費目に於ける支出増加部分を加算せるものなり

第五十六表 b例 亞麻豐年作の場合に於ける支出増加部分

費目	比較支出		役畜費	合計	平年作に於ける	増加額
	數量	日工費				
收穫	一二二人	一五・〇	一・〇	一六・〇	一三・〇	三・〇
天日乾燥	四人	五・〇	一・〇	六・〇	三・〇	三・〇
運搬	一五人	一八・〇	四頭	二二・〇	一八・〇	四・〇
脱穀調精	一〇人	一〇・〇	一五頭	二五・〇	二〇・〇	五・〇
市場運搬	六人	四・〇	一五頭	二〇・〇	一五・〇	五・〇

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

五二

合 計	三三・五人	七〇・四〇	一九頭	九・七〇	(馬車三臺)	四七・一〇	三九・九五	一〇・一五
平年作に於ける日工 役畜數計	二六人	二九・三〇	一五頭	七・六五		三六・九五		

c 例 亞麻生産費並收支計算

場 所 呼蘭縣雙井子屯

亞麻作付响數 二〇响地 (實際は二・五响地播種したるも新道開通に依り〇・五响は收穫皆無となる)

地 味 上等地、小作料二・二舊石、他に高粱東一〇〇箇、平年收量大豆五・〇舊石、小麦四・〇舊石

畑地距離 一滿里乃至二滿里

市場並距離 呼蘭縣城約廿五滿里

施肥回数 三年一回

單位 舊石 新石二・九五石

第五十七表 c 例 亞麻生産費

種 苗 費	内 譯		備 考
	金額計	數量	
四・〇〇	一袋	四・〇〇	

肥料費	四・三〇	馬日工	一・二七	日工費一・二九圓、畜力費一・〇〇圓、他ニ肥料代二・
勞 役 費	四・三五	馬日工	三・六〇	日工費一・五九圓、畜力費一・〇〇圓、他ニ肥料代二・
農具並に建物費	一・〇三	馬日工	七・五〇	日工費三・八七五圓、畜力費三・五〇圓
租 稅 公 課	一・五〇	馬日工	二・二〇	他に高粱穀束百箇 (第五十九表參照)
地 代	二七・九	馬日工	二・二〇	二响分運搬所要日工計七名、役畜數計二五頭 (馬車五臺を要せり一日一回往復)
市場運搬費	九・三〇	馬日工	三・五〇	日工費四二・七四圓、畜力費二一・〇〇圓
合 計	六〇・三〇	馬日工	二二・七〇	

第五十八表 亞麻勞役費内譯 (第五十八表に於ける)

作 業 別	金額計	日 譯		備 考
		人力費	畜力費	
邊地	二・三〇	日工	一・五〇	一 人 @ 七 日 工
整地	〇・六〇	日工	〇・三〇	一 人 @ 二 日 工
播種	〇・三〇	日工	〇・三〇	一 人 @ 一 日 工
覆土	〇・三〇	日工	〇・三〇	一 人 @ 一 日 工
除草	八・〇〇	日工	〇・五〇	一 人 @ 一 日 工
拔地(收穫)	六・〇〇	日工	〇・三〇	一 人 @ 二 日 工

第四章 亞麻並甜菜の生産費

五三

北滿に於ける亜麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

乾燥	運搬	脱穀	調製	合計
二・五	四・〇	四・五	一・〇	四・三
二・五	二・五	四・五	一・八〇	三・七
一日工 二・五人 @ 二・〇	一日工 二・五人 @ 二・〇	小工 一五人 @ 一・五	一日工 二人 @ 二・〇	三日工 三六・五人 @ 二・六
馬	馬	馬	馬	馬
三頭 @	三頭 @			七頭 @
六頭牽き馬車半日使用ス				每响平均勞役費

五四

第五十九表 肥料費並小作料内譯 (第五十七表に於ける)

肥料費	小作料	内譯		品名	数量	内譯		價額
		數量	價額			數量	價額	
馬車にて 八臺	大豆	六・四	六・四	大豆	七・三斗	一・六	一・六	二・六
日工 六頭人	高粱	五・〇	五・〇	高粱	七・三斗	一・〇	一・〇	八・〇
日工 二人	谷子	一・〇	一・〇	谷子	七・三斗	一・〇	一・〇	七・〇
日工 一人	高粱殼	一・三	一・三	高粱殼	一〇〇箇	一・五	一・五	一・五
馬工 一・七	合計	一三・七	一三・七	合計	二二・二舊石	六・〇	六・〇	一三・三
土糞 三臺	現地價額	四・三	四・三	現地價額				一三・九

第六十表 c例 亞麻收入並收支計算

收入項目	數量	單價	收入金額	支出金額	收支損益
亞麻莖	二、八〇〇斤	(每百斤) 二・三	六・六		
子實	八〇〇斤	三・五	二・八		
合計	三、六〇〇斤		九・四	三・五	五・九

d例 亞麻生産費並收支計算

場所 雙城縣天德興杏山堡  
 亞麻耕作响數 二响地  
 地味 上等地 小作料 二・一舊石  
 平常收量大豆、四・八舊石  
 施肥回数 三年一回  
 畑地距離 一〇滿里  
 市場 雙城縣。七十五滿里  
 單位 舊石 || 新石にて二・八八石

第六十一表 d例 亞麻生産費

第四章 亞麻並甜菜の生産費

費目	内譯		備考
	金額計	數量	
種苗費	五・〇〇円	一麻袋	運費二〇圓を加算す 日工費一〇五圓、畜力費一〇圓 他に肥料代馬車にて三年間七畝@一〇圓 日工費三八・四〇圓、畜力費四・五五圓 第六十二表参照
肥料費	四・〇八	馬工 一・五頭	
勞役費	四・九六	馬工 三・六頭	大豆一〇・八五圓、高粱七・七〇圓、穀子六・三〇圓 計二四・八五圓より運費二・六四圓を差引く 日工費五・四〇圓、畜力費四・四〇圓 夏期惡路のため馬車二臺を要す 日工費四四・八五圓、畜力費一〇・〇五圓
農具並建物費	一・〇三	馬工 八・五頭	
租稅公課	一・二五	大豆、高粱、各七斗	
地代	三・三三	馬工 一・五頭	
市場運搬費	九・〇〇	馬工 一・八頭	
合計	八六・七〇		

第六十二表 d例 亞麻勞役費内譯 (第六十一表に於ける)

作業別	内譯		備考
	金額計	畜力費	
換地	二・三〇円	一・二五円	大體丈(二人六馬) 使用一日二响 小體丈(一人三馬) 使用一日二响
換地	一・二五	〇・四〇	
整地	〇・六五	〇・四〇	撈子(一人一馬一日二响)

播種	内譯		備考
	金額計	畜力費	
播種	〇・八〇	〇・八〇	一人@
續壓	〇・六五	〇・四〇	五人@
拔草	七・五〇	七・五〇	三人@
拔草	七・五〇	七・五〇	三人@
拔地(收穫)	一三・〇〇	一三・〇〇	一人@
運搬	四・〇〇	二・〇〇	二人@
脱穀	三・六〇	一・八〇	二人@
調製	一・八〇	一・八〇	二人@
合計	四三・九五	四三・九五	馬 八・五頭@

小工四人を以て日工一人に換算せり (日工賃より)

第六十三表 肥料費並小作料内譯

費目	肥料		小作料	
	數量	單價	數量	單價
肥料代	馬車にて七臺	一・〇〇円	大豆	七斗
運搬費	馬車にて六頭	〇・七五	高粱	七斗
施肥費	日工 二・五人	〇・七五	穀子	七斗
合計			合計	二二・二五石

第四章 亞麻並甜菜の生産費

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麥に對する採算比較

年	平均	日工	一・五人	運	費	每石	一・〇〇	二・六〇
		馬	二頭	現地	價額			三・三〇
			(三年一回)					

第六十四表 亞麻收入並收支計算

收入項目	收量	單價	收入金額	支出金額	收支損益
亞麻	二、六〇〇斤	每百斤 二・〇〇	五・二〇		
子實	八〇〇斤	三・五〇	二・八〇		
合計	三、四〇〇斤		八・〇〇	八・七〇	(純益) 〇・三〇

右を豐年時に於ける條件にて收支を示せば左の如し。

第六十五表 d例 豐年作に於ける收支損益

收入項目	收量	單價	收入金額	支出金額	收支損益
亞麻	三、二〇〇斤	二・〇〇	六・四〇		
子實	九、〇〇斤	四・〇〇	三・六〇		
合計	四、一〇〇斤		一〇・〇〇	九・七〇	(純益) 〇・三〇

※ 運搬、脱穀、調精、市場運搬等に於ける増加諸費用七・一〇圓を追加加算せり。

e 例 亞麻生産費並收支計算

場 所 海倫縣祥雀鎮  
 亞麻作付响數 二・五响地  
 地 味 中等地、小作料二・〇石  
 平年收量大豆四・〇石、小麥三・二石  
 畑地距離 一・五滿里  
 市場 海倫、四十五滿里  
 單 位 舊石||新石三・二二石

第六十六表 e例 亞麻生産費

費目	金額計	内		備考
		數量	單價	
種苗費	五・〇〇	日工	一	運費一・〇圓、實際は三响分三麻袋を二・五响に蒔き込みたれば每响種子代六・〇〇圓 日工費一・六〇圓、畜力費一・六五圓、第六十八表参照 日工費五一・六四圓、畜力費四・〇五圓
肥料費	六・二七	日工	三	
勞役費	五五・六九	馬	三	
農具費並建物費	一・〇三	日工	七	
租稅公課	一・〇〇	馬	一	
		日工	八	
		馬	五	
		日工	三	
		馬	三	
		日工	三	



北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

合 計	三、八〇〇斤	九、一〇〇	一、七〇〇	二、六〇〇
-----	--------	-------	-------	-------

第七十表 e例 豐年作の場合に於ける收支計算

收入項目	收 量	單價(每百斤)	收入金額	支出金額	收支損益
莖	三、六〇〇斤	二・五円	九〇・〇〇		
子	一、二〇〇斤	四・〇〇	四八〇・〇〇		
合 計	四、八〇〇斤		五七〇・〇〇	一三〇・〇〇	四四〇・〇〇

※ 收穫、運搬、脱穀、調精、市場運搬等の諸作業に於ける費用増加部分(日工八人馬九頭)を(一五・六一圓)加算せり。

f例 亞麻生産費並收支計算

場 所 呼蘭縣雙井子屯  
 亞麻作付响數 五・响地  
 地 味 上等地、小作料二・四舊石  
 施肥回数 三年一回  
 市場 呼蘭縣城、約廿五滿里  
 單位 舊石II新石にて二・九五石

第七十一表 f例 亞麻生産費

費目	内 譯		備 考
	金額計	數量	
種 苗 費	四・八〇円	一麻袋	
肥 料 費	三・七〇	一・七車	日工費一・〇七圓、畜費一・〇〇圓第七十三表參照
勞 務 費	五・〇〇	日工 三	日工費三四・六六圓、畜費四・六八圓、小工二人を日工一人として換算せり
農具費並建物費	一・〇〇		
租 稅 公 課	一・五〇		
地 代	三〇・七〇		
市場運搬費	八・〇〇	馬車 一・六臺	第七十三表小作料内譯參照
合 計	八九・三〇	馬車 二・四舊石	五响分運搬に馬車八臺を要せり

註 本地方康徳四年度に於ける日工(大工)平均賃銀は食費を除き約一・〇〇圓程度なり。

第七十二表 勞役費内譯 (第七十一表に於ける)

作業別	金額計		内 譯		備 考
	金額計	内 譯	金額計	内 譯	
地	三・六五円	二・〇〇円	一・五五円	日工 二人@二・〇〇円	馬 三頭@一・五〇円
畜力費	一・一〇円	一・一〇円	一・一〇円	日工 二人@一・〇〇円	馬六頭@一・五〇円

第四章 亞麻並甜菜の生産費





第七十五表 亞麻收支一括表 (一响地に付き)

各例	支出計	收入計	收支損益	所要日工數並平均日工費	耕作响數
a 例	103.6円	106.6円	3.0円	55人 6.4円	一响地作付
b 例	102.6円	98.8円	(-3.8)	57.2人 6.4円	一响地作付
c 例	90.7円	89.6円	(-1.1)	41.7人 6.4円	二响地作付
d 例	86.9円	87.6円	0.7円	44人 6.4円	二响地作付
e 例	117.0円	92.0円	(-25.0)	46.3人 6.4円	二・五响地作付
f 例	89.3円	79.0円	(-10.3)	36.4人 6.4円	五响地作付
平均	93.3円	92.6円	(-0.7)	43.1人 6.4円	

右表に付き、收支損益各例を見るにa例、d例を除き他の四例は總べて缺損を示せるがa例d例に於てもその純益は共に一〇〇圓内外の僅少ななるものにして殆んど收支パーの状態なり。

e例に於ける每响二六・〇九圓の缺損は、所要勞工數比較的大なるにも因るが、大半は日工一人當賃銀一・三一圓の高額なるに因るものにして、生産支出は實に一一七・〇九圓の多額に上れり。

尙e例をも含めたる平均收支損失額七・九五圓は平均一人當日工賃一・〇〇圓—一・一〇圓程度、にして略平年作收量に於ける亞麻每响收支状態と見做すことを得。從て右表に於ける收支損益、所要日工數並平均一日日工賃等の關係

を綜合考察するに、平均一人日工賃を一・〇〇圓程度とし、所要日工者數四三人乃至四五人程度にて足らば略收支償ひ得べしと思料せらる。

要するに亞麻生産費は、大豆、小麦等の在來作物に比すれば後述の甜菜同様、農民の技術的に耕作不慣れなるに因り比較的多額に上る傾きあり、又右表に依り明なる如く所要日工者數一様を缺けるが爲收入に對する支出額比率には可なり大なる開きを認めらる。

然れ共右の如き傾向は當局に於ける亞麻栽培技術の指導と相俟ち農民の栽培度數を重ねるに従ひ、漸次解消するものと思料す。

## 第二節 甜菜生産費並收支計算

A 某製糖會社と契約作付せる甜菜

a 例 場 所 濱綏線阿城縣正白旗

甜菜作付响數 〇・五响地

地 味 中等地。前金小作料金二〇・〇〇圓

畑地距離 五滿里

市 場 阿城縣城 四〇滿里

第四章 亞麻並甜菜の生産費

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

※施肥回数 三年一回

單 位 一布度||新滿斤にて三三斤||一六・四疋

※最近甜菜買付會社たる阿城北滿製糖より無償にて試験的に一部化學肥料を給せしも其の結果は期待せる程の好結果を修め得ざりしと。

第七十六表 a例 甜菜生産費 (半响地に付)

費目	金額計	内		備考
		數量	單價	
種苗費	1.000			
肥料費	3.500			
勞務費	37.900	馬日工 二九 日工 一・五		無償配布 日工費一・二〇圓、役務費一・〇〇圓 土糞代一・三〇圓、第七十七表參照 第七十六表參照 小工二人を日工一人として換算加算せり
農具費並建物費	5.300			
公租公課	7.500			
地代	10.000			
市場運費	17.400	馬日工 二 日工 一・四		一响分小作料前金にて二〇圓 馬車(日工一・五人馬六頭)四臺を要す 日工費五・四〇圓、役務費一・二〇圓 日工費四〇・七五圓、畜費一六・七五圓 半响分合計を二倍せり
合計	70.100			
一响合計	140.200			

第七十七表 甜菜勞務費内譯 (第七十六表に於ける)

作業別	金額計	内		備考
		人力費	畜力費	
整地	3.600	1.600	2.000	馬 四頭@ 畜 四 藜丈使用二回往復
播種	2.000	2.000		馬 一頭日工一人半日終了
鎮壓	500	500		馬 一頭日工一人半日終了
除草	3.200	3.200		馬 一頭日工一人半日終了
中間拔	1.800	1.800		馬 一頭日工一人半日終了
中間耕	1.400	1.400		馬 一頭日工一人半日終了
並草	5.700	5.700		馬 一頭日工一人半日終了
中耕	1.400	1.400		馬 一頭日工一人半日終了
除草	3.200	3.200		馬 一頭日工一人半日終了
收穫	5.000	5.000		馬 一頭日工一人半日終了
藏蔵	8.000	8.000		馬 一頭日工一人半日終了
合計	37.900	37.900		調精を含む 半响平均勞務費

第七十八表 甜菜施肥料内譯 (第七十五表に於ける)

第四章 亞麻並甜菜の生産費





北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

項目	日工	馬工	合計	高梁	穀子	運費	現地價額	損益
肥料運費	六頭	二頭	八頭	六斗	六斗	一斗	一斗	六斗
施肥費	三人	三人	六人	六斗	六斗	一斗	一斗	六斗
年平均	三頭	三頭	六頭	六斗	六斗	一斗	一斗	六斗
响地に付き	三頭	三頭	六頭	六斗	六斗	一斗	一斗	六斗
馬工	三頭	三頭	六頭	六斗	六斗	一斗	一斗	六斗
日工	三頭	三頭	六頭	六斗	六斗	一斗	一斗	六斗
土糞	三頭	三頭	六頭	六斗	六斗	一斗	一斗	六斗
合計	三頭	三頭	六頭	六斗	六斗	一斗	一斗	六斗

第八十三表 b例 甜菜收入並收支損益

收入項目	收量	單價	收入金額	支出金額	損益
甜菜	一七、七八九斤	(每百斤)	九七・八四	九七・八四	〇
葉菜	〇	〇	〇	〇	〇
合計	一七、七八九斤	〇	九七・八四	九七・八四	(+) 七・〇〇

c例 甜菜生産費並收支計算

場所 阿城縣第二區料甸子保料甸子屯  
 甜菜作付响數 四・〇响地  
 地味 中等地、小作料二・〇舊石、大豆平年收量四・五舊石  
 市場 阿城、約三十滿里 一般穀類市場哈市九〇滿里



施肥 土糞每响馬車にて八臺—一〇臺三年一回施肥、然し甜菜作付年度は之を施さず  
 單位 舊石||新石には三〇・石

第八十四表 c例 甜菜生産費

費目	金額計	數量	單價	備考
種苗費	四・六	日工 一八頭	〇・三	無償配布を受く
肥料費	五〇・九	日工 四二頭	一・二	第八六表参照
勞務費	一〇・三	日工 一六頭	〇・六	第八五表参照
農具費並建物費	一・五	〇	〇	第八五表参照
租稅公課	一・五	〇	〇	第八五表参照
地代	三三・七〇	二・〇舊石	一六・八五	第八十六表参照
市場運搬費	三九・五〇	日工 五〇頭	〇・八	一馬車日工一・五人、馬五頭、馬車一〇臺を要せり
合計	一三二・四	馬工 六八頭	日工費五六・三八圓、畜費三六・七〇圓	

第八十五表 c例 甜菜勞務費內譯

作業	金額計	內譯
日工費	九〇・〇	日工費內譯
役畜費	八・三	役畜費內譯
牛具錢	一七・〇	備考

第四章 亞麻並甜菜の生産費



北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

小計 二〇・一五圓 合計 一三三・七五圓

B 某製糖會社に依る委託栽培の甜菜生産費並收支計算

a 例

場 所 呼蘭縣第二區西三家子屯  
 作付响數 〇・五响地  
 地 味 上等地、小作料每响二・三舊石  
 大豆平年收量五・〇舊石、小麦四・〇舊石  
 市場 沈家站約八滿里、呼蘭縣城へ四五滿里  
 施肥 會社配給の化學肥料使用  
 單 位 舊石||新石にて二・九五石、重量單位斤||〇・五冠

第八十八表 a 例 甜菜生産費 (每响)

費目	金額計	内譯		備考
		數量	單價	
肥料	八・〇圓	二二斤	〇・三六圓	一七・六〇圓の半額負擔
種苗費	七・〇圓	四袋	一・七五圓	一四・八〇圓の半額負擔

勞役費	金額計	内譯		備考
		數量	單價	
農具費並建物費	七四・〇圓	馬工	一・三三	日工費六四・五〇圓、畜費九・五〇圓、第八十九表参照
租稅公課	一・六六圓	馬工	〇・八〇	甜菜專用新規購入農具一・八五圓を耐久年限三ヶ年とし、即ち六・三圓を在來農具費に計算す
地代	一・〇〇圓	馬工	〇・八〇	第九十表参照
市場運費	二・〇〇圓	馬工	〇・八〇	日工費四・八〇圓、畜費六・〇〇圓、第九十表参照
合計	一三三・七五圓	馬工	一・三三	日工費六九・三〇圓、畜費一五・五〇圓

第八十九表 甜菜勞役費内譯 (第八十八表に於ける一响に付き)

作業	金額計	内譯		備考
		人力費	畜力費	
施肥計	四・三五圓	二・三五圓	二・〇〇圓	馬 四頭@ 〇・五圓
(邊地)				馬 三頭@ 〇・五圓
(作條)				馬 一頭@ 〇・五圓
(施肥)				同
(覆土)				同
播種計	一・八五圓	一・三五圓	〇・五圓	馬 一頭@ 〇・五圓
(溝作り)				馬 一頭@ 〇・五圓
(播種)				馬 一頭@ 〇・五圓

第四章 亞麻並甜菜の生産費



北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

八〇

一响分計	合理計	調藏	收穫	中耕	除草	中耕	除草	中耕	除草	間拔	(覆土)
七四・〇〇	七三・〇〇	一・〇〇	一〇〇・〇〇	五・〇〇	一・〇〇	二・〇〇	一・五〇	三・〇〇	一・五〇	三・〇〇	二・〇〇
六四・五〇	三三・三三	一・〇〇	一〇〇・〇〇	五・〇〇	二・〇〇	二・七五	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	二・〇〇	一
九・五	四・七	一	一	七・五	一	七・五	一	七・五	一	一	一
日工	日工	日工	日工	日工	日工	日工	日工	日工	日工	日工	日工
五三人@	三〇人@	一人@	二〇人@	五人@	二人@	五人@	二人@	五人@	二人@	一〇人@	五人@
馬一九頭@	馬九・五頭@	馬一・五頭@	馬一・五頭@	馬一・五頭@	馬一・五頭@	馬一・五頭@	馬一・五頭@	馬一・五頭@	馬一・五頭@	馬一・五頭@	馬一・五頭@
・五	・五	一	・五	・五	・五	・五	・五	・五	・五	・五	・五
地下埋藏	切葉、切枝根	第一次中耕に同じ	第一次中耕に同じ	第一次中耕に同じ	第一次中耕に同じ	第一次中耕に同じ	第一次中耕に同じ	第一次中耕に同じ	第一次中耕に同じ	第一次中耕に同じ	第一次中耕に同じ
小工支出計二・〇〇圓を日工單價一・三圓にて除し日工數に計算す											

第九十表 地代並市場運搬費内譯 (第八十八表に於ける)

大豆	小作	市場	運搬	費	額
七斗	七斗	二・三〇日	六人	・〇〇	二・三〇
					二・三〇

高梁	谷子	合計	市場運費	現地價額
八斗	八斗	一・三〇	一・三〇	一・三〇
二・三〇	二・三〇	四・六〇	一・三〇	三・三〇
九・〇〇	八・〇〇	一七・六〇	一・三〇	一六・三〇
馬	計	馬	馬	馬
一二頭	(馬車)	一二頭	馬	馬
・五〇	三台	・五〇	馬	馬
六・〇〇	二頭	六・〇〇	馬	馬
一〇・八〇	四頭	一〇・八〇	馬	馬
三・六〇	三人	三・六〇	馬	馬
六・〇〇	二人	六・〇〇	馬	馬
三・六〇	一人	三・六〇	馬	馬

第九十一表 a例 甜菜收入並收支損益 (每响)

甜菜	收入項目	收量	單價	收入金額	支出金額	損益
二〇,〇〇〇斤	菜	二〇,〇〇〇斤	四・八	九・六〇	一三・八	(一) 四・二〇

b 例 甜菜生産費並收支計算

場 所 綏化縣大新城窩堡  
 甜菜作付响數 一・〇响地  
 地 味 中等地、小作料二・一舊石  
 平年收量大豆四・七舊石、小麦三・五舊石  
 市 場 綏化縣城二十二里  
 ※施 肥 會社より給す(硫酸並過磷酸石灰)  
 第四章 亞麻並甜菜の生産費

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

單位 舊石||新石にて三・一七石、斤量||日斤

※硫安、過磷酸石灰計四〇貫四袋(@三・七〇圓)を一响に付き配布し、その價額一四・八〇圓の半額を農民に負擔せしむ

第九十二表 b例 甜菜生産費

費目	金額計	内譯		備考
		數量	單價	
種苗費	八・〇圓	二三滿斤(一袋)	〇・〇圓	一七・六〇圓の半額負擔す
肥料費	七・〇圓	四袋	一・七五圓	一四・八〇圓の半額負擔す
勞役費	六・九圓	馬工 四六八頭	一・五圓	日工費七二・一〇圓、役畜費四・四九圓 第九十三表參照
農具費	一・七圓	馬工 八・五頭	〇・二圓	※在來農具費・七四圓 甜菜專用新購入農具費・六三圓
建物費	〇・九圓			
租稅公課	一・五圓			
地代	六・〇圓	二・一舊石		
市場運費	三・〇圓	馬工 三〇〇頭	〇・〇圓	大豆、高粱、穀子各六・三斗、小麦二斗 運費一・四七圓を差引く 第九十四表參照
合計	一四・〇圓	馬工 三八・五六頭	一・三圓	馬車五臺要せり 第九十四表參照 日工費八〇・一〇圓、役畜費一九・四九圓

※ 滿洲製糖に於ては左記の甜菜專用農具類を原價にて農民に賣り付く

タツピングナイフ・九〇圓、片手ボロ・六〇圓、蟹の手・三五圓、計一・八五圓を三年の耐久年數とし三分せり

第九十三表 甜菜勞役費内譯 (第九十二表に於ける)

作業別	金額計	内譯		備考
		日工費	役畜費	
施肥	二・三〇圓	日工 一・五五人@	馬二・五頭@	左記小計
(作條)	〇・八五圓	日工 五人@	馬 一頭@	藪丈(日工一人馬二頭)使用一日二响
(施肥)	〇・三五圓	日工 五人@		日工一人一日二响
(覆土)	一・二〇圓	日工 五人@	馬一・五頭@	藪丈(日工一人馬三頭)使用一日二响
(播種)	二・二五圓	日工 二人@	馬一・五頭@	左記小計
(畦作)	一・四〇圓	日工 五人@	馬一・五頭@	右に同じ
(播種)	〇・三五圓	日工 五人@		一人一日二响
(覆土並鎖壓)	〇・七〇圓	日工 一人@		足踏み
除草	六・〇〇圓	日工 四人@	馬一・五頭@	覆土に同じ
中間引	一・八圓	日工 五人@		
除草	四・〇〇圓	小工 一人@		
除草	六・八〇圓	日工 四人@	馬一・五頭@	
中耕	一・六圓	日工 五人@		第一次中耕に同じ
除草	五・一〇圓	日工 三人@		

第四章 亞麻並甜菜の生産費

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

中耕	收穫	調製	埋藏	合計
一・六	二七・〇〇	一五・〇〇	三・二〇	七・五九
・八五	二七・〇〇	一五・〇〇	三・二〇	七・五九
・八三 日工	日工 一五人@	小工 三〇人@	日工 三人@	日工 三四人@ 小工 四人@
・五人@ 馬一・五頭@	・一・八〇	・一・二〇	・一・二〇	・一・五〇 馬八・五頭@
・一・五〇 第一次中耕に同じ				・一・五〇 每响平均勞役費日工合計四六名

※ 小工賃銀計一九・〇〇圓を平均日工一人當賃銀一・五六圓にて除し之を日工計三四名に加算せしむ  
 第九十四表 地代並甜菜市場運搬費内譯 (第九十二表に於ける)

地名	數量	代 (小作料) 内譯		市場運搬費内譯		費目	數量	單價	費額
		價	額	費目	數量				
大豆	六・三斗	一・〇〇圓	九・三圓	日工數	一〇人	・八〇圓			八・〇圓
高粱	六・三斗	一・〇〇	六・三圓	役畜數	三〇頭	・三〇圓			一・三〇圓
穀子	六・三斗	一・〇〇	六・三圓	所要馬車	五臺	(合計)			三・〇〇圓
小麦	二・〇斗	二・〇〇	三・六圓						
高粱並穀子	各五〇東	・〇〇	一・二五						
合計	一・〇〇東	一・〇〇	三・九三						
運費	每石	・〇〇	一・四七						
現地價額			二・六〇						

第九十五表 b例 甜菜收入並收支損益

收入項目	數量	單價 (每百斤)	收入金額	支出金額	收支損益
甜菜	一一〇,〇〇〇斤	〇・五圓	一一〇・〇〇圓	一五・〇〇圓	(一) 九五・〇〇圓

註1 甜菜の莖葉は北滿に於ては、牛畜の飼料として獎勵され居るも實際には牛頭數僅少なるため、殆んどその利用なし  
 2 收量二〇,〇〇〇斤は該地に於ける平年收量にして本年は蟲害その他不作にて二一,〇〇〇斤程度の實績なり  
 c例 甜菜生産費並收支計算

場 所 雙城縣第三區正白五屯  
 甜菜作付响數 一・〇响地  
 地 味 上等地、小作料二・三舊石、平年收量大豆五舊石  
 市 場 雙城站、四十滿里  
 施肥 每年化學肥料  
 單位 舊石||新石にて二・八石

第九十六表 c例 甜菜生産費

第四章 亞麻並甜菜の生産費

費目	金額計	内譯		備考
		數量	單價	
種苗費	八・八〇圓	一二二斤	〇・八圓	半額負擔
肥料代	七・四〇	四袋	三・七〇	半額負擔
勞役費	九・六〇	馬工五六頭 日工五六頭	一・二〇	日工費六三・八五圓、畜費三・四一圓 第九十七表參照
農具費並建物費	一・六〇			第九十二表參照
租稅公課	一・五〇			
地代	六・九〇	二・三舊石	一・〇〇	第九十八表參照
市場運費	三・〇〇	馬工四頭 日工四頭	一・〇〇	日工費一四・〇〇圓、畜費二一・〇〇圓 馬車(日工二人馬六頭)七台を要す
合計	一四七・八二	馬工四八頭 日工五五頭	一・〇〇	日工費七七・八五圓、役畜費二四・四一圓

第九十七表 c例 甜菜生産費

作業	金額計	内譯		備考
		日工費	役畜費	
畦作	二・三〇圓	〇・八圓	馬三頭@	大犂丈(日工二人馬六頭)半日終了
畦壓	〇・六〇	〇・四圓	馬五頭@	木頭鍬子使用半日使用
穴掘り	二・四〇	〇・四圓	日工三人@	鋤斗使用

施播種肥	除土並種肥 <th>除草 <th>並草 <th>中耕 <th>除草 <th>中間耕 <th>收獲 <th>調製 <th>埋藏 <th>合計</th> </th></th></th></th></th></th></th></th>	除草 <th>並草 <th>中耕 <th>除草 <th>中間耕 <th>收獲 <th>調製 <th>埋藏 <th>合計</th> </th></th></th></th></th></th></th>	並草 <th>中耕 <th>除草 <th>中間耕 <th>收獲 <th>調製 <th>埋藏 <th>合計</th> </th></th></th></th></th></th>	中耕 <th>除草 <th>中間耕 <th>收獲 <th>調製 <th>埋藏 <th>合計</th> </th></th></th></th></th>	除草 <th>中間耕 <th>收獲 <th>調製 <th>埋藏 <th>合計</th> </th></th></th></th>	中間耕 <th>收獲 <th>調製 <th>埋藏 <th>合計</th> </th></th></th>	收獲 <th>調製 <th>埋藏 <th>合計</th> </th></th>	調製 <th>埋藏 <th>合計</th> </th>	埋藏 <th>合計</th>	合計
二・四〇	二・四〇	六・五〇	五・三〇	一・四八	四・二〇	一・五三	八・四〇	一・六〇	三・三〇	六七・六六
二・四〇	二・四〇	六・五〇	五・三〇	一・四八	四・二〇	一・五三	八・四〇	一・六〇	三・三〇	六七・六六
日工三人@	日工三人@	日工五人@	日工四人@	日工五人@	日工三人@	日工五人@	日工六人@	日工一人@	日工三人@	馬六・五頭@
〇・八圓	〇・八圓	一・三圓	一・三圓	一・四圓	一・四圓	一・四圓	一・四圓	一・二圓	一・二圓	〇・三圓
播種と同時に覆土並種肥をなす		日工一人馬三頭牽き犂丈使用半日終了		第一次中耕に同						小工二〇人を日工九人とし日工四七・五人に計算せば五六・五人

第九十八表 小作料内譯 (第九十六表に於ける)

品名	數量	單價	價額
大豆	七・七斗	一・六〇圓	一二・三圓
高粱	七・七斗	一・一〇	八・四圓
谷子	七・七斗	一・〇〇	七・七圓

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麥に對する採算比較

現市場	運賃	費計
1.3	1.8	3.1
2.6	2.3	4.9
2.6	2.3	4.9

第九十九表 c例 甜菜收入並收支損益

收入項目	收量	單價(百斤)	收入金額	支出金額	損益
甜菜	20,000斤	0.45	9,000	14,700	(5,700)
本年收量	15,200斤	0.45	6,840	14,700	(7,860)
前年小麥	3,700石	0.95	3,515	1,470	2,045

註 右收入金額以外に運搬費補助として八圓の收入あり

d例 甜菜生産費並收支計算

場 所 巴彥縣第四區聚寶山本屯  
 甜菜作付响數 一〇响地  
 地 味 上等地、小作料二二舊石、大豆平年收量五〇舊石  
 市場 興隆鎮、約二十五滿里  
 施肥 每羊滿洲製糖より定量の化學肥料の配布を受く、肥料代每响八・八〇圓

單 位 容量舊石||新石にて三・一六石、重量斤||〇・五疋

第百表 d例 甜菜生産費

費目	金額計	内譯	備考
種苗費	八・八圓	二二斤	半額負擔
肥料代	七・四圓	四〇斤	半額負擔
勞役費	六・九圓	馬日工 一〇・五頭	日工費五七・五〇圓、畜費五・四九圓、内小工四〇名を含む(但し小工二人を日工一人とす)
農具費並建物費	一・六圓		農具費一・三七圓(新購入甜菜用農具の減價償却費を含む)建物費二九圓
公租公課	一・五圓		
地代	二・七圓	二二舊石	第一〇二表參照
市場運賃	三・六圓	馬日工 三〇頭	日工費一〇圓、畜費一六・五〇圓、馬車五台要す。一日に二往復運搬、一馬車日工二人馬六頭
合計	三六・八圓	馬日工 四〇・五頭	日工費六七・五〇圓、畜費二一・九九圓

第百一表 甜菜勞役費内譯 (第一〇〇表に於ける)

作業	金額計	内譯	備考
施肥計	三・八圓	日工費 一・〇圓	
		役畜費 二・八圓	
		日工費内譯 二人@ 〇・八圓	
		役畜費内譯 馬四・五頭@ 〇・五圓	
		備考	

第四章 亞麻並甜菜の生産費



北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

e 例 甜菜生産費並收支計算

場 所 呼蘭縣、許家保、孟家屯  
 甜菜作付响數 一・五响地  
 地 味 中等地、小作料二・舊石、平年收量大豆四・五舊石  
 市 場 呼蘭縣約二十滿里  
 施 肥 每年會社より化學肥料半價にて給付を受く  
 單 位 舊石||新石にて二・九五石

第百四表 e 例 甜菜生産費 (每响地)

費目	金額計	内		備	考
		數	單價		
種苗費	八・八〇圓	一二斤	〇・八圓	半額負擔	
肥料費	七・四〇圓	四袋	三・七〇圓	半額負擔(硫酸並加礮酸石灰)	
勞役費	五〇・六五圓	馬工	一・二四圓	日工費四二・八〇圓、畜費一・八五圓、第百五表参照	
農具費並建物費	一・六六圓	馬	〇・二四圓	甜菜専用新規購入農具費一・八五圓を三箇年耐久年限とし一年負擔額〇・六三圓に在來農具費七四圓を加算す	
租稅公課	一・五〇圓				

※地代	金額計	内	備
市場運搬費	二五・九三圓	高大谷	三品均納(各六・七斗)
合計	一四〇・九三圓	馬日工 七五・五〇圓 馬日工 七〇・六〇圓 子梁豆 一四・八三圓	日工費一六・〇〇圓、畜費二五・〇〇圓、馬車一〇臺を要せり 日工費五八・八〇圓、畜費三六・八五圓

※ 三品以外に高粱穀東五〇個@一・七錢、谷子穀東五〇個@二・〇錢、少計一・八五圓を加ふ。之等合計より市場迄の運費每石一・〇〇圓小計二・〇〇圓を差引けば、現地價額二五・九三圓となる

第百五表 甜菜勞役費内譯 (e 例第百四表に於ける)

作業	金額計	内		日工費内譯	畜費内譯	備	考
		日工費	畜費				
施肥	八・〇〇圓	三・五〇圓	四・五〇圓	日工 五人@ 〇・七圓	馬 九頭@ 〇・五圓	施肥作業計	
作條				日工 二人@ 〇・七圓	馬 三頭@ 〇・五圓	中糞丈	
畦肥				日工 一人@ 〇・七圓	馬 六頭@ 〇・五圓	大糞丈	
畦作				日工 二人@ 〇・七圓	馬 一・五頭@ 〇・五圓	輕便使用(日工二人馬二)一日二响	
播種	二・二五圓	一・〇〇圓	一・二五圓	日工 五人@ 〇・七圓	馬 一頭@ 〇・五圓	同	
溝掘り				日工 五人@ 〇・七圓		溝掘り用役畜に連繫す(拉子使用)	
播種				日工 五人@ 〇・七圓			
(覆土)				日工 五人@ 〇・七圓			

第四章 亞麻並甜菜の生産費

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

項目	金額計	數量	單價(百斤)	收入金額	支出金額	損益
間拔き	七〇〇	一日工	五人@	馬 五頭@	〇	馬子使用一日二响
除草	四・九	小工	一人@	〇	〇	一响半を五人にて除草終了
中耕	一・五	一日工	三人@	馬 一五頭@	〇	一日二响中耕終了
除草	六・三	一日工	五人@	馬 一五頭@	〇	一响半を五人にて終了
中耕	一・八〇	一日工	四人@	馬 一五頭@	〇	第一次中耕に同じ
收穫	七・七七	一日工	五人@	馬 八頭@	〇	日工二人馬六頭牽き大農丈使用
調製	一三・〇〇	小工	二人@	〇	〇	一五响地一日にて收穫終了
埋藏	二・九七	日工	二人@	〇	〇	一五响四名を要す
合計	五五・六六	小工	一人@	馬 二一五頭@	〇	每响平均小工四〇人を日工計三七・六人とし換算加算せば日工計三七・六

第九四表 e 例 甜菜收入並收支損益

項目	數量	單價(百斤)	收入金額	支出金額	損益
甜菜	二五、〇〇斤	四・六	二四・五	一四・五	一〇・〇

註 右收量二五、〇〇斤は呼蘭縣内に於ける最も上作とせらるる地方の平均なり。

f 例 甜菜生産費並收支計算

場 所 巴彥縣第四區興隆鎮附近

甜菜作付响數 二・〇响地

地 味 中等地。小作料二・〇舊石、平年收量大豆五石、小麦四石

市 場 一里(滿里)興隆鎮站

施 肥 會社より配給を受く

單 位 舊石||新石にて三・一六石

第九五表 f 例 甜菜生産費

費目	金額計	數量	單價	備考
種苗費	八・八	二十二斤	〇・四	半額負擔
肥料費	七・四〇	四袋	三・七〇	半額負擔
勞務費	三・九	日工 一四三・二頭	一・三	日工費五七・九〇圓、畜費五・九九圓
農具費並建物費	一・六	馬 一頭	一・六	第九十二表參照
公租公課	一・五	大豆 六斗	〇・二五	
地代	三・〇	高粱 六斗	〇・五	
市場運搬費	四・三	谷子 六斗	〇・七	
合計	一〇・六	馬 一頭	一・六	大豆九・三八圓、高粱六・七〇圓、谷子六・七〇圓 小計二二・七八圓より運・七八圓を差引く 八回往復、馬車一台日工費一・六〇圓 畜費二・七五圓 日工費五九・五〇圓、畜費八・七四圓

第九五表 亞麻並甜菜の生産費





平均	f	e	d	c	b	a	c	b
例	例	例	例	例	例	例	例	例
二〇、二二二斤	一五、〇〇〇斤	二五、〇〇〇斤	二五、〇〇〇斤	二〇、〇〇〇斤	二〇、〇〇〇斤	二〇、〇〇〇斤	二〇、〇〇〇斤	一七、七八九斤
一〇三・〇	六六・〇	二四・〇	二四・〇	九・〇	二〇・〇	九・〇	二六・〇	九七・〇
三九・五	〇九・〇	二〇・〇	二八・八	四七・八	四七・八	三三・八	二二・四	七〇・四
(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(十)
七〇・五	四〇・〇	二六・〇	三三・三	六三・三	六三・三	五〇・〇	五・四	七三・〇
日工四九・一人@	日工四九・一人@	日工五七・六人@	日工五七・六人@	日工七〇・五人@	日工七〇・五人@	日工五九・三人@	日工五九・三人@	日工四九・一人@
一・三响地	一・三响地	一・五响地	一・〇响地	一・〇响地	一・〇响地	一・〇五响地	一・〇五响地	一・三响地
合計二・八响	合計二・八响	合計二・八响	合計二・八响	合計二・八响	合計二・八响	合計二・八响	合計二・八响	合計二・八响

註 右表平均欄に於ける毎响所要日工數並平均一人當日工賃は加重平均數値に依る。即ち各例別に日工數を付响數に乘じ合計响數一・八响にて除せるものを平均所要日工數とし、同様に各例生産費合計欄の内譯日工費小計を各例作付响數に乘じそれ等の合計を、合計响數一・八响の耕作に要せし總日工數にて除せるものを平均一人當日工賃とす、  
 一人當日工賃には日工賃の他に給食せる食費評價大體〇・二〇圓より〇・三〇圓を含む。  
 平均欄に於ける他の諸項目は總て算術平均に依る。

右表に依れば收支欠損の最高なるはB、C例に於ける五六・二一圓なり、之每响一人當平均日工賃の割高なること及農民の甜菜耕作不慣れに因り所要勞役日工數比較的多きに上りたること並に市場運搬費(第九十六表参照)多額に上りたること等に基因す。

B、a例並に最後のf例に於ける比較的多額に上る欠損は、前者に在りてはAのa例同様半响耕作に要せし勞作日工を倍加計上せしが爲自然實所要日工數より多少増大せる結果を招來せること又後者に在りては生産支出金額比較的小額なるも該地に於ける甜菜の平年收量は他所に比し極めて少量なるに基くものと推せらる。

結局右の如き事情を考慮し第十表に於ける結果を綜合觀察するに、〇・五响の如き小地域栽培に於ては欠損大なるも(响當收支に在りて)一・响より四响の如き大地域栽培に於ては欠損比較的小なるを窺知し得らる(Bのf例外を除く)。又現在の栽培契約條件に於ては日工賃一・〇〇圓以下所要日工數每响五十人以下に非ざれば到底採算圏内に入り得ざることを知る。即ち勞役費の半分を占むる市場運搬費(一日一回往復の距離にて)を其の儘負擔し而も従來の耕作方法に依るとせば、右表平均欄差引損益に示さる、二七・二六圓を尙超ゆる程度の欠損は免れ得ざるべし。換言すれば、多少は甜菜栽培地の適不適に左右せらるるも市場距離、日工賃等に因り、現在の所甜菜生産收支は、每响純益五圓程度より欠損六〇圓程度となるが、而も右表に於ける如く殆ど全數欠損を示すことより見れば平均每响二〇・〇圓乃至三〇・〇圓程度の欠損を示すものと推せらる。

今假りに甜菜栽培に於て所要日工每响五〇人平均一人當日工賃を一・〇〇圓とせば、平年甜菜收量二〇、〇〇〇斤(實際の所それ以下)にて收支相償ひ得べき百斤當甜菜根の賣却値段は左の如し。

- 一 平均欄に於ける每响所要日工數に一人當日工賃を乘ず。即ち五七・六人に一・〇七八圓を乘すれば六二・〇九圓の日工費となる。

二 平均欄に於ける支出金額一二九・五六圓より右六二・〇九圓の日工費を減ずれば六七・四七圓となる。

三 日工數五〇人に一人當日工賃一・〇〇圓を乗じたるもの即ち五〇・〇〇圓に右金額六七・四七圓を加算したる一

一七・四七圓を平年收量二〇・〇〇〇斤にて除せば、百斤當平均五八・七錢となる。即ち每百斤(新滿洲斤)約六

〇錢程度なれば右條件にて收支償ひ得るものなり。

之を布度當り値段に換算せば一九・六六錢即ち約二〇錢となる、因にA・B二製糖會社に於ける甜菜栽培契約の條件内容を示せば次の如し。(本年度即ち康德五年度契約規定を示し後昨年度施行規定との相違點をも記述せり)

A 北滿製糖康德五年度甜菜栽培契約

一 甜菜每布度買付値段

康德五年度は每布度國幣二十三分、昨年は每布度一七・五分。

二 甜菜運搬補助費

十籽以上の地點より運搬の要ある甜菜に對しては一响に付左の如き補助費を支給す。

十籽より十二籽迄は每响三圓、十二籽以上二十籽増す毎に一圓づつを加算し二十四籽以上は一〇圓とす。

昨年は十五籽以上の地點より運搬せられし甜菜に對し每布度國幣一分高にて買付せり。從て甜菜の响當收量を四

五〇布度とせば响當所要運搬補助費は四・〇五圓となる。本年度右規定に於ては一四一・一六籽に對し五・〇〇圓なり。

三 多收穫獎勵金給與。(昨年度は施行せず)

每响五〇〇布度以上の收量を挙げたるものに對し懸賞金百圓の抽籤券を附與す。(賞金總額一、〇〇〇圓)

四 保長或は甲長に對し自己管内の甜菜増産指導謝禮として左の規定に基き獎勵金を支給す。

每响平均三百布度より四百布度迄の收量を挙げたる場合は一布度に付 〇・一五錢

每响平均四百布度より五百布度 同 〇・二錢

每响平均五百布度以上の收量 同 〇・二五錢

右規定昨年は施行せず。

五 春耕資金の貸與、間引き、除草、中耕等の管理の徹底を計り且つは適切なる時機に於て諸作業の完了を期せむが爲本會社に於ては各作業の完了を待ち(四回に分ち)每响 一五・〇〇圓の耕作資金を無利子にて貸與す。(昨年と同一なり)

右項目中特に昨年に比し、農民に對し恩惠的に改變せられしは第一項買付値上げ並に比較的遠距離地點に於ける運搬補助の諸點なり。即ち買付値段に於ては一布度に付五・五錢(百斤に付き約一七錢)の値上げなるを以て結局每百斤買付値段は約七〇錢となれり。

B 滿洲製糖株式會社康德五年度甜菜栽培契約規定。

第一條より第四條迄は省略す。◎本規定の斤量は滿斤なり。

第五條 本社は契約面積に應じ毎响二十六斤の種子を配給す。契約者は契約面積に過不足なく播種すること。右種子代金の半額は會社負擔、残半額は契約者負擔とし、該金額は無利子にて菜根買入代金より控除す。

第六條 耕作者は基肥として成るべく毎响二萬斤の土糞を施すこと。本社は播種面積一响に付硫酸アンモニヤ參拾貫及過磷酸石灰貳拾貫を配給す。右代金は約一七・九〇圓に相當するが本社は内金拾圓五拾錢を負擔し金七・四〇圓は契約者負擔とし該金額は無利子にて菜根買入代金より控除す。

第七條 播種終了後農事指導員は本人又は代理人立會の上耕地を實査す。比の際故意に契約面積より著しく減少せしめたる面積に對しては毎畝二・〇〇圓の違約金を徴收し尙貸付農耕資金を返納せしむ。

第八條 病虫害發生せる場合は藥劑散布器を無償貸與し之に要する藥品は無償にて給與す。

第九條 耕作者にして農耕資金の融通を希望する者は保長又は甲長の證明に基き播種面積一响に付國幣五圓を左記により貸與す。

第一回貸付 契約締結後五圓、

第二回貸付 間引終了後拾圓。但し第二回貸付金は栽培作業に關し本社農事指導員の指示に従ひたる者に限る。

第十條 略す。

第十一條 菜根の買入價格は毎千斤國幣五圓貳拾壹錢とす。

第十二條 多收穫獎勵のため毎响壹萬五千斤以上の收穫を挙げしものに對しては其の超過斤量千斤に付國幣壹圓宛

を増すものとす。

第十三條 本社は菜根受入場より十五滿里以上の地域に栽培せるものに對しては左表に依る運搬補助費を支給す。

(昨年度實施せる率と比較表示す)

距離(滿里)	千金當運搬補助	昨年運搬補助(每千斤)	
一五—二〇	・五〇圓	二五—三五滿里	・三〇圓
二〇—二五	・六五圓	三五—四五滿里	・四〇圓
二五—三〇	・九五圓	四五—五五滿里	・五〇圓
三〇—三五	・一〇〇圓	五五滿里以上	・六〇圓
三五—四〇	・一二〇圓		
四〇—四五	・一三〇圓		
四五—五〇	・一四〇圓		

第十四條 略す。

第十五條 略す。(右規定康德五年二月制定す)

尙同社に於ては甜菜の單位面積當收量増加を期する目的を以て左記の條件の下に早期播種及間引適期獎勵規定を設け左記金額の獎勵金を給與す。

- 一、播種面積 一响以上なること
  - 二、播種期 四月二十五日より五月十日迄
  - 三、間引き 六月十日迄に間引完了のこと
  - 四、間引距離 株間七寸乃至八寸を標準とし每一响株數三萬二千株以上のもの以上各項目を實行せし者に對しては一响當り金五圓也を賞與す。
- 次に本年度右規定と昨年度施行規定との相違點を列記すれば左の如し。
- 第六條に於ける硫酸アンモニヤ參拾貫及過磷酸石灰貳拾貫合計五拾貫なるに比し昨年は硫酸アンモニヤ貳拾貫過磷酸石灰貳拾貫合計四拾貫なり。而して農民の肥料代負擔は昨年同様七・四〇圓なり。

第十六條 昨年は每千斤四・五八圓なりしが本年は每千斤五・二一圓とせり。

即ち買付價格に於て〇・六三圓の増額を見たり。

第十七條 本年度本條に於ける如き項なし。

第十八條 前述せる如し。

其他早期播種及間引適期獎勵規定昨年は施行せず。

次にA、B兩會社に依る康徳五年度甜菜栽培契約に基く每响收支計算の一例を示せば次の如し。

A 會社に依る甜菜栽培每响收支損益（豫想）

- 一 支出 本書第八十四表c例甜菜生産費合計二二・二四圓より租税公課一・五〇圓（免除さる）を差引き一一・七四圓を其儘本項に於ける支出合計と見做す。
- 一 收入 收量五〇〇布度（一六・三八〇滿斤）とせば單價二三錢より 一一五・〇〇圓を得。
- 運搬補助費 二〇籽なる故每响 七・〇〇圓
- 合計 一一二・〇〇圓
- 一 收支益 一一・二六圓

B 會社に依る甜菜栽培每响收支損益（豫想）

- 一 支出 本書第九十六表c例甜菜生産費合計を其の儘支出として推定す
- 一 收入 收量を每一八、〇〇〇斤とせば千斤五・二二圓より 一四七・八一圓
- 運搬補助費（四十滿里）每千斤一・二〇圓より 九三・七八圓
- 多收穫獎勵金每千斤一・〇〇圓 三、〇〇〇斤より 二一・六〇圓
- 三、〇〇圓

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麥に對する採算比較

一〇六

諸規定遵守賞與金(播種間引き等の)

五・〇〇圓

合計

一一三・三八圓

一 收支損

二四・三圓

一 對比前年收支損益増減——前年純損四八・二一圓なるに比し本年豫想は二四・四三圓の純損、即ち二三・七八圓の好轉なり。

## 第五章 亞麻の大豆、小麥との採算比較

以上前章迄大豆、小麥、亞麻、甜菜等の各品目に亘り稍詳細に之が栽培生産費、收支計算、栽培損益等を表示説明せるが次に本章並次章に於て亞麻並甜菜の栽培收支を在來作物たる大豆並小麥等のそれと比較し尙費目別に兩者の比較検討を試みんとす。

### 第一節 亞麻の大豆、小麥との收支比較(每响)

第百十一表 亞麻の大豆、小麥との收支損益比較(各作物に於ける總括表平均欄を參考とし推定數字をも採る)

作物名	收入金額	支出金額	收支損益	每响所要日工數	一人當平均日工賃	本書參考頁
大豆	八二・〇〇圓	五五・〇〇圓	二七・〇〇圓	二六・〇人	一・六圓	三三二頁
小麥	九五・〇〇	七〇・〇〇(十)	二五・〇〇	二〇・〇	一・二圓	四二二頁
亞麻	九・元	九・元	八・元	四・二	一・〇圓	六六頁
亞麻の大豆との比較	(十)	(一)	(一)	(一)	(十)	
亞麻の小麥との比較	(一)	(一)	(一)	(一)	(十)	

右表に依れば、收入金額比較に於て亞麻は大豆に比し每响九・三八圓大なるも支出金額に於て二六・六六圓大なるた

め結局收支損益比較に於ては大豆に比し一五・二八圓の不利となる。

又小麦との比較に於ては、収入金額に於て既に三・六二圓小なるが支出金額に於て尙一九・六六圓の大を示す關係上結局收支損益比較に於ては之又三三・二九圓の不利を示せり。

右の如く亞麻は大豆に比し又小麦に比し共に每响約一五圓或は三〇圓以上の不利を示せるも之が主因は前述せる如く、亞麻甜菜等の栽培に當り勞作者たる農民の耕作不慣れにより投下勞役の適切を缺き、勢ひ勞役費に於ける支出高むが爲と推せらる(右表每响所要日工數参照)。然れども、後述の如く亞麻甜菜等の賣却値段が大豆、小麦等の如く市價景況により直接左右せらるゝことなく、常に安定せる一定収入を豫想し得ることは、堅實を第一義とする農家經濟上よりすれば甚大なる有利性を有するものと謂ふを得べし、從て斯る觀點より論ずれば右の如き亞麻栽培の、在來作物たる大豆、小麦等に對する不利性は多少減ぜらるべきものなるも、結局現在の亞麻買付値段に於ては大豆に比し多少不利にして、小麦に對比しては更に倍程度不利なりと見るを得べし。

假りに右の如き事情を無視して之を極言すれば、要するに亞麻をして大豆程度の有利なる採算状態に迄引上ぐるためには左の如き計算の結果亞麻莖每百斤二・八〇圓以上、亞麻子實每百斤三・五〇圓以上の買付値段を制定の要ありと思料せらる。

右計算に先立ち滿日亞麻公司に於ける亞麻莖並亞麻子實買上價格表(康德四年度產亞麻に對し)を等級別に示せば次の如し(每百斤、國幣建)

一 亞麻莖買上豫定價格	二 亞麻種子買上豫定價格
特等品 三・〇〇圓	なし
壹等品 二・六〇圓—二・八〇圓	四・五〇圓
貳等品 二・二〇圓—二・五〇圓	三・五〇圓
參等品 一・五〇圓—一・九〇圓	三・〇〇圓
等外品 一・〇〇圓 以下	二・五〇圓以下

而して北滿に於ける亞麻成績の現状を見るに亞麻莖中最も多きは二・二〇圓—二・五〇圓の貳等品にして、亞麻子實に於ては三圓乃至三圓五〇錢の即ち參等品乃至四等品最も多し。

左記計算

- 一 第一百十一表亞麻支出金額九九・六六圓に同表大豆收支益七・〇〇圓を加算せば一〇六・六六圓となる。
- 二 亞麻子實每响平均年收量八〇〇斤に右表二等品子實價格三・五〇圓を乗すれば二八・〇〇圓となる。
- 三 (一)に於ける一〇六・六六圓より右二八・〇〇圓を減じ、亞麻莖每响收量(平年作平均)二、八〇〇斤にて之を除せば二・八一圓となる。

尙亞麻に於ては他の甜菜或は大豆、小麦等と異り右表に示さるゝ如く品質の向上に伴ひ莖稈、子實の買上値は共に増額せらるゝ關係上豊年作に於ける収入に在りては倍數的収入増加を得らる。即ち増加せる收量に増額せる單價を乗

ずることとなり結局二重の増収を來すものなるを以て、平年作に於ては豫想し得ざりし程の收支關係の好轉を示すべし。(各例豐年作に於ける收支損益參照)。従つて當局の技術的指導と相俟ち適地に在りて農民の適切なる耕作を見るに至らば右の如き買付價格の變更も不必要に終り農家經濟上有望なる特用作物として廣く栽培せらるものと思惟せらる。

### 第二節 亞麻の大豆、小麥との生産費目別比較檢討

各作物各例の生産費内譯表に示せし種苗費、肥料費、勞役費、農具費、建物費、租税公課、地代並市場運搬費等の中、肥料費、農具費並建物費、地代(小作料)等は亞麻耕作に於けると又大豆其他作物の耕作に於けるとを問はず同一畑地に在りては總べて全く同一なるものと看做せるを以て茲には、種苗費、勞役費、租税公課、市場運搬費等就中最も事情を異にし、従て費額に於て異なる諸作業勞役費並に市場運搬費に付き稍詳記せむとす。

一 種苗費 種子は播種期直前亞麻公司より一袋一响播種量(約一六〇斤。四舊斗)四・八〇圓後拂にて購入す。之を大豆、小麥の一响分種子代に比すれば左表の如く、大豆に比し約一・〇〇圓高く、小麥に對しては約三・〇〇圓低し。

- 一 勞役費 後述すべし。
- 一 租税公課 亞麻に於ては大豆、小麥の如く地捐其他一般租税公課の他に粮石出產税並に附課税等なきを以て比較

的僅少なり。

大豆粮石税は小麥に比すれば高率なるも、小麥相場割高のため、結局從價税なる粮石税額に在りては、小麥の方金額大り。

- 一 市場運搬 後述すべし。

第一百十二表 大豆生産費目別平均 (肥料費、農具費及建物費並地代を除く)

各例	種苗費	勞役費	租税公課	市場運搬費	平均勞役日工賃
Aの例	三・五	三三・四	三・五	一・五	一・六
"の例	三・六	三三・三	五・二	二・〇	一・八
"の例	三・七	四三・四	四・五	二・六	一・四
Bの例	三・三	三八・七	四・七	二・六	一・四
"の例	三・五	三三・五	五・一	二・〇	一・三
"の例	三・九	二六・六	四・四	三・六	一・五
Cの例	三・六	三〇・六	四・四	四・〇	一・三
"の例	三・六	三六・七	四・六	三・八	一・三
合計	三・〇	二八・四	三・六	二・八	一・三
平均	三・六	三三・八	四・九	三・〇	一・三



北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麥に對する採算比較

第百十三表 小麥生産費目別平均 (肥料費、農具費及建物費並地代を除く)

各例	種苗費	勞役費	租税公課	市場運搬費	平均勞役日工賃
a	九・〇〇円	一九・四五円	四・六円	二・〇円	一・〇〇円
b	八・一〇	二三・二五	四・八二	二・三〇	一・〇六
c	六・七五	三三・三五	四・四四	二・三〇	一・〇四
平均	三・八五	七五・〇五	一四・四三	七・〇〇	一・〇四
合計	七・九五	二五・〇三	四・八一	二・四〇	

第百十四表 亞麻生産費目別平均 (肥料費、農具費及建物費並地代を除く)

各例	種苗費	勞役費	租税公課	市場運搬費	平均勞役日工賃
a	四・八〇円	五・六円	一・五〇円	一・四〇円	一・六円
b	"	六〇・五〇	"	九・二〇	一・二五
c	"	四三・二五	"	九・三〇	一・〇六
d	"	四三・九五	"	九・八〇	一・〇五
e	"	五五・六九	"	一六・八〇	一・三五
f	"	三九・三四	"	八・〇〇	一・〇九

右大豆、小麥並亞麻の費目別平均數値を一括表示比較すれば左表の如し。

第百十五表 費目別比較 (平均毎响)

品名	種苗費	勞役費	租税公課	市場運搬費
大豆	三・三六円	二五・三三	九・〇〇	六七・五〇
小麥	七・九五	四八・七三	一・五〇	一一・三五
亞麻	四・八〇	二九・三二	一・五〇	一・三五
亞麻の對大豆比較	(+)	(+)	(-)	(+)
亞麻の對小麥比較	(-)	(+)	(-)	(+)
合計	四・八〇	二九・三二	九・〇〇	六七・五〇

亞麻の生産費目大豆及小麥に比し特に大なる差異あるは、右表にて明らかなる如く勞役費並市場運搬費なるを以て、右三種に付勞役費平均内譯を試み(前章より)作業別比較をなすべし。

- 即ち右表に於ける作物別平均勞役費の内譯を下の如き三項目に分ち表示す。
- 一 春耕播種 春期施肥並播種作業に要せし勞役日工費及役畜費の合計を以て示す。

第五章 亞麻の大豆、小麥との採算比較

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

二 管 理 播種後除草、中耕培土、間引き等の諸作業に要せし日工勞役費並役畜費の合計。  
 三 收穫調製 收穫、脱穀、精撰、包装等收穫後市場運搬を除く諸作業に要せし日工勞役費並役畜費の合計を以て示す。

第一百十六表 大豆勞役費平均内譯 (每响)

各例	春耕播種	管 理	收穫調精	勞役費計	所要日工數	一人當日工賃
Aの例	四・四五円	一七・三〇円	二二・五九円	三三・四四円	二五・〇人	・六円
※の例	五・〇七	一四・四六	一三・七〇	三三・三三	二一・三人	一・一八
Bの例	七・二二	一五・九五	一八・〇〇	四四・四〇	二四・五人	一・四六
〃の例	五・一五	一三・二五	一四・四〇	三三・〇七	二七・五人	一・〇六
〃の例	五・一五	一四・七一	一三・六五	三三・五二	一九・〇人	一・三三
〃の例	四・〇〇	一〇・一六	一一・三〇	二六・六二	一九・七人	一・三三
〃の例	六・四四	一九・九六	一〇・九〇	三六・七一	二三・四人	一・二五
〃の例	四・三三	一二・一六	一〇・一八	二八・四七	一七・五人	一・〇九
平均	五・三九	一六・一〇	一三・四〇	三三・八一	二二・〇人	一・〇九

※ 三回除草中耕をなす。

第一百十七表 小麦勞役費平均内譯 (每响)

各例	春耕播種	管 理	收穫調精	勞役費計	所要日工數	一人當日工賃
aの例	三・二七円	二八・三三円	一三・三五円	一九・四五円	一四・五人	一・〇八円
bの例	三・二七	三三・三三	一六・六五	三三・二五	一六・〇人	一・二六
cの例	三・五二	七・六六	二二・一八	三三・三五	一八・〇人	一・四四
合計	一〇・〇五	一三・八三	五・一八	七五・〇五	四八・五人	一・四四
平均	三・三五	四・六一	一七・〇六	二五・〇三	一六・二人	一・〇九

第一百十八表 亞麻勞役費平均内譯

各例	春耕播種	管 理	收穫調精	勞役費計	所要日工數	一人當日工賃
aの例	四・一〇円	一七・五〇円	二九・六九円	五〇・六九円	四八・〇人	・六円
bの例	一〇・三五	三三・四〇	二七・七五	六〇・五〇	四九・五人	一・一三
cの例	三・七五	一九・六〇	一八・八〇	四三・三五	三六・五人	一・〇六
dの例	五・四五	一五・〇〇	三三・〇〇	四三・九五	三六・五人	一・〇五
eの例	四・八九	二六・四〇	二四・四〇	五五・六九	三八・三人	一・三五
fの例	七・四六	一〇・〇〇	二二・八八	三九・三四	三一・九人	一・〇九

第五章 麻亞の大豆、小麦との採算比較

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麥に對する採算比較

合計	111.00	111.00	111.00	111.00	111.00	111.00	111.00
平均	6.03	18.56	24.00	29.53	34.03	40.18	11.6

第百十六表、第百十七表並右表に於ける作業別平均費價及所要日工平均數等に付亞麻の對大豆、小麥比較表を示せば次の如し。

第百十九表 亞麻の對大豆、小麥比較勞費内譯

品名	春耕播種	管	理	收穫調精	勞役費計	所要日工數
大豆	5.90円	16.00	13.50円	13.50円	38.80円	122.0人
※小麥	3.35	4.61	17.04	25.03	30.03	162.2人
亞麻	6.03	18.56	24.00	29.53	34.03	40.1人
亞麻の對大豆比較	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
亞麻の對小麥比較	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)

※ 小麥は除草中耕一回のもの多きため管理費僅少となれり。  
 右表に依り亞麻は所要日工數より見るも大豆の略二倍を要し、小麥の約一・五倍を要することを知る。而も亞麻は勞費内譯項目中何れに於ても、小麥は勿論大豆に比し、大なる支出を示せり特に收穫調製に於て即ち收穫(拔地)作業、天日乾燥作業並調製作業(束ねる)等は他の一般穀類のそれとは全く趣きを異にし、女子或は小人等小工を利用

し得ると雖、作業の煩雜にして手數の多く要することは他作物に見ざる所なり。

(右表亞麻所要日工數四〇・一人は小工數を日工換算計上しあり)

市場運搬費

大豆並小麥に在りては三舊石乃至五舊石の子實の運搬に過ぎず、殊に大豆は秋收作物にて市場搬出時は道路も良く從て馬車輸送能力極めて大なり。小麥は又夏收作物なるも收量一般に大豆に比し少く、假りに大豆收量五舊石小麥收量三・五舊石とせば市場搬出に當り共に一馬車にて充分なるべし、然るに亞麻に在りては子實よりも亞麻莖の運搬を主とするが、而も夏期道路不良なるがため、二、八〇〇斤の亞麻莖並八〇〇斤の亞麻子實運搬には馬車二臺を要すべし。第百十五表に於ても明らかなる如く亞麻は大豆、小麥等に比し每响八・〇〇圓乃至九・〇〇圓の運費高なり(一日一往復距離にて)

## 第六章 甜菜の大豆、小麥との採算比較

### 第一節 甜菜の大豆、小麥との收支比較

第五章亞麻に於けると同様、甜菜、大豆、小麥等の毎畝収入金額、支出金額並に差引損益を集計平均表示すれば左の如し。

第二百十表 甜菜の大豆、小麥との收支損益比較

作物名	収入金額	支出金額	收支損益	毎畝所要日工數	一人當平均日工賃
大豆	八三・〇〇円	七三・〇〇円	(+) 一〇・〇〇	二六・〇人	一・二六円
小麥	九五・〇〇	七〇・〇〇	(+) 二五・〇〇	二〇・〇人	一・二四
甜菜の對大豆	(+)	(-)	(+) 一三・九六	五七・六人	一・〇八
甜菜の對小麥	(+)	(-)	(-) 五九・六六	三三・六人	一・〇八

右表に依れば、甜菜は大豆収入金額に比し二〇・三〇圓大なるも支出に於て五四・五六圓の超過額を示せる結果、結局收支損益に於ては三四・二六圓の不利を示せり。甜菜に於ける支出の斯く大となりたるは、右表に於ける毎畝所要

日工數比較に於て明示さるる如く、甜菜毎畝所要日工數實に五七・六人の多きに上りしが爲なり。因に甜菜の大豆、小麥に對する所要日工數比較比率を見れば對大豆二二・二％、對小麥二八・八％なり。(何れも市場運搬勞役數を含む)次に甜菜收支を小麥のそれに對比せば、毎畝實に二五・二六圓の不利を示せり。

依て左に支出金額増加の主要原因たる所要日工數(勞役費目中に於ける日工數と市場運搬日工數との合算せるものなり)並日工費に付き作業別支出の分布状態を、各作物別に對照検討し、之を費目別比較に代ふ。

尙甜菜の大豆、小麥等に比し最も高額なる市場運搬費に付きては追つて比較を試むべし。

### 第二節 甜菜の大豆、小麥との生産費目別比較

第二百十一表 甜菜毎畝所要日工並役畜數内譯

各例	春耕播種	管理	收穫調製	日工・役畜數計	勞役費計	市場運搬	本書頁
例 a	八人	小工二一 頭	小工四一 頭	日工 五三人馬 一八頭	四・〇八円	馬日工 二六頭人 〇・八〇	七九頁
例 b	三五人	小工二一 頭	小工三一 頭	日工 四六人馬 八・五	六・五九	馬日工 二四頭人 〇・八〇	八三頁
例 c	一〇・五人	小工二一 頭	小工三一 頭	日工 五五六人馬 六・五	七・三六	馬日工 二四頭人 〇・八〇	八六頁
例 d	四・五人	小工二一 頭	小工三一 頭	日工 五七人馬 〇・五	六・九九	馬日工 二四頭人 〇・八〇	八九頁
例 e	七人	小工二一 頭	小工三一 頭	日工 三七六人 三・五	五・六九	馬日工 二四頭人 〇・八〇	九三頁



第二百二十四表 甜菜の大豆並小麥に對比する勞役日工並役畜數内譯

品名	春耕播種	管	理	收穫調製	合	計	勞役費額
甜菜	馬日工 六・八頭人	小日工 一・三頭人	馬日工 三・〇頭人	小日工 二・四頭人	馬日工 一・四頭人	小日工 一・八頭人	六・五圓
大豆	馬日工 五・五頭人	馬日工 三・〇頭人	馬日工 三・九頭人	馬日工 七・一頭人	馬日工 一・五頭人	小日工 二・八頭人	四・八圓
小麥	馬日工 二・五頭人	馬日工 三・一頭人	馬日工 二・四頭人	馬日工 一・〇頭人	馬日工 一・六頭人	小日工 二・三頭人	三・五圓
甜菜の大豆との比較	(+)馬日工 一・三頭人	(+)小日工 一・九頭人	(+)馬日工 一・四頭人	(+)小日工 二・六頭人	(+)馬日工 二・二頭人	(+)小日工 二・七頭人	三・七圓
甜菜の小麥との比較	(+)馬日工 三・八頭人	(+)小日工 二・九頭人	(+)馬日工 一・八頭人	(+)小日工 二・六頭人	(+)馬日工 二・九頭人	(+)小日工 三・一頭人	四・五圓

右表に於て甜菜の大豆並小麥に對する各作業別影響所要日工數並役畜數を見るに、

- 一 春耕播種 甜菜の播種に於ては深耕を必要とする關係上大豆或は小麥等の如く轆轤乃至中犁丈にて春耕足ることなく、常に大型丈を使用す従つて役畜頭數並に日工數多き上る、右表平均比較に依れば大豆に對し日工三・一人馬一・三頭多く、小麥に對しては日工四人馬三・八頭夫々多し。
- 二 管理作業 大豆、小麥等に在りては、甜菜に於けるが如き間引き作業なく、而も甜菜に於ては大豆、小麥に比し除草中耕作業回数一般に多き結果、勞工數並役畜使用頭數又多し。
- 三 收穫調製 甜菜に於ては大豆、小麥等の如く脱穀或は圃場よりの運搬、精選等の作業を見ざるも、切葉、切枝根

埋藏、其他煩雜なる手數を要する諸作業存し、而も收穫に當りては甜菜根一個一個掘り出しを要する等尠からざる勞工を要す。尤も切葉切枝根等の調製に當り餘剩勞力と目される女子或は小人等の小工を使用し得ることは近年農村に於ける農業勞力不足を告げ居る際、農家經濟上一意義を有するものと言ふを得べし。右表本項目に於ける小工二六・八人を日工約一人と換算(支拂工賃の比より)し、之を大豆に對する所要日工超過數六六人に加算せば計約一八人の超過となり平均日工賃を一・〇〇圓と見做せば約一八・〇〇圓の差額を生ずることとなる、又小麥に對しては同様加算の結果日工約一五人の超過を示す。但甜菜に在りては圃場より搬入の要なく従て役畜を要せざることは採算比較上注意を要す、甜菜の收穫に際し場所に依りては大型を使用し、甜菜根の掘出しを爲し居る所あるも結果は面白からざるが如し。

結局甜菜栽培勞役に於ては大豆に比し、日工二七人の超過なるも役畜は二・五頭の支出低下を示せり、又小麥に對しては、日工更に大なる三二・五人の超過を示し役畜に在りても二・九頭の超過を示せり。

市場搬出運搬勞役費比較

甜菜の收量(每响)を平均一六、〇〇〇斤(新滿斤)より二〇、〇〇〇斤として之を馬車積載臺數より大豆、小麥等に比較せば、大豆並小麥に於ては前述せる如く馬車一臺にて充分なるが甜菜根一馬車積載能力は約二、〇〇〇斤、即ち一聽程度なり、従て一六、〇〇〇斤乃至二〇、〇〇〇斤の馬車輸送臺數は八臺乃至一〇臺なり。(一日一往復距離にて)一馬車に付役畜六頭日工二人從事するものとし、每頭役畜費・五五圓、一人當日工費・八〇圓とせば馬車運搬勞役費小

計は四・九〇圓約五・〇〇圓となる。即ち馬車八臺乃至一〇臺を要し勞役費は四・〇〇圓乃至五・〇〇圓となるべし。之を大豆並小麥に對比するに甜菜は市場運搬支出に在りては三五・〇〇圓乃至四五・〇〇圓の支出超過と言ふを得べし。(一日一往復市場距離に在りて)

市場搬出運搬費は市場との一日往復回数即ち距離に依り一様ならざるは勿論なれ共、大體右第二百一表、第二百一十二表並第二百二十三表に於ける平均にて示さるる如く、大豆、小麥に於ける運搬費は毎畝二・一三・〇〇圓程度なるに比し、甜菜は一八・〇〇圓程度の平均なり、右を要するに、他の諸條件を同一と看做し大豆に比しその最も相違する費目即ち右の勞役費及市場運搬費等に付きなせる比較計算を綜合するに勞役費に在りて二七圓程度又市場運搬費に在りては一〇圓乃至四〇圓程度の超過出費を見、結局响當平均超過額は略五〇・〇〇圓見當と推算せらる。

尙甜菜、大豆、小麥の生産費を夫々外部支出及び内部支出(即ち他より購入乃至雇傭することに依る支出と自家供給に依る費用)に分離し比較することは農家に於ける支出に對する自家供給の程度、或は反對に金錢乃至物品にて直接支拂を要する部分の程度を明にするものにして農家經濟上必要なことに屬す。

左に呼蘭縣某地方に於ける右調査の結果を示さん。農耕規模の大小、性状等に依り、個々その支出種別に於ける程度を異にするは勿論なるも、之を大體中農同一地帯に於ける平均數字に付き比較表示せば左の如し。

(單位舊制、舊石=新石二・九五石、响當收支を示す)

比較項目 品名	支出合計	外部支出の割合		内部支出の割合		總支出に對する總收入(總支出を一〇〇とす)	平均收量並單價
		總收入に對する割合	小作に於ける總收入に對する割合	總支出に對する割合	總支出に對する割合		
甜菜	一四・〇〇圓	六五・八%	八〇・〇%	五・〇%	四九・〇%	七・五	④ 二・〇〇圓
大豆	七・五	二八・八%	五九・一%	三〇・二%	六九・八%	一四・九	④ 一・六〇圓
小麥	七・六	一九・四%	四三・四%	二四・二%	七五・八%	一三・三	④ 二・五〇圓

註 大豆、小麥には副産物として夫々五・二〇圓及六・四〇圓の粟稈收入が加算せらる。

右表各項目につき説明せむに、總支出に含まるる小作料、公租公課、役畜費、建物費等は同一場所、同一營農者に依る計算と看做し三種共同額に査定せり。但し公租公課中大豆、小麥に付ては粮石出產税、並附課税を要するため別途計上せり。

右表に依り明らかなるが如く甜菜に於ける總支出は大豆、小麥のそれに比し殆んど二倍に等しい高額を示せるが、而も(次項目の)外部支出の總收入に對する割合に在りてもその表面的支出部分は他に比し極めて高率を示せり。小作の場合に於てはその傾向特に顯著にして、外部的支出のみにて既に總賣上收入の約九〇%に達せり。右は一部支出經費の比較的多額なるに基因するも、次項中段の「總支出に對する外部支出」に依り明らかなる如く總支出に於ける外部的支出又最高を占め、大豆二九・六%、小麥二四・二%なるに對し甜菜は五〇・六%の高率を示し居る關係上總收入に對する表面的支出は勢ひ高率とならざるを得ざりし爲と推せらる、前項に詳述せるが如く、結局、甜菜は大豆、

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

一二六

小麦等在來商品作物に比すれば現在の所、甚だ不利なる採算状態にあるが、右表に示せし一例に依ればその収入は總支出に比し八〇%にも達せざるを知る。

因に前表作製の基礎たる原表により品種別、支出種類別の各生産費目を詳記すれば左の如し。

一 甜菜生産費

支出種別	費目	外部		内部		合計
		數量	單價	數量	單價	
種苗費	種苗費	二二斤	〇・八〇			一七・六〇
	肥料費	四袋	三・七〇			一四・八〇
春耕播種費	日工	六人	〇・二〇	二	一・二〇	一・四〇
	畜工	六人	一・〇〇	二	一・〇〇	一・二〇
管調製	日工	一人	一・〇〇	一	一・〇〇	二・〇〇
	畜工	一人	一・〇〇	一	一・〇〇	二・〇〇
收穫調製	日工	一人	一・〇〇	一	一・〇〇	二・〇〇
	畜工	一人	一・〇〇	一	一・〇〇	二・〇〇
市場運搬	馬車	四頭	一・六〇	二	一・六〇	三・二〇
	畜工	八頭	一・〇〇	二	一・〇〇	二・〇〇
地代(小作料)	公課					一三・五〇
	其他					一〇・三〇
合計						四一・五〇

二 大豆生産費

支出種別	費目	外部		内部		合計
		數量	單價	數量	單價	
種苗費	種苗費			二・三	一・〇〇	二・三〇
	肥料費			三	一・〇〇	三・〇〇
春耕播種費	日工	二人	一・〇〇	五	一・〇〇	七・〇〇
	畜工	二人	一・〇〇	五	一・〇〇	七・〇〇
管調製	日工	五人	一・〇〇	三	一・〇〇	八・〇〇
	畜工	五人	一・〇〇	三	一・〇〇	八・〇〇
收穫調製	日工	五人	一・〇〇	三	一・〇〇	八・〇〇
	畜工	五人	一・〇〇	三	一・〇〇	八・〇〇
市場運搬	馬車			二	一・六〇	三・二〇
	畜工			二	一・〇〇	二・〇〇
地代(小作料)	公課					七・一六
	其他					二・一六
合計						七三・九〇

三 小麦生産費

第六章 甜菜の大豆、小麦との採算比較

一二七



費目	外部支出		内部支出		合計
	數量	單價	數量	單價	
種苗費	—	—	—	—	—
肥料費	—	—	四・五畝斗	二・五円	九・六円
春耕播種	日工 三人	—	日工 三人	—	七・八円
管理	日工 三人	—	日工 三人	—	七・八円
收穫調製	日工 六人	—	日工 六人	—	七・八円
市場運搬	—	—	—	—	—
地代(小作料)	—	—	—	—	—
公租公課其他計	—	—	—	—	—
合計	日工 一二二人	—	日工 一二二人	—	七・八円

更に右費目別三品目の生産費調査表に依り夫々外部支出及支出合計に於ける比較を見るに左の如し。

甜菜、大豆、小麥の費目別支出比較

種苗費	外部支出に於ける比較		支出總計に於ける比較	
	甜菜	大豆	甜菜	大豆
合計	八・六円	—	八・六円	三・九円

費目	外部支出に於ける比較		内部支出に於ける比較		合計
	甜菜	大豆	甜菜	大豆	
肥料費	—	—	—	—	—
春耕播種	七・四円	—	—	—	七・四円
管理	四・三円	—	—	—	四・三円
收穫調製	一・五円	—	—	—	一・五円
市場運搬	—	—	—	—	—
地代	—	—	—	—	—
公租公課其他	—	—	—	—	—
合計	七・四円	—	—	—	七・四円

左表を見るに甜菜に於ける支出は特に外部支出に於て大豆、小麥に比し遙か高額を示せるが内最も多額を要するものは、市場運搬、收穫調製並管理等の諸作業に於ける出費なり。而して市場運搬費の如きは大豆或は小麥のそれに比し十倍以上、又甜菜總支出に對比するも約二八%の高額に達する状態なり。次に右表合計欄より甜菜、大豆、小麥の响當所要日工員數及所要役畜頭數を示せば下の如し。

品名	所要日工員數	所要役畜頭數
甜菜	大日工 四二人 小日工 四二人	八三頭
大豆	日工 一七人	一六・五頭
小麥	日工 一九・五人	一四頭

第六章 甜菜の大豆、小麥との採算比較

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

130

参考迄に左に南滿に於ける甜菜栽培の普通作物との毎响所要勞力比較を示せば次の如し。

第二百二十五表 普通作、並甜菜作所要勞力比較

作業別	甜菜		大豆		高粱		粟	
	日工	役畜	日工	役畜	日工	役畜	日工	役畜
前作物根株除去	1人	1頭	1人	1頭	1人	1頭	4.0人	1頭
施肥	5.0	4.0	6.5	6.9	1.0	1.0	1.0	1.0
整地播種	2.0	2.0	3.0	3.0	2.0	1.0	2.0	1.0
鎮壓	0.3	0.3	0.3	0.3	1.0	1.0	1.0	1.0
間引	5.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
除草中耕	2.6	2.8	2.5	2.5	1.4	1.4	2.8	2.8
收穫	10.3	11.8	11.7	12.2	4.0	4.4	2.8	4.4
穗切(土落、首切)	3.4	3.7	3.3	3.3	3.3	3.3	2.8	3.3
運搬	4.0	4.0	2.4	2.8	3.4	3.4	2.3	2.7
脱穀	1.0	1.0	2.3	2.3	4.4	4.4	5.6	4.4
合計	5.5	1.3	3.2	1.9	3.9	1.5	3.1	2.7

間引及中耕は作物に依り回数異なるも各合計数を記載せり。

本社經濟調査會の調査に係る滿洲甜菜糖業に依る。(南滿公主嶺地方に於ける村越氏の調査)

## 第七章 北滿に於ける亞麻・甜菜の過去並現狀

### 第一節 北滿に於ける亞麻事情

北滿に於ける亞麻の栽培は日露大戰前露國勢力の東漸に従ひ即ち西紀一、九〇〇年頃北歐洲露本國より北鐵西部線薩爾圖拉東部線海林附近を中心に露人の手に依り試作せられしを以て嚆矢とすと傳へらる。然れ共最近に至る迄亞麻加工業の企業化を見ざりしため、精製加工品用原料としての亞麻大規模栽培は計畫せられしことなかりしも、日本内地に於ける無限的需要を控へ一方北滿に於ける亞麻栽培の極めて適作なるを認めらるゝに及び茲に北滿に於ける亞麻工業の企業化を見るに至れり。即ち康徳元年五月資本金三百萬圓(内拂込百五十萬圓)を以て設立せられし滿日亞麻公司之なり。

滿日亞麻公司は本店を奉天に置き原料精製工場として現在雙城、海林、呼蘭、綏化、海倫、克山、泰安、拜泉、珠河並青林の十工場を有し(最後の二工場は康徳四年設立)六萬疋の亞麻精製能力(即ち栽培响數にて四萬响を要す)を具備す。

亞麻製品は他の纖維原料製品に比し、防水耐火性強く纖維細長なるため細美強靱なる織絲たり得而も光澤を有するにより一般家庭用品、工業用品として多岐多様に互る用途を有するが軍需工業用品として又重要缺ぐべからざる用途

を有するが故に、亞麻栽培適地たる北滿に於ては現地調辦主義に基き益増産增收を計られつつあり。現在滿洲に於ては原料亞麻を栽培せる後右の工場に於て精選し、半製品たる亞麻絲を製するに止まるが、本亞麻絲は更に内地富山に於ける亞麻精製紡績工場に送られ製品として一般各地市場にて消費せられつつあり。

最近に於ける世界亞麻工業の關係を見るに原料亞麻生産の大部分は露國にして、英國は原料を輸入して精製加工に當り、米國之が消費の過半を占め居りたるも、近年ソヴェートに在りては産業第二次五箇年計畫に基く國內リネン工業の發達により、自然原料亞麻の海外輸出減少せしが爲最近亞麻の歐洲市場に於ける市價昂騰は實に目覺しきものあり、又一方米國に於ける莫大なる需要を考慮せば、北滿に於けるリネン工業の將來性は實に洋々たるものと言ふを得べし。

(亞麻纖維生産各國別表参照)

### 第二節 北滿に於ける甜菜糖業事情

現在北滿に於ける製糖工業は左の二會社に依る甜菜糖業なり。即ち北滿製糖(以前阿什河製糖と稱す)及滿洲製糖(以前呼蘭製糖工場と稱す)之なり。兩會社の創業以來今日に至る迄の業績並製糖事情を記せば左の如し。

阿什河製糖會社

明治四十一年波蘭人グロトウス男爵なる者資本金百萬留を以て濱綏綏阿城驛側近に、本國より製糖機械を持ち來り、雙目、車糖、角砂糖、氷糖、酒精等を製造する工場を建立せるに始まる。

最大生産能力。甜菜裁斷一日(二四時間)能力四〇〇噸、而して北滿に於ける作業可能日數は毎年十月半より翌三月半に至る一五〇日間なるを以て甜菜根裁斷可能量六〇、〇〇〇噸なり。

砂糖歩留平均一四%として砂糖産額八、四〇〇噸即ち五一三、〇〇〇布度(一四〇、〇〇〇擔)なり。後述の如く呼蘭製糖は操短、休業、を繰返し昭和五年途に現在の北滿製糖(昨年末製糖開始)に至る間閉業し居りたるを以て結局北滿に於ける製糖工業は阿什河製糖の一人舞臺と稱するも過言ならず、從て最近に至る迄當社製品の競争品たりしものは輸移入品なりき。左に當社に於ける年別砂糖生産高、甜菜栽培面積、並甜菜根實收高等を表し併せて輸移入品との競争事情を記述す。

第二百二十六表 北滿製糖最近六箇年間甜菜栽培契約面積、甜菜根收穫高並砂糖生産高

年 別	栽培契約面積	總收穫高	砂糖生産高	會社名稱	布度買付値
一九三二年度	四、四二・五	七四、四九七	二〇、七六七	阿什河製糖	不明
一九三三年度	五〇、五九・五	一、六九、五五六	三六、三九四	同	同
一九三四年度	五、一七六・五	一、三三、四五六	一九〇、六三二	北滿製糖	一四分
一九三五年度	五、一三〇・〇	一、九三、一四四	三三、一六三	同	一四分
一九三六年度	四、四七二・五	一、五七、七三〇	二九、四〇〇	同	一六分
一九三七年度	五、七五五・〇	一、〇〇、〇〇〇	三六、三〇〇	同	一七分
一九三八年度	七、三三〇・〇	不明	不明	同	二三分

註 一九三七年度産甜菜根よりの製糖産額は平均製糖歩留一四%としての見込推想なり。

右表に於ける栽培面積は甜菜下種に當り農民との間に契約されたる作付契約面積にして實收穫面積には非ず(實作付總响數を知るは甚だ困難なり)部分調査よりの推定に依れば阿城縣内甜菜の每响收量は五—六年以前の一九三二年頃は平年作一三、五〇〇斤程度(最良二四、〇〇〇斤)なりしが現在は平年作一四、七五〇斤程度豊年作にて三〇、〇〇〇程度なり。

一九三七年(昨年)に於ける實作付响數は作付契約面積の六〇%内外と推定せらる(北滿製糖取締役チェックマン氏談)

北滿に於ける一箇年砂糖消費高は二十四萬擔と稱せらるるが(材木信治氏に依る「滿洲糖業を語る」より)

内北滿製糖會社にて生産せらるる數量は約二五萬布度約七萬擔なるを以て殘一七萬擔は輸入糖なり。曾て北滿製糖の前身たる阿什河製糖(チェックマン氏經營)時代には北滿鐵路より運賃の秘密割引を受け盛んに浦鹽經由にて砂糖を輸入し、自己生産品と共に哈爾濱糖業界を壟斷せしも北鐵接收と共に浦鹽經由輸入不能となりたるにより現在は自己生産品の販賣を主とし輸入糖を従とする方針を採れりと云ふ。

斯くて車糖は常に輸入糖に壓迫せられ其販賣價格又輸入糖採算價格に追従して決定せらる。但し雙目糖(ザラメ)並角糖は従前より北滿製糖の獨占する所にして現在に於ても哈市需要の殆んど全量を製造販賣し(曾て雙目糖の輸入せられたることありたるも北滿製糖は自己製品の價格を引下げ之と競争し、事實上雙目糖の輸入を禁止せしめしこと

あり)居るが如し。

氷糖は地場物及輸入物常に競争状態にありしが昭和十一年に至り北滿製糖は、傅家甸所在の滿人經營に係る小工場雙興號、中興其外一工場計三工場を買収し銳意之が製造販賣に努めし結果、氷糖の輸入數量激減せり。

呼蘭製糖工廠(現在滿洲製糖に併合せらる)

阿什河製糖工場設立翌年の明治四十一年(一九〇九年)、發起人李席珍なる者(交渉局官吏)の案にて設立を見、四年後の大正二年、前呼海鐵路馬船口驛東北方約八百米の地點に獨逸より購入せる製糖機械設備を有する製糖工場の落成を見たり。而して間もなく製糖歩留不成績、製品砂糖の品質不良其他工場採算不利等のため、又偶々大洪水に遭遇し工場水浸しとなりたる等惡條件續出のため且つは機械販賣會社よりドイツ政府を通じ負債返済履行を迫られしより民國元年東三省政府之を償還し(官吏李席珍は政府印鑑を濫用せり)以後東三省呼蘭製糖廠と呼び全く東三省の官營工場となれり。其の後北滿製糖(阿什河製糖)の活況に敵せず、依然として不振状態を辿り、民國八年一時工場を閉鎖し、同十一年再び操業せるも三年にして同十四年再び閉鎖せり。其の後昭和三年三度操業開始せるも二年後の同五年遂に永久休止の運命に陥りたり。

同工場は一晝夜二五、〇〇〇布度の甜菜截斷能力を有す、従つて一箇年の操業可能日數を一五〇日とせば、甜菜消化最大能力は一箇年二五〇萬布度となり、更に製糖歩留一〇%より産糖量を推定せば最大能力にて年産二五萬布度即ち六萬八千擔に達す。

昭和拾年拾月資本金壹千萬圓四分之二之壹拂込みにて、南滿に於ける奉天工場並びに近く新京南方范家屯に移轉さるべき鐵嶺工場及び哈爾濱工場の三工場を買収せる滿洲製糖(社長赤司初太郎)の新設を見たり。而して哈爾濱工場の實際の運轉開始は昭和十二年末にして同年度産甜菜よりの産糖量は六百貳拾萬斤(六萬貳千擔)即ち約貳拾貳萬七千布度の豫想なり。康徳四年度滿洲製糖に於ける甜菜縣別栽培契約响數、實收高並平均响當收量を記せば下の如し。

第二百二十七表 滿洲製糖哈爾濱工場康徳四年度甜菜栽培成績

縣名	栽培契約面積	實收高(新滿斤)	响當平均收量
哈爾濱市	三三・七〇响	四、七〇六、八二七斤	一三、九三三斤
呼蘭縣	二、五〇五・〇响	三、〇二八、九〇五斤	一二、三五六斤
雙陽縣	一、六二三・〇响	一九、五九五、二四〇斤	一二、〇三三斤
綏化及巴彥	一、三〇四・〇响	一九、六二三、九二六斤	一五、〇二五斤
合計	五、七六九・〇响	七四、九五四、八九八斤	一二、九六〇斤

註 右契約面積合計は五、七六九响なるも實測收穫面積に於てはその七〇%内外のもの如く推料せらる、從つて响當平均收量(右表に於ける數量)は適確なるものに非ず當會社の甜菜栽培初年度に於ける响當成績とも見るべきものなり。  
實測面積を七〇%とせば總平均响當收量約一七、三〇〇斤程度となる。

右の中最優良なる成績を挙げしものは呼蘭縣孟家屯に於ける每响五四、〇〇〇斤なり。因に康徳五年度同社哈爾濱工場栽培契約豫想响數は八、二七二响なり。

參考迄に滿洲製糖康徳四年度産甜菜に付き同社に於て試験調査の結果(收穫前三週間)甜菜根含糖分最高一九、一六%(度と稱す)最低一三、二一%なる成績を得たり。經驗に徴するに收穫期に在りては大體平均一七%内外の成績を有するものなりと(當事者の談)。

次に滿洲並に北滿に於ける砂糖消費高及世界各國に於ける砂糖一人當消費量に就き一言せん。

村木信治氏著「滿洲糖業を語る」に依れば、「支那或は滿洲程砂糖の消費量が年に依つて變る所はなからう。景氣と砂糖値段とに依り全く左右せられるのである。北滿に於ても統計數字から見ても最高一箇年四三萬擔の消費を見、現在では殆んどその半分程度が北滿に於ける消費量とされて居るのである。即ち昭和八年滿洲へ二百萬ピクルの砂糖が輸入され、その中四三・七萬ピクルだけ大連より再輸出されて居るから實際は一五六・三萬ピクルの純輸入となる、翌年の昭和九年になると一、五二七、〇〇〇ピクルの輸入に對し三三三、二六九ピクルの再輸出となり結局一二一・三萬程度の純輸入となり、前年に比較すれば三五萬ピクルの差となる」。

氏の推定に依れば滿洲に於ける最近一箇年間の砂糖消費高は、

輸入糖一〇〇萬擔、密輸入糖推定量二〇萬擔、(二〇%)並北滿産糖七百擔、合計一二七萬擔にして南滿並北滿別に其消費を推定せば、割合八一%及一九%より大體南滿一二三萬擔、北滿二四萬擔なり。因に日本に於ける昭和十年現在の砂糖需給關係を示せば、生産高一八、三五二、〇〇〇擔に對し消費高一六、五〇五、五四四擔、餘剰高一、八四六、四五六擔なり。(滿洲製糖調査資料に依る)。

之より一人當り消費量を推定せば(全滿にて)滿洲總人口三千萬として四・三斤(日斤)即ち二・八疋なり。各國に於ける砂糖一人當り消費量(一九三三年現在滿洲製糖調査資料に依る)左の如し丁抹五六・一疋、英國四八疋、スエス四七・三疋、瑞典四五・五疋、米國四五・一疋、アルゼンチン二八・三疋、オーストリア二五・九疋、佛國二四・六疋、チエツコスロバキヤ二四・六疋、獨逸二三疋、ブラジル二〇・九疋、スペイン一二・五疋、日本一〇・一疋波蘭九・八疋、ロシア五・一疋、イタリー七・七疋、支那一・三疋。

次に哈鐵囑託軍司義男氏の翻譯に係る北滿製糖取締役チエツクマン氏談「北滿に於ける甜菜糖業」を掲ぐ。

## 北滿に於ける甜菜糖業

「滿洲國に於ける本年の砂糖需要高は一、八〇〇、〇〇〇ピクル(六、五〇〇、〇〇〇布度)であるが毎年の人口増加を豫想すれば十年後には其需要高は一年平均二、四五〇、〇〇〇ピクルに達するであらう。

現在滿洲國內で動いて居る製糖工場は三箇所(阿什河、哈爾濱及奉天)で其製糖能力は三五〇、〇〇〇ピクルであるが、明年はもう一つの工場鐵嶺が動くことになるから製糖能力は四五〇、〇〇〇ピクルに増加する。之を滿洲國の砂糖需要高から見れば尙十八工場を設置する必要がある、而して之に要する原料は一、二〇〇、〇〇〇噸で其耕作面積は一、二〇〇、〇〇〇ヘクタールであるが將來耕作法を改善すれば之を八萬ヘクタール位に減することも出来る(即ち一ヘクタール當り收穫十噸を十五噸に増す)

甜菜糖工業は地方に砂糖を供給するのみならず、農業に對し又農民の生計安定に對し裨益するところ少なくない、

現在滿洲國の主要農産物は大豆であるが、之は大部分が外國へ輸出せらるゝ爲め、農民は勢ひ外國市場の動きに釣り込まれ、生計が外國市場に左右せられることとなる。然るに甜菜栽培は地方的の需要を充たすのであるから農民の收入に安定を與ふことが出来る。

製糖工業進展の要諦は、第一。工場生産力に相當する原料の準備、第二。工場の技術的運轉にある。

原料を充分に入手せんが爲には甜菜の栽培を最上とし而して甜菜の値段は大豆の値段を標準とすべきである。大豆一响當りの收穫は五石即ち六五布度であるが、昨年の大豆相場は平均一布度一圓五二錢であるから一响當りの收入は約九九圓である、この中種子代及地稅を差引くと手取九二圓となる。然るに一响の收穫たる大豆(六五布度)の搬出には馬車一臺で足りるが、甜菜では一响當り四五〇布度として七臺を要する此の外甜菜栽培には發芽後の間引き、除草成熟後掘出等の煩雜なる手數を要する。

然るに農家では人手の少ない家や役畜の頭數不足の家もあるから、以上の仕事は農民の附帶收入となるとしても之を概算すれば响當り一六圓位に見積らねばならない。

歐洲では甜菜の葉や其の残滓は牛馬の飼料となつて居るが、滿洲の農家では家畜も少なく又之を有たぬものもあるから、此等の飼料は甜菜栽培者には未だ問題となり得ない。以上のことを前提とすれば昨年の實狀からして一响當り甜菜收穫四五〇布度に對しては大豆耕作の場合の手取り金九二圓に前記甜菜に要する附帶費一六圓合計一〇八圓を拂はなければならぬ、即ち布度當り二四錢である。

然るに原料代と勞力代とを拂ふものは企業家でも資本家でもない、結局製産品たる砂糖の値段から打算せねばならぬこととなる、而して昨年現在の砂糖輸入税を以てしては甜菜一布度に對し一七錢五厘以上は拂ふことが出来なかつた、斯ふなると農民としては甜菜栽培をしたのでは引き合はない、工場としては原料不足で其能力を充分に發揮することが出来ず人件費其他の諸掛も何等節約し得かつたのである。

昨年我工場で甜菜栽培契約した地積は五、七七〇响であつた、而して昨年响當り收穫高は五〇〇布度餘であるから、甜菜收穫高は三、〇〇〇、〇〇〇布度に達すべきであつたが、實際は僅かに一、八三〇、〇〇〇布度であつた。是れ農民側では大豆の方が遙かに有利であるので、甜菜契約面積の六〇％程度しか栽培しなかつたのに因るものである。

本年に至り地方製糖工業保護の目的を以て砂糖の輸入税は一ピクル當り二圓八〇錢（即ち布度七七錢）だけ増額となつた、此結果我工場では甜菜買入れ値段布度十七錢五厘を廿五錢（此内運搬費として約二錢を加算）とし、七錢五厘を増額することゝした、換言すれば一布度の砂糖を製するに原料七布度餘を要するに付、砂糖一布度に對し約五十五錢高くなつたことゝなる。之は要するに我工場としては輸入税の増額を農民に提供し、それが原料高の結果となつた次第である。以上の結果我工場としては本年こそ充分に原料を入手し得る確信が出来たので製品のコストも低下するを得べく斯くて獨り工場のみならず一般に利益を齎らすことゝなる。

甜菜の値段と製糖工業は官憲の統制を受け諸工業全體が政府のコントロール下に入ることゝなつたので、今後は工場側でも農民側でも好都合となる次第である。

本年大豆の値段は布度約一圓であるから一响當り農民の収入は六五圓あるが、甜菜は一响四五〇布度收穫と見て布度當り二五錢とすれば一一・五〇圓で此内先に述べた諸掛一六圓を控除すれば手取り九六圓五〇錢となる。更に大豆を耕作すれば農民は種子代と地税を拂はねばならぬが甜菜を作れば無料で配布を受け地税は免除の特典がある、種子と地税とは大抵八圓位利得になる、斯うなると甜菜を作れば一〇四圓五〇錢に附帯作業及運搬賃の儲けがあるが、大豆を作つたのでは現在の相場にして响當り七〇圓以上の收穫は望めないのである。

甜菜栽培が如何に農民に取り有利となつたかは次の一例を見ても了解せらるゝのである、即ち昨年は三五〇〇响の甜菜栽培契約に三ヶ月半を要したものが、本年は僅に二日で契約が出来たのである。

次に工場の技術方面に就き一言すれば、工場としては一日の操業能力を全部利用するのみならず出来るだけ之を増大することが必要である、即ち同じ數量の原料を消化するに成るべく其の期間を短縮し以て石炭の消費量を少くし臨時雇人夫工賃を節約することにある。

我工場の原料消化量は一晝夜四百瓩（二四、四〇〇布度）であるが機械の或る部分に改善を施せば之を二七、〇〇〇布度に引上げることが出来る、工場今期の操業は昨年十一月六日に開始し、本年一月十五日に終了した、即ち七十日間の操業であるが、原料さへ都合付けば更に冬期七十日之を延長することが出来るのである。

工場の操業上最も必要なことは含糖分の逸脱を最少限度に止むるにある。

昨年收穫甜菜の含糖分は平均一六・六五％、製品となる砂糖は一三・五五％、殘逸脱が三・一％であるから之は最少

限度と見るべきである。

右三・一%の逸脱中糖蜜となるものに糖分二・三五%を含んで居る、此の糖蜜を原料とし我社は附屬工場でアルコールを製造して居る、尤もステッフエンス式工場では糖蜜からも砂糖を採つて居るから糖蜜は殆んど出ない。然し何れが好いかと謂ふことは問題である。

我工場で完全にロスとなつたものは残滓中の含糖分〇・三二%、糖分滲出中に〇・一一%、不純物濾過中に〇・二〇%、其他〇・一二%合計〇・七五%であるが嚴格に言ふときは成績良好とは認められないかも知れぬ。

今期我工場の製糖量は二五一、〇〇〇布度であつたが次期には之を倍加する豫定である。

以上の如く滿洲に於ける製糖業は漸次良好なるの條件を具備しつゝ、あり將來益々有望なるは疑ひなき所である。

## 第八章 結 論

以上各章に亘り、亞麻並甜菜の大豆及小麦に對する生産費上より見たる農家收支の比較を究め、亞麻並甜菜栽培に於ける支出増加の特異性を費目別に明らかにせる後、北滿に於ける亞麻並甜菜の過去及將來性に付き其等製品の需給關係より益々重要な意義を有することを強調せり。

次に結論として亞麻並甜菜の自然的適地條件を明らかにし、北滿に於ける亞麻耕作並甜菜栽培の適不適性を再検討し、一方農家經濟の向上を期すると共に所期の目的を達せしむる方策の一端を述べんとす。

### 第一節 亞麻耕作適地並北滿に於ける亞麻作の適否

亞麻單位面積當收量並品質の點よりして亞麻耕作の適地たり得べき自然的條件即ち氣候、土質關係に付き好適條件を列記せば左の如し。

一 亞麻は元來比較的溫暖なる地方を原産地とする植物なるも纖維作物としての亞麻は溫帶北部の稍冷涼なる氣候地に適し攝氏廿五度以下なること、而して相當の濕度を有する氣象狀態の下に生育せる亞麻纖維は品質良好にして絹絲の如く細靱且光澤を有すと言はれ、之に反し溫暖にして乾燥せる氣象狀態の下に生育せるものは纖維の長さ短く且粗剛と稱せらる。



北滿に於ける亞麻並甜菜の栽培大豆、小麦に對する採算比較

- 一 發芽生育期に於ける氣温の上昇徐々にして寒暑の差大ならざること。
- 一 ※同期間中比較的降雨多量に恵まらること。尤も降雨の回数多く亞麻生育に對し分配適切なるを得ば案外少量にて足るも年降水量としては五〇〇耗より一、〇〇〇耗程度を適量とす。
- 一 收穫調製期に於ては、他作物同様特に亞麻に在りては天日乾燥、脱穀等の諸作業のため高温、多照寡雨なること。

※ 米國コロラド州アクロン農事試験場にて行ひし實驗に依れば亞麻の無水物百ポンドを成産するに要する水量は九百五ポンドに上り高粱に於ては三百二十二ポンド黍に於て二百九十三ポンドを要すと（産業部農務司友納氏調査に依る「亞麻資料」第二十頁）

- 一 ※地中水分多く排水良好なること。
- 一 アルカリ性土壤ならざること。
- 一 粘土質を避け砂質壤土質を可とす。

次に世界に於ける最も優良なる亞麻生産地として、右の如き好適なる氣象條件を具備するはアイルランド、並に和蘭より佛國に連れる沿岸地帯と言はる、左に英國アイルランド州バレンチャ地方に於ける氣象要素の一例を示し之を北滿に於ける哈爾濱地方の平均（月別）に比較表示せば下の如し。（平均温度並水量北滿は一九〇九年より一九二八年に至る二十箇年平均に依る。平均温度北滿は最近五箇年間平均に依る）

第二百二十八表 世界優良亞麻生産地、哈爾濱地方に於ける氣象比較

月別比較	期		氣温		湿度		降水量	
	バレンチャ	北滿	バレンチャ	北滿	バレンチャ	北滿	バレンチャ	北滿
八月	收穫	收穫	—	二・六	—	八〇	—	一九・八
七月	收穫	生育	一四・七	三三・三	六四	六六	六四・三	一四九・〇
六月	生育	生育	二三・六	二〇・三	六三	六九	八〇・三	九九・五
五月	生育	播種	二二・二	一五・八	七九	七五	八九・七	四三・二
四月	播種	—	九・二	—	八五	—	二九・九	—

右表に依つて見るに氣温に關しては哈爾濱地方は稍高温に傾き、降水量に於ては播種期に在りて僅少に失し收穫期に入り過多に陥る弊あれど湿度の點にては略同一傾向を辿るものと言ひ得べし

以上の諸點を綜合するに、第二項に於ける「氣温の上昇徐々にして寒暑の差大ならず」の項を除けば、北滿に於ける亞麻栽培はその收量の點よりして概して好適なるものと言ひ得べし。現に北滿に於ける亞麻は大規模作は開始以來僅か數年を出でず而も粗放幼稚なる經營技術下に在りて、既に北海道に於ける反當收量に劣らざる成績を挙げ居る現狀よりしても之を立證し得べし。尤も第二項並に右表比較に於ける如き氣象關係よりして亞麻莖品質の點に付ては内地（北海道）ものに比し比較的木質部多く纖維素稍少量なる憾あり。

(滿洲に於ける亞麻適地並に現在工場所在第一圖参照)

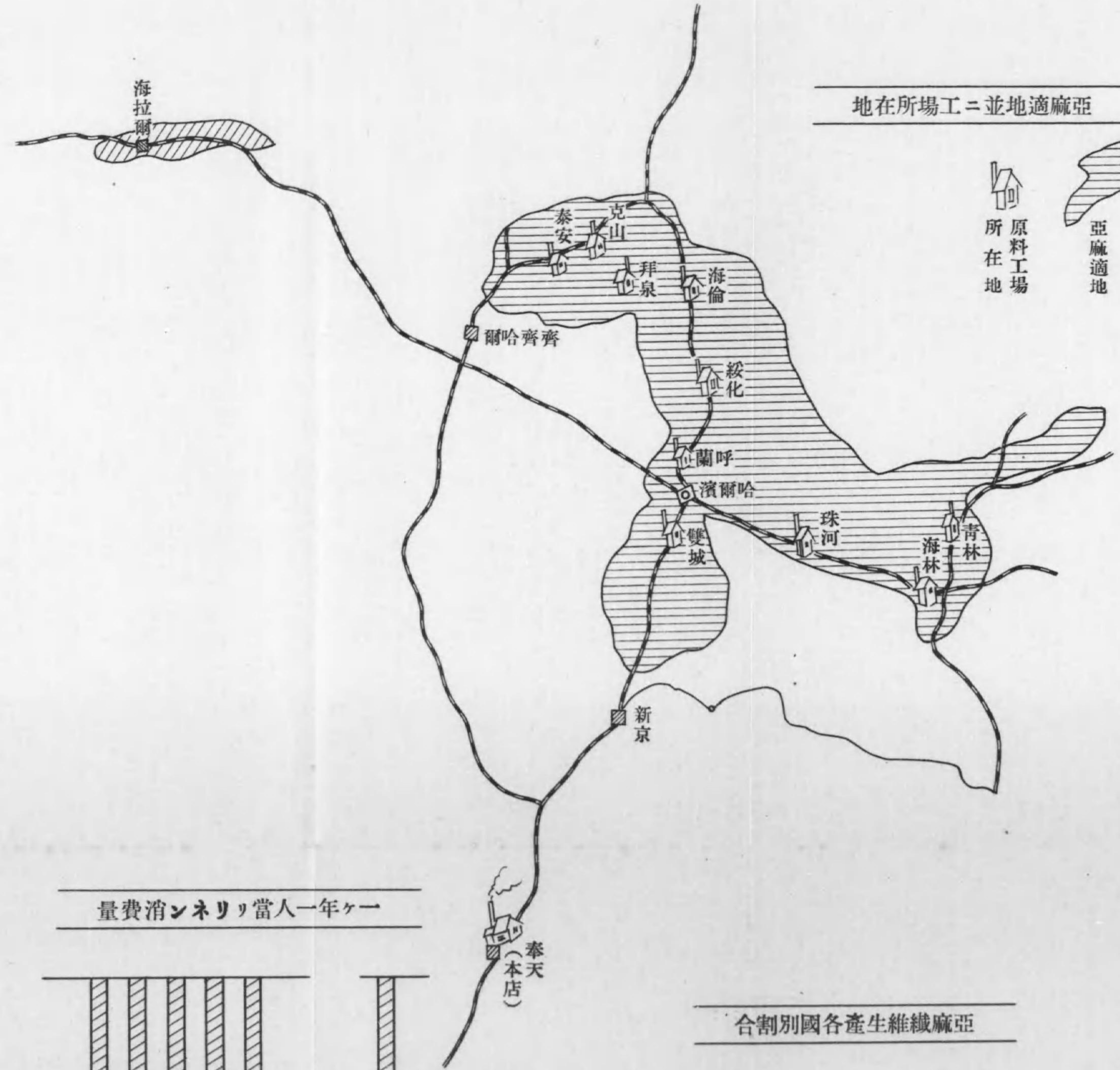
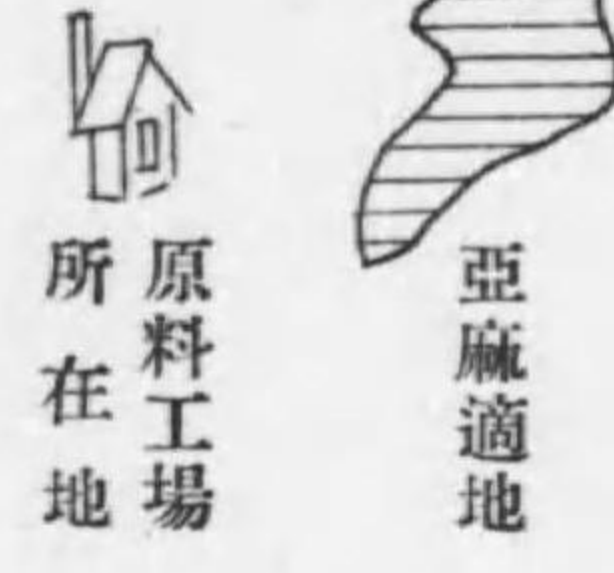
因に滿洲國實業部友納氏に係る「亞麻資料」中より亞麻品質の肉眼鑑定に於ける標準を列記せば次の如し。

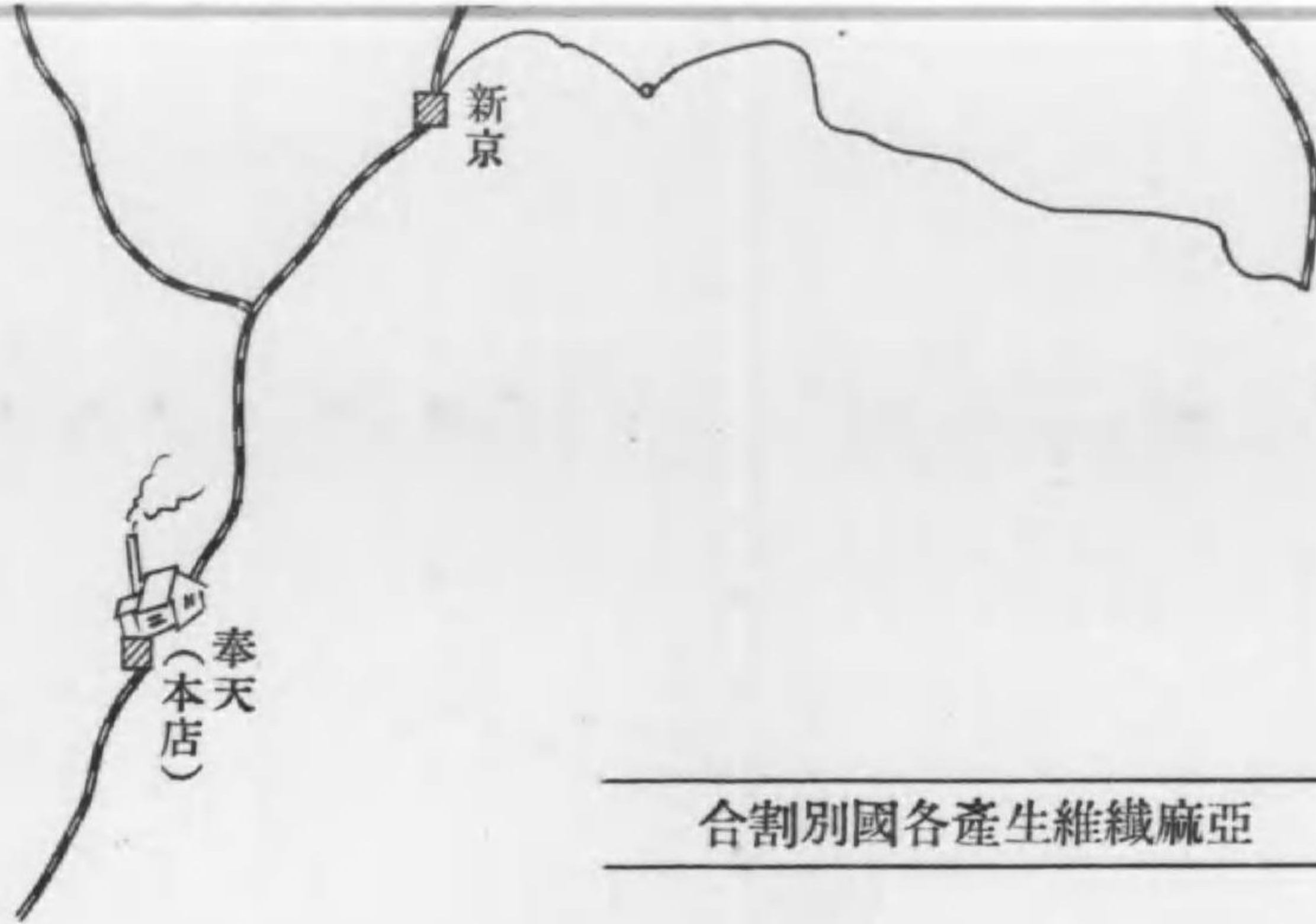
亞麻莖品質の肉眼的鑑定標準

- 一 子葉痕より第一分枝に至る莖長  
三尺内外のもの 一等級 二尺五寸内外のもの 二等級  
二尺二寸内外のもの 三等級 二尺以下のもの 等外
- 但し莖長右標準に缺くる所あるも纖維步留豫想其の他の條件優る際は等級格上げのことあるべし。
- 二 莖稈の細さ。最良なるものは莖の根元より三分の一位の點の直径五厘程度のもの(即ち一寸幅に二十本並ぶ程度のもの)にして之に比し小なるものは細に失し大なるものは粗大となり、共に品質低下す。  
尙根元より穂先きに向ふ間漸次細くなり其の間格段の差なきを良とす。
- 三 莖の色澤。淡黄褐色にして光澤を有するもの即ち枇杷色を最上とし、黄色及黄白色之に亞ぐ。綠色のものは一般に不良にして又色の如何に拘らず光澤に乏しく、色澤の濁れるものは質不良なり。
- 四 莖の硬軟。柔軟にして弾力に富むものを良とし、粗硬のものは不良なり。
- 五 根の状態。根は眞直にして細なるものを良とす。
- 六 枝の分枝状態。莖の上部に在りて二、三本短き分枝を有するものを良とし、分枝多きに失するものは一般に品質低下す。

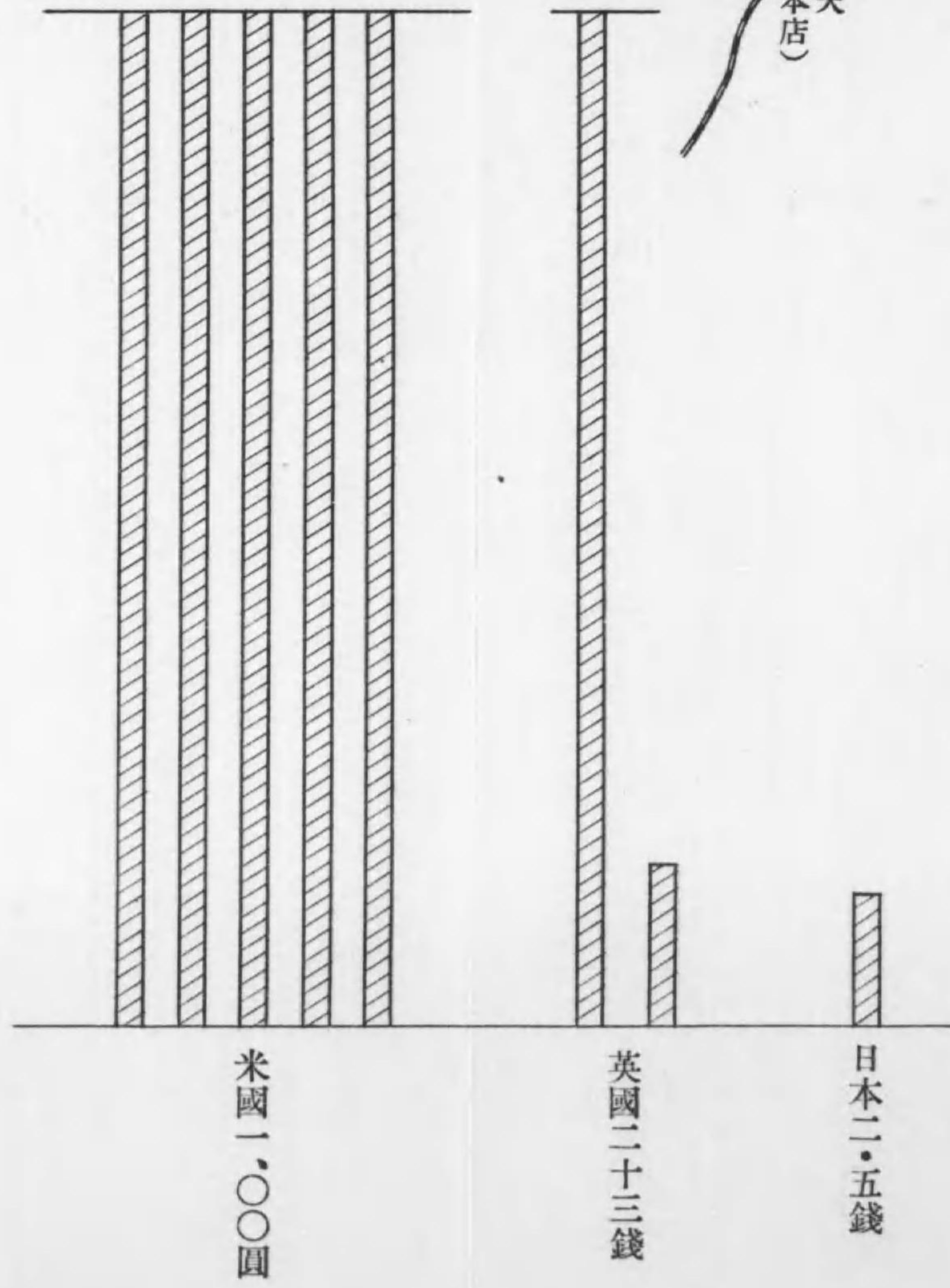
第一圖

亞麻適地並工場所在地

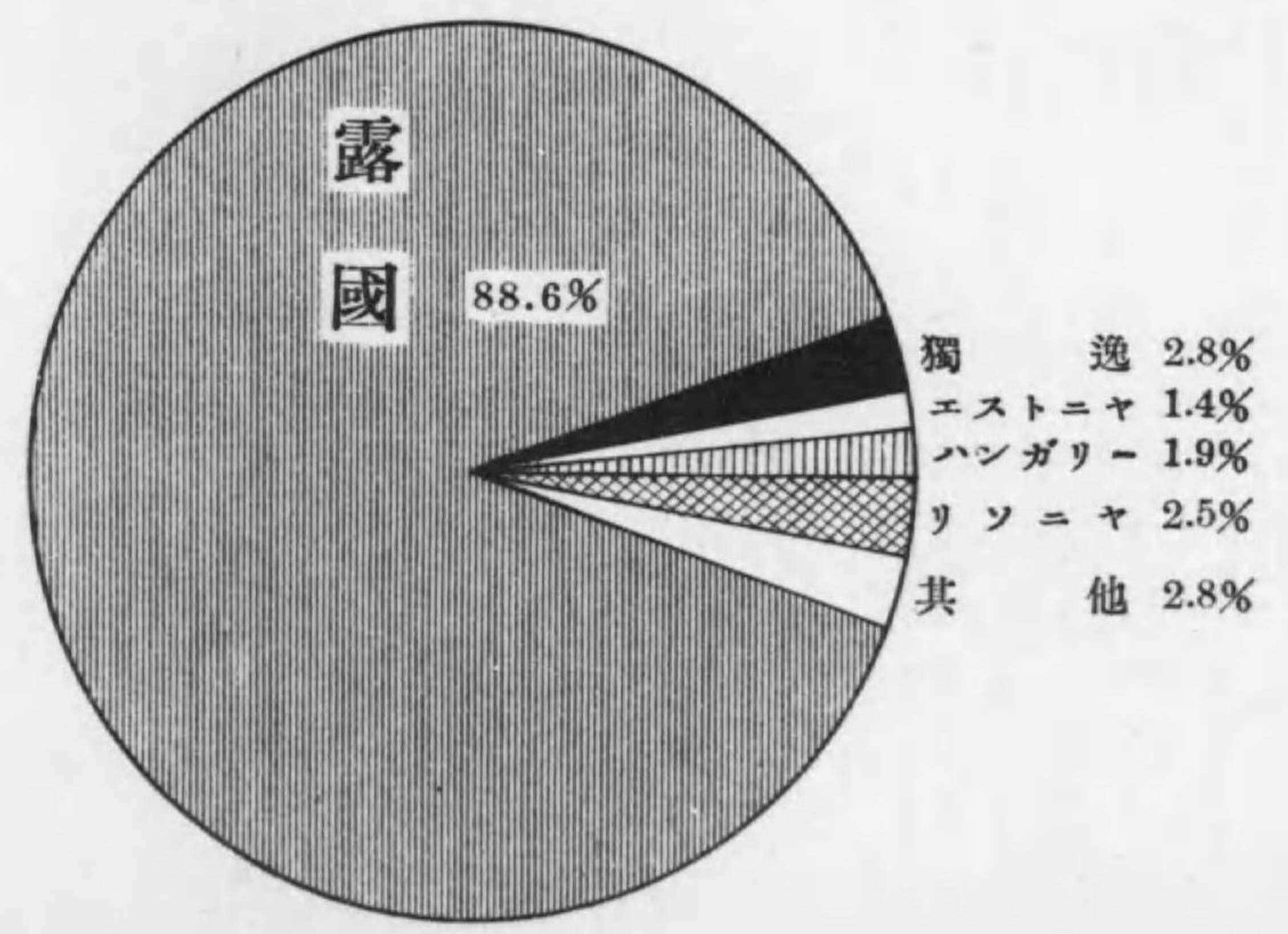




量費消ンネリッ當人一年ヶ一



合割別國各產生維織麻亞



- 下す。
- 七 乾燥充分にして不揃莖其の他損傷莖混入せざるものを良とす。
- 八 土砂附着、雜草混入等なく荷造完全なるものを良とす。

## 第二節 亞麻増産對策

### 第一項 亞麻買付妥當値段

第二百二十九表 亞麻莖品質別に依る亞麻纖維百斤當工場生産原價調  
(滿洲國實業部農務司友納氏に依る「亞麻資料」第九六頁を參考とす)

摘要	品質別				備考
	一	二	三	外	
生莖對纖維步留	三%以上	二一三%	九一二%	九%以下	劣年莖短く軽きため浸水費を多く要す
平均步留	一四%	二二%	一〇%	八%	
生莖千斤當單價	六・〇〇圓	三・〇〇圓	一・九〇圓	一〇・〇〇圓	
諸獎勵費(千斤當)	二・六〇	二・六〇	二・六〇	二・六〇	
浸水費每千斤	三・〇〇	三・一〇	三・三〇	三・五〇	
計(千斤當り)	三・六〇	二八・七〇	二二・六〇	一六・一〇	



北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

一五〇

註 大豆平年收量を四・五萬石(重量にて九七三疋)と假定せり。\*亞麻子實收量を四百斤(④三・〇〇圓)、六百斤(④三・五〇圓)、八百斤(④四・〇〇圓)とし夫々上欄一响當り當然收入金額より控除各亞麻莖斤量にて除せり。○印は最近哈市交易所に於ける大豆限月相場近似値なり

次欄大豆一响當り收入金額は右相場(六〇疋當り)による九七三疋(舊四・五石)に對する相當金額なり。之に亞麻耕作に於ける對比大豆耕作時の過剩支出二五・〇〇圓(第五章第一節亞麻の大豆、小麦との收支比較表より)を加算し亞麻一响當り當然收入とす

註欄に示す如く亞麻莖一、五〇〇斤乃至二、〇〇〇斤の收量を擧げ得る際の亞麻子實を四百斤、參等品(每百斤三・〇〇圓)と見做し、又二、〇〇〇斤乃至二、五〇〇斤なる場合六百斤、貳等品(每百斤三・五〇圓)、二、五〇〇斤以上なる場合八百斤、壹等品並貳等品の中間と夫々見做し、右當然收入より夫々子實收入金額を控除し以て右表三段の場合に於ける亞麻莖百斤當り額を算出せり。即ち二、〇〇〇斤程度の收量にて子實又安當收量を得れば、現在の大豆價格を基準とせる亞麻莖の格好價格は略三・九〇圓乃至四・一〇圓(◎印)見當なり。尤も最近亞麻公司發表の康德四年度產亞麻成績に徴し平均收量を二、五〇〇斤程度とせば右表下段の二・七〇圓乃至二・八〇圓が標準値段たり得べし。

收穫大豆の收入は農家庭先相場を以て計上すべき筈なるも、哈市と現地との間には大なる差なく、一方大豆副収入たる莖稈收入を評價計上せざれば本差額は略パーと認めらるるにより便宜哈市交易所相場を以て換價計上せり。右の標準値段二・七〇圓に對し、前述亞麻生産原價より逆算せる二・〇九圓の最高値は明らかに大なる矛盾なり。前述亞麻

纖維原料倉渡相場に不明の點存するが故なるべし。

## 第二項 亞麻増産獎勵具體策

一 亞麻原料工場所在の各縣には亞麻技術指導員の増員を圖り、亞麻耕作勸誘及耕作に於ける技術指導の徹底を期すこと。

一 工場は縣當局と協力、適品種の撰定育成に努め、且必要面積の原種圃を經營すること。

一 後述の「亞麻耕作に於ける要綱」にも記せる如く特に左記に指導監督の徹底を期すこと。

一 上等地の撰定、播種に在りて整地を良くし種子均一なる散布をなすこと、其地其年に適合せる播種期の適切を得ること。

一 善良なる管理の下に、天災に依り收量著しく減少せる際は生産費合計の半額程度を保證すること。

一 運搬費の補助

一 一响よりの收量大車一日一台にて運搬し得ざる場合、その以上の運搬勞役に對しては補助をなすこと(大豆一响收量運搬勞役に比較せり)。

一 春耕資金の貸與は日工賃昂騰の時期を撰びて多く貸與すること。

一 後述甜菜増産具體案に於ける如き増産獎勵策を講ずるは以上の諸事項と併行し必要なることに屬す。即ち品評會等の開催を盛にし、増産獎勵金の交付をなすこと(亞麻生育中の品評等級を附し、畑地に等級賞を記せる立札をな

す等も有效なるものの如く思料せらる)

前述せる如く北滿に於ける氣象状態は亞麻耕作に對して略好適なるも嚴密なる標準よりせば北滿全般に就ては生育期間多少短きに失し、收穫調製に於ける降水量稍多きに過ぐる嫌ひなしとせず。されば滿洲に於ては滿洲に好適なる適品種の撰定育成最も緊要なるべく、之が完成の曉に於ては北滿洲全般的に見たる亞麻品質の向上、收量の増大は蓋し著しきものあるべし。

### 第三項 亞麻耕作要領

(農民の亞麻耕作指導のため發行せる滿文案内書中より摘出翻譯せるものなり)

#### (一) 整地

耕地は表土層深き肥沃の土地を選ぶこと。

耕地は大犁丈を用ひて深耕したる後轆子を用ひ充分土塊を粉碎し表土を均一となし又草根、刈株、莖稈等を除去のこと。

#### (二) 播種

整地を終りたる當日又は二日以内に下種す、下種に際しては種子を疎密なく平均に撒播する様注意のこと。播種は陽曆四月下旬頃より遅くも五月中旬頃迄に完了のこと。

覆土は極く淺く平になすこと、木枝ハロー或は細齒耙子を以て軽く覆土したる後頭轆子を用ひて鎮壓す。

#### (三) 除草

五、六寸程度は苗を踏み歩くも何等害を認めず。此の期間内に雜草の抜き取りを行ふものとす。但し曇天日を選ぶを可とす。

第一次抜き取りは苗一、二寸程度に延びたる頃、素足或は布足袋を穿ちて畑に入り、亞麻より高き雜草を手にて抜き取り之を籠に入れ置き一括他所に捨つるものとす。斯様にして亞麥苗五、六寸程度迄に少くとも三回の除草をなすこと。

#### (四) 收穫 (抜き取り)

開花後十五日以内に於て莖稈稍黄色となるを待ち抜き取るを最良とす。

亞麻を抜き取る際は三尺位の間隔を保ち、亞麻莖の上部を固く握りて強く引き抜き、根部を足に打ち着け土塊を打ち落とす。土塊を打落したる亞麻を地上五分位の厚さに並べ之を天日乾燥す。

#### (五) 天日乾燥法

出來得る限り亞麻抜き取りは晴天午前中に完了のこと。前日良く乾燥せる亞麻は翌日反轉して乾燥を良くす。

#### (六) 亞麻堆積法

既に天日乾燥を終りたる亞麻は兩手を用ひ一束となし、二、三本の丸太を南北方面に並べ(或は煉瓦二枚重ね並べる)其の兩端に七尺程度の丸太を立て其の間に亞麻を積み重ね。堆積の際は穂先きを外側に、根部を内側に向け互



ひに交叉し高さ約二尺程度迄積み終る毎に二本の丸太（或は小束の亞麻莖にても可）を挿み、通風を良くし乾燥を容易にす。堆積高さ五―六尺、長さ十六―十七尺程度に達すれば上部へ屋根を覆ひ以て雨水の浸入を防ぐ。亞麻堆積の周圍には溝を掘り巡らし雨水の流入乃至溜りを防ぐ。十五日乃至二十日間位堆積後黄褐色の光澤を呈するを待たせて脱穀す。

(七) 脱穀法

充分天日乾燥を終りたる後堆積を解き、枝に軽く打ち着け脱穀す。脱穀したる後は莖稈の長さ、太さ、並色澤等外觀の一樣なるものを夫々配分し之を束ねる。束ねる際は穂先を内側に、根部を外側に向け、重量約五〇斤位の大束となし、之を三箇所（三段に）堅く縛る。

註 亞麻は連作を特に嫌ひ、七年一回程度の輪作とすべし

第三節 甜菜栽培適地並北滿に於ける甜菜栽培適否

甜菜栽培に在りても一般他作物同様自然的適地條件としては一に氣象關係二に地質關係により決定せらる。

甜菜栽培適地としての氣象條件

甜菜は極寒極熱地帯を除く他總て成育を見るものと言はるるも、寧ろ稍寒冷の地に適し、歐洲に在りては主として北緯四七度より以北五十四度に跨り、米國加洲に於ても北緯三四度迄北進擴大し栽培せらる、降水量に付ては、成育

期に於ては比較的多量を必要とするも、貯糖期即ち成熟末期に至りては雨量寡少なるを可とし、晝夜寒暖の差大なるを良とす。甜菜は成熟に約六箇月を要するを以て生育期間を左の三期に分ち、夫々各期間に必要な標準氣溫並雨量を（ブリーム博士の説）示せば左の如し（本社經濟調査會調査に係る滿洲甜菜糖業方策）

	氣溫	雨量(耗)
發芽期(五―六月)	一〇・七度	六七
生育期(七―八月)	一八・八度	一一四
成熟期(九―十月)	一六・五度	一〇〇

過剰なる水分は菜根大なるを得、收量成績良好なるべきも根中の糖分含有率に低下を來すべく隨て品質の點よりすれば疑問なり。成熟期に於ける北滿の氣象は前述せる如く雨量寡少快晴の日多き（乾燥する）を以て甜菜栽培上より見れば最適なる氣象條件と言ひ得べし。

甜菜栽培適地たるべき土質關係

一般的に甜菜は粘土壤土に栽培するを最適とせられ、高粱、粟、大豆、麥類等の良作なる地は亦甜菜に取りても適地とせらる。砂質壤土必ずしも不可ならざるも（根中の含糖率は普通）菜根の收量少量なる嫌あり。砂質黃土及強粘土質は最も不適なり。

甜菜根の鬚長きは六尺に及ぶものあり、從て表土並下層土は相當厚く、且其の質膨軟にして空氣の流通、日光透射

容易及地下水線深きを要するものにして、砂質或は強粘土にして冷濕、排水の便悪しき地は最も厭ふべし。下層土硬固に失せば菜根地上に抜き上り、地上に顯はれし部分は綠色を帯び含糖分減少す。

参考迄に左に甜菜根の品質良好なるものの肉眼鑑定法を附記す

- 一 葉の平面に展開し、成熟に際し地上に平伏するものは其の地上に向上するものに比し含糖率略一—三%多しと謂はる。
- 二 莖葉七乃至十二葉のもの最も根中の糖分多し。
- 三 根中纖維圈の緻密なるものを良とす。
- 四 莖葉の表面に褶皺多きものを良とす。

(菜根正形なるもの必ずしも含糖分多からず)

次に甜菜栽培上適地を撰定すべきは勿論なれ共、更に製糖工場設置に當り之が適地撰擇は前者に追隨して最も重要なことに屬す。即ち甜菜製品(砂糖)生産原價、及生産品處理に直接影響を有し、從て原料甜菜買付價格に影響を待つが故なり、製糖工場としての適地條件を擧ぐれば次の如し。

- 一 甜菜栽培に適し運搬に便なる農耕地帯の中心地たること。
- 二 良好なる工場用水を安價、容易に得らるゝ地點たること。
- 三 石炭を容易安價に得る地點たること。

四 石灰石を容易安價に得る地點たること。

五 製品消費地の附近或は消費地への運費輕少なる地たること。

軍閥當時、官營工場たる呼蘭製糖工廠擁護のため、甜菜栽培地積に對しては地捐其の他公課を免除し又輸入糖に對しては輸入税其他比較的高率なる銷場税を課する等極力地場生産階保護に努めしに拘らず遂に閉業の已むなきに立至りし最大理由は、工場位置不良のためと言はる、即ち松花江左岸に位するがその東南部は漸次市街地として發展の趨勢を有し、他の野菜類に比し安價なる甜菜の栽培地としては僅か西北部に限られしを以て工場作業充實のためには勢ひ遠距離地帯に原料供給を仰がざるべからざりしこと之なり。

次に甜菜栽培上北滿が右の如き適地條件に合致せるものなりや否やに就ては今直ちに斷定を下すこと、不可能なるも左の理由並諸事實より推するに滿洲は略甜菜栽培に適し、而して北滿は更に好適なりと言ひ得るが如し。

- 一 北滿は概して土地肥沃なること。
- 二 雨量過多ならず、甜菜成熟期の九月、十月に入りては晴天日數多く降雨寡少なり。
- 三 日工、役畜等の勞役費低廉なること。
- 四 各期を通じ氣温略標準型に近似せること(百三十表及三十一表参照)
- 五 貯糖期に當り晝夜寒暖の差大にして貯糖作用旺盛なること。
- 六 北滿は冬期寒冷にして菜根の運搬並比較的長期貯藏に耐ゆること。



北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

一六〇

標準降水量	北海道旭川	同帯廣	同釧路	滿洲哈爾濱	同牡丹江	同牡丹	同昂昂溪	米國ミシガン	同グイスマンシン	同コロラド	同ユタ	獨逸マゲデブルグ	同ブレスラウ	典抹コベンハーゲン
九七	一四六	一五〇	三三三	二五二	二九一	三三四	一八〇	一四一	一七五	一八〇	一八八	一三三	一七六	一〇三
一〇〇	二四七	三〇〇	二六六	二九一	三三四	一〇三	一四一	一四一	一九四	一九四	一九四	一三三	一〇一	一三三
一〇〇	二四七	二四三	二八三	一八六	一〇三	一〇三	一四一	一四一	一五三	一五三	一五三	一三三	一〇一	一三三
一一一	六三六	六三六	七三三	四八八	四八八	四八八	三六八	三六八	三三三	三三三	三三三	二八三	四一六	三三三
	一〇月とし、種苗期五月六日、繁茂期七月一八月、成熟期九月一十月			期別北海道に同じ				種苗期四月上旬より六月上旬、繁茂期六月中旬より八月上旬、成熟期十月上旬に至る期間				種苗期五月一六月、繁茂期七月一八月中旬に至る、成熟期八月下旬より十月七旬に至る		

右表に依つて見るに、氣温中種苗期の最好適なるものは丁抹或は北海道にして、繁茂期の最適なるものは獨逸及北海道又成熟期の最適は米國と見らる。

ブリーム氏の標準氣温に比較するに滿洲は種苗期、繁茂期共に稍高温に失し成熟に在りては遙か低温に傾く傾向あり。

右表降水量に付き通覽するに氏の標準量に近似せるものは種苗期に在りては滿洲、獨逸、丁抹等繁茂期に在りては獨逸、丁抹、又成熟期に於ては獨逸、滿洲等なり降水量に付ては滿洲は略標準量に近似せるものにして此點甜菜栽培上大いに囑望せらる。

尚甜菜栽培に於ける有利性の一として挙げらるるは栽培後に於ける他作物の增收期待なり、左に栽培前後に於ける一般作物の收量比較を試むべし。

甜菜栽培前後に於ける他作物の收量比較

後來北滿に於ては甜菜栽培に當り施肥に關する實驗、指導の行はれしことなく、農民又施肥に關し無智なるが爲、菜根作物として肥料を多量に要するに拘はらず之に施肥せざりし結果動もすれば甜菜は徒らに畑を荒廢せしむるもの如く思惟し之が栽培を忌避する傾向なきにしも非ざるが、甜菜は本來の耕作方法に準じ栽培せらるる限り決して地力を著減せしめ或は又荒廢せしむるものには非ずして栽培前後に於ける地作物の收量比較の結果より見れば却而何れの作物に取りても好結果をもたらすこと左の如し（本社經濟調査會に依る滿洲甜菜糖工業並甜菜栽培方策より）

一 獨逸ボーレ氏に係る甜菜栽培前後に於ける各作物收量比較

(單位リブツシエル)

作物名	栽培前	栽培後	増加率	作物名	栽培前	栽培後	増加率
小麦	二四・五	四一・三	六六・六%	大豆	三三・三	四三・五	八七・五%
ライ麦	二六・四	四〇・八	五三・七%	馬鈴薯	二八・六	二六・〇	九〇%
燕麥	六・八	七・三	三・八%	菜	三・三	四・八	一四〇%

二 北海道廳の設置せる甜菜作指導農家に於ける成績(五箇年間平均)

(反當石數を示す)

作物名	A		B		作物名	A		B	
	收穫	増收率	收穫	増收率		收穫	増收率	收穫	増收率
大豆	一、三三〇石	二五・六%	一、三三〇石	二六・七%	大豆	一、三三七石	二六・七%	九六〇石	二八・九%
小麦	一、五〇〇	五〇・〇%	一、〇〇〇	三三・三%	小麦	一、四七〇	二八・九%	一、二一八	二七・二%
燕麥	三、六三三	六六・二%	二、八七二	三・六%	燕麥	一、〇九二	七九・六%	七九六	三三・三%
裸麥	一、四二六	一、一〇〇	三・六%	菜	一、〇九二	七九六	三三・三%	一、四二六	一、一〇〇

A 甜菜を輪作に入れたる畑地に於ける收量。 B 甜菜を輪作に入れざる畑地に於ける收量

### 第四節 甜菜増産對策

#### 第一項 北滿に於ける甜菜糖業の採算状態

北滿製糖康德二年度産甜菜よりの甜菜糖製造に於ける生産原價調査

(康德三年八月哈爾濱某處に於ける調査)

費目	支出金額	砂糖布度當費價	備考
原料代	三二〇、〇〇〇・八四	一・三三	康德二年度に於ける甜菜收穫高合計一、九九三、一六四布度より
種子代	一一八、七五五・四四	〇・七三	上記諸費額を以て甜菜糖合計二五一、六二三布度(六八、六九七擔)を製造せり。
直接製造費	二四三、一五五・八二	〇・六六	即ち本年度に於ける製糖歩留りは二二・六二%なり
工場修理費	四三、五五三・三三	二・六九	砂糖一布度當工場生産費並營業費は三・九三五圓となる。
其他一般諸経費	九五、八三三・五五	〇・四二	
本社營業費	一八九、七四四・〇〇	三・四一	
合計	九〇〇、〇五三・〇六	三・九五	

右表中砂糖一布度當生産費※三・九三五圓を 現在哈爾濱市砂糖卸賣相場一袋(一三五日斤)二九・〇〇圓より布度當り相場に換算せる五・八六圓に比較せば、一・九二五圓の値開きとなる。(但し之は工場生産に於ける原料其他勞賃等總て昭和十一年現在に於けると變動なきものとしての比較なり)。右表備考欄に記せし如く製糖歩留は一・六二%の比較的低率なるを以て例年の一三%以上に於ける場合を考慮せば布度當砂糖生産費には多少低下を考へらる。尙右の外本社に於ては副産物として酒精を生産し居り康德二年度産に於ては三七・七〇〇ヴニードル(@一一・三立)賣却値

北滿に於ける並麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

一六四

約一二五、〇〇〇圓を擧げ居るを以て本金額を生産支出より控除せば砂糖布度當生産費は更に低下すべし。右の如き事情を考慮するに現在の砂糖生産費には尙多分の餘裕を持つものと言ひ得べし。

註 一布度當生産費三・九三五圓に哈市阿城間の砂糖運費布度當り(貨車扱にて)三・八錢を加算す。

第二項 甜菜根買付妥當値段

右表生産支出表並に哈市砂糖卸賣相場等より原料甜菜買付可能最高値段を算出せば次の如し。

砂糖布度當生産費 3.94圓 — 原料甜菜買付可能最高値段 1.23圓 = 2.71圓  
 哈市砂糖卸賣相場 5.86圓 — 2.71圓 = 3.15圓、3.15圓 + (100 + 12.62) = 0.40圓

即ち原料甜菜一布度に對する最高買付け可能価格は四拾錢となり。千斤に付き換算せば一三・一〇圓となる。次に大豆價額を基礎とし甜菜價額を算出せん。即ち先づ甜菜栽培のための(對比大豆に於て)過剩支出部分を想定し之を大豆總收入金額に加算せるものを以て甜菜响當り當然總收入と見做す。換言すれば、高低常なき市場相場各價格に對する大豆每响收支損益を甜菜に於ける損益金額として甜菜生産費に連繫せしものなり。右の様式に依る計算に於ては大豆の平年收量、並甜菜平年收量等更に又甜菜の大豆に對する過剩支出に就ても各地に依り異なるを以て左表に示せし如く、各場合に就き分類をなす要あるべし。尙甜菜栽培に於ける過剩支出(大豆に比し)は大體平均的數字に依り、大豆の七五・〇〇圓に對する一二五・〇〇圓、即ち差額五〇・〇〇圓を以て推定せり。(本書三二頁並九七頁)

第三百三十二表 大豆價格を基礎とする甜菜當然價格

大豆(百斤當)六〇(七三三に付)收	大豆(响當)八二(九七三に付)收	甜菜栽培の過剩支出	甜菜栽培一响當り當然收入	甜菜收量平均每响壹萬斤以上のもの	甜菜收量平均每响壹萬五千斤以上のもの	甜菜收量平均每响壹萬斤以上のもの
大豆平均收量五舊石。即ち一、〇八二(舊石)三石(七二・一)なる場合。	大豆平均收量五舊石。即ち一、〇八二(舊石)三石(七二・一)なる場合。	五・〇〇	一三・一五	一三・一五	一三・一五	六・六六
大豆平均收量四・五舊石。即ち九七三(舊石)に於ける場合。	大豆平均收量四・五舊石。即ち九七三(舊石)に於ける場合。	五・〇〇	一三・一五	一三・一五	一三・一五	六・六六
大豆平均收量四・〇舊石。即ち八八二(舊石)に於ける場合。	大豆平均收量四・〇舊石。即ち八八二(舊石)に於ける場合。	五・〇〇	一三・一五	一三・一五	一三・一五	六・六六
大豆平均收量三・五舊石。即ち七八一(舊石)に於ける場合。	大豆平均收量三・五舊石。即ち七八一(舊石)に於ける場合。	五・〇〇	一三・一五	一三・一五	一三・一五	六・六六
大豆平均收量三・〇舊石。即ち六八〇(舊石)に於ける場合。	大豆平均收量三・〇舊石。即ち六八〇(舊石)に於ける場合。	五・〇〇	一三・一五	一三・一五	一三・一五	六・六六
大豆平均收量二・五舊石。即ち五七九(舊石)に於ける場合。	大豆平均收量二・五舊石。即ち五七九(舊石)に於ける場合。	五・〇〇	一三・一五	一三・一五	一三・一五	六・六六
大豆平均收量二・〇舊石。即ち四七八(舊石)に於ける場合。	大豆平均收量二・〇舊石。即ち四七八(舊石)に於ける場合。	五・〇〇	一三・一五	一三・一五	一三・一五	六・六六
大豆平均收量一・五舊石。即ち三八七(舊石)に於ける場合。	大豆平均收量一・五舊石。即ち三八七(舊石)に於ける場合。	五・〇〇	一三・一五	一三・一五	一三・一五	六・六六
大豆平均收量一・〇舊石。即ち二八六(舊石)に於ける場合。	大豆平均收量一・〇舊石。即ち二八六(舊石)に於ける場合。	五・〇〇	一三・一五	一三・一五	一三・一五	六・六六
大豆平均收量〇・五舊石。即ち一八五(舊石)に於ける場合。	大豆平均收量〇・五舊石。即ち一八五(舊石)に於ける場合。	五・〇〇	一三・一五	一三・一五	一三・一五	六・六六
大豆平均收量〇・〇舊石。即ち八四(舊石)に於ける場合。	大豆平均收量〇・〇舊石。即ち八四(舊石)に於ける場合。	五・〇〇	一三・一五	一三・一五	一三・一五	六・六六

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

50.00	81.08	50.00	131.08	131.11	8.74	6.56
52.00	82.33	"	132.33	132.33	8.96	6.73
54.00	83.57	"	133.57	133.57	9.17	6.88
56.00	84.81	"	134.81	134.81	9.39	7.04
58.00	86.06	"	136.06	136.06	9.60	7.21
60.00	87.30	"	137.30	137.30	9.82	7.37

哈市相場に價格の基礎を置きたるは、大豆價格を基礎とする亞麻標準價格算出の項に述べたと同様に因る。

右表◎印は現在相場（康德五年二月末）に於ける甜菜根收量一五、〇〇〇斤乃至二〇、〇〇〇斤の場合の當然買付價格を示すものなり。即ち平年收量大豆四・五舊石の地に於ては本年度（康德五年度）甜菜買付値段は每千斤六・三〇圓乃至八・三〇圓見當なり。尤も過剰支出五〇・〇〇圓は甜菜每响收量略二〇、〇〇〇斤としての計算なるを以て寧ろ每千斤七・〇〇圓程度と見るを妥當とすべし。即ち每布度二三錢なり。

平年收量五舊石の地に於ては本年度（康德五年度）甜菜買付値段は每千斤六・七〇圓乃至九・〇〇圓を妥當とす。但先述せると同様の理由により大體每千斤七・二〇圓程度を以て最も妥當なる値段と推定す。（勿論、市場運費補助其の他奨励金等を考慮せば實際買付値段は右金額に比しそれだけ低額にて、平均的妥當値段たり得べし）。

參考迄に於ける哈市輸入糖輸入原價を算出し、右の計算に基く北滿製糖生産砂糖原價に對比せば左の如し。

日斤百斤當り日本甘蔗糖輸入採算（康德五年二月末現在）

大連淨渡し 百斤	九・五〇圓
貨車乗り接續費	〇・三圓
輸入税額	八・七〇圓
大連—哈市運費（貨車扱）	一・六六圓
合 計	一九・八九圓 布度にて五・四三圓なり。

之を北滿製糖生産砂糖原價三・九七三圓（阿城—哈市運費を含む）に比較せば一、四五七圓の差額となる（本年度新施行契約に基く响當收支計算は第一〇五頁参照）尙康德五年一月一日改正實施せられし滿洲國砂糖輸入税新舊比較を示せば次の如し。

康德五年一月一日改正砂糖輸入税新舊稅率比較

白砂糖（ザラメ糖を含む）新舊稅率（新舊共一〇〇厘に付）	
和蘭色素標準一號未滿	六・四四圓（舊）
（普通粗糖と稱せらる）七・五〇圓（新）	
同 一二號未滿	八・一〇圓—九・八三圓（舊）
同 二三號以上	九・八三圓（舊）
註 舊稅率中一七號未滿一二號に至るものに對しては八・一〇圓なりき。	
角砂糖、冰糖新舊稅率（新舊共一〇〇厘に付）	
角砂糖	三二・八五圓（舊）
冰糖	一九・六四圓（舊）

普通精製白糖並更目糖と稱せらるるものは二三號以上のもの多し隨つて車糖、白雙目糖等に於ける新舊稅率比較は九・八三圓に對し一四・五〇圓となり布度當り・七六圓。百斤（新滿斤）當り二・三四圓の引き上げとなれり。製糖歩留を一四%とし原料甜菜に換算せる場合の引上率を見れば甜菜布度當り・一〇六圓となり、百斤當り・三二八圓となる。

當局者の談に依れば角砂糖に於ける百斤當 一二・八五圓の引下げは、從來角砂糖に對する課稅高率に過ぎ密輸入數量相當に上りしを以て之が防止手段の一として右の如く改正せるものなりと云ふ。

### 第三項 甜菜増産獎勵具體案

製糖工業助成方策に順應し、工場全能力發揮に充分なる原料甜菜を供給せしめ、一方農家收支の好轉を齎す爲めには、甜菜品質の向上を計り生産量増加（面積に於ても又増當收量に於ても）を期すこと肝要なり。

前述せる如く製糖會社當局に在りては右の必要上種々増産獎勵、作付响數増加等の策を講じ居るも、結局昨年度迄の實狀は甜菜栽培は耕作に勞多くして利少なしとの理由にて農民間には動もすれば之が栽培を嫌忌する傾向見受けられたり、從て爲政當局者の誘掖を俟つて、優良適品種の選擇、又經濟的試驗考照の結果充分なる給肥宜きを得、一方當事者の甜菜栽培に於ける技術指導の徹底を期し、同時に甜菜根買付に於ける妥當なる値段の契約を受くること緊要なるべし。現在北海道製糖會社に於て實施され居る諸獎勵策に準じ増産獎勵私案を列記せば次の如し。

一 各縣に駐在する農事指導員に依り、部落を單位とする改良組合を組織し、耕種肥培の改善を圖り、講習、講話

品評會並組合長會議を隨時隨所に開催し之が指導獎勵に精進すること。

一 政府五箇年増産計畫中に糖業獎勵費を計上し、肥料及改良農具購入補助、運搬費（鐵道輸送等に依る）及原料損耗補助等助成金を交附し、亦一方製糖會社側に在りては割増金（各種）及耕作獎勵金の交附、運搬費補助、共進會、品評會等開催に於ける助成、耕作資金の無利子融通を圖り、病虫害防除に對しては所要藥劑の無償交付等を実施し、以て之が栽培興隆に努むること。

尙右の如き獎勵助成の内容を有する同社に於ける昭和十一年度甜菜栽培契約條件要項を參考迄に期せば次の如し。

一 甜菜買入價額 正味一千斤（一斤一六〇匁）に付き、會社指定場所渡金五圓他に割増金千斤に付き・五〇圓、計五・五〇圓。

二 甜菜耕作獎勵金 反當金・五〇圓

道廳肥料補助面積に準じ計算す。甜菜耕作獎勵金及割増金は褐斑病の豫防を所定の期間内に二回以上勵行せず又會社より配給の肥料並に藥劑を他に使用したる場合は之を交付せず。

三 甜菜種子價格 一反歩分金・四〇圓とす。

四 甜菜肥料價格

甲地帯（根室釧路原野及之に準ずる地帯を除く從來の栽培地帯） 一反歩分五・八〇圓  
乙地帯（根釧原野及之に準ずる地帯） 一反歩分五・五〇圓



北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

一七〇

一反歩分施肥料		一反歩分施肥料	
甲地帯		乙地帯	
重過磷酸石灰	四貫百五拾匁	精過磷酸石灰	九貫匁
硫酸アンモニヤ	二貫四百匁	硝石	七貫匁
硝石	九貫匁		
合計	十三貫五百五拾匁		

本肥料他作物に使用したる者には道廳肥料補助金、增收獎勵金並會社甜菜買入割増金、甜菜耕作獎勵金等交付せず。

五 道廳補助獎勵金

イ 肥料補助 甲地帯 反當 三・八〇圓

乙地帯 反當 四・五〇圓

補助金は實測面積に依り交付す

ロ 甜菜の搬出費補助

三里以上の搬出費に對し、一里に付き毎千斤・三〇圓以内（里數増加毎に補助率を減減す）

ハ 增收獎勵金。部落を單位とし、三段の增收獎勵標準斤量を定め、その部落の平均反當收量が右標準斤量を超過したる際は補助面積（肥料の）に應じ、村農會を通じ、甜菜係を設置する農事實行組合に左記の如く交付さ

る。甜菜實測面積が獎勵面積に達せざる部落には本獎勵金減額を受け、又は交付せざることあるべし。

第一段 標準斤量を超過すること一割に達したりと認めらるゝもの 反當五十錢

第二段 同 二割同 反當一・〇〇圓

第三段 同 三割同 反當二・〇〇圓

ニ 增收目標獎勵金。（乙地帯には之を適用せず）

各市町村區域を單位とし既往の實績や天然要素を考慮し反當成績に依り四階段に分ち將來五箇年間に於て其の目標斤量に達するものと認めたる場合は左記の如く市町村農會に對し目標獎勵金を交付す。但し實測面積三十町歩未滿の市町村には適用せず。又耕作實測面積が獎勵面積に達せざる場合には本獎勵金を減額す。

本獎勵金は甜菜增收施設に充當すべし。

一級（五千斤以上の市町村）目標斤量一萬斤 反當 一〇・〇〇圓

二級（四千斤未滿の市町村）同 八千斤 反當 五・〇〇圓

三級（四千斤未滿の市町村）同 六千斤 反當 五・〇〇圓

四級（三千斤未滿の市町村）同 五千斤 反當 五・〇〇圓

ホ 農具補助

甜菜係を設置する農事實行組合にして甜菜耕作のため新土犁、深耕犁、整地器、噴霧器及中耕除草器の共同購

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の大豆、小麦に對する採算比較

入をなす際は三割以内又は五割以内の補助金を交付す。

六 會社補助

イ 甜菜耕作獎勵金（農會に交付）農會が甜菜栽培を獎勵し昭和十一年度獎勵面積に達したときは左記の如く會社より農會へ獎勵金を交付す。甜菜増收施設に充當するものとす

耕作實測面積	町當獎勵金	
	甲獎勵地帯	乙獎勵地帯
五十町歩以内	一・〇〇圓	一・三〇圓
五十一町歩より百町歩迄を加ふる毎に	・八〇圓	一・〇〇圓
一百町歩より三百町歩迄を加ふる毎に	・五〇圓	・六〇圓
三百一町歩を加ふる毎に	・二〇圓	・二五圓
但し總額二百五十圓限度とす		

ロ 組合費補助 一組合に對し金七・〇〇圓（但し甜菜係の組合員十戸未滿は五・〇〇圓とし、五戸未滿は補助なし）。

ハ 病虫害防除補助 甜菜病虫害防除に要する藥品は必要に應じ無償供給す。

甜菜栽培要領（滿洲製糖に於ける農民栽培指導のため發行せる滿文甜菜耕作案内書を翻譯せるものなり）

(一) 耕地の撰擇方法

普通大豆、粟、高粱等耕作に適する地にして排水良好なる肥沃なる地を撰ぶこと。

(二) 輪作關係

甜菜の前作物としては大豆最も適す。甜菜栽培後は粟、麥類之に適す。

甲 大豆、甜菜、小麦（又は谷子）

乙 大豆、甜菜、陸稻（又は高粱）

四年乃至五箇年間は同一地に甜菜を栽培せざること。

(三) 肥料

土糞二萬斤程度使用

硫酸アンモニヤは幼苗の生育に役立つものなり。採種前邊地の際之を施すべし。種子に直接接觸せば種子の發芽能力を減退せしむることあるに付注意を要す。

(四) 播種

播種早き程收量大なりと言はるれば、小麦播種直後頃播種するを可とす。

1 邊地の後木轆子にて鑿を良く鎮壓すべし。

2 轆肥を以て鑿に溝を掘り、それに播種し直ちに拉子を以て覆土すべし。播種は手播きのこと。覆土の厚さは一寸以内を適當とす。點種は絶対に避くること。

3 土地乾燥せる後轆子にて再鎮壓すべし。

(五) 間引き

間引作業は若葉未だ二葉乃至四葉内になし、絶體に遅るべからず尙間引き作業には本社配布の間引機具使用を便とす。苗と苗との間隔は六輻にして株は各々一本なること。間引作業は一回にて足り、完全を期すこと。

(六) 除草及中耕

播種後間もなく雑草の發生あらば、間引作業にても一回除草すべし。中耕作業は七月中旬迄に少くとも四回に亘り之をなすこと。中耕作業は大雨の後之をなすを最適とす。

(七) 收穫

甜菜の抜き取り後は莖葉を根冠部より切斷し之を畑地中に埋藏するか或は又畑地に堆積したる上莖葉又は土を以て被覆し置き會社よりの受渡期通知を待ち搬出すべし。

昭和十三年十月十五日印刷

昭和十三年十月二十五日發行

北滿調査刊行書第二十五號

北滿に於ける亞麻並甜菜栽培の  
大豆、小麦に對する採算比較

(非賣品)

哈爾濱道裡斜紋四路街一號

著 者 人 阿 部 武 志

哈爾濱南崗大直街八八號 ホテル、ニユーハルビン

發 行 人 野 中 時 雄

哈爾濱通道街六順街一九號

印 刷 人 貞 永 綠

哈爾濱通道街六順街一九號

印 刷 所 滿 鐵・哈爾濱印刷所

哈爾濱南崗大直街一三五號

發 行 所 滿 鐵・北滿經濟調査所

14.5  
756